

昭和62年版

数字で見る図書館活動

調布市立図書館

図書館の自由に関する宣言

図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もっとも重要な任務とする。

この任務を果たすため、図書館は次のことを確認し実践する。

- 第1 図書館は資料収集の自由を有する。
- 第2 図書館は資料提供の自由を有する。
- 第3 図書館は利用者の秘密を守る。
- 第4 図書館はすべての検閲に反対する。

図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。

社団法人 日本図書館協会

(1979年5月30日総会決議 <改訂> 主文)

図書館員の倫理綱領

この倫理綱領は、「図書館の自由に関する宣言」によって示された図書館の社会的責任を自覚し、自らの職責を遂行していくための図書館員としての自律的規範である。

(図書館員の基本的態度)

第1 図書館員は、社会の期待と利用者の要求を基本的なよりどころとして職務を遂行する。

(利用者に対する責任)

第2 図書館員は利用者を差別しない。

第3 図書館員は利用者の秘密を漏らさない。

(資料に関する責任)

第4 図書館員は図書館の自由を守り、資料の収集、保存および提供につとめる。

第5 図書館員は常に資料を知ることにつとめる。

(研修につとめる責任)

第6 図書館員は個人的、集団的に、不断の研修につとめる。

(組織体の一員として)

第7 図書館員は、自館の運営方針や奉仕計画の策定に積極的に参画する。

第8 図書館員は、相互の協力を密にして、集団として専門的能力の向上につとめる。

第9 図書館員は、図書館奉仕のため適正な労働条件の確保につとめる。

(図書館間の協力)

第10 図書館員は図書館間の理解と協力につとめる。

(文化創造への寄与)

第11 図書館員は住民や他団体とも協力して、社会の文化環境の醸成につとめる。

第12 図書館員は、読者の立場に立って出版文化の発展に寄与するようにつとめる。

日本図書館協会は、わが国の図書館の現状にかんがみこの倫理綱領を作成し、提唱する。本協会はこの綱領の維持発展につとめると共に、この綱領と相いれない事態に対しては、その改善に向けて不断に努力する。

社団法人 日本図書館協会

(1980年6月4日総会決議)

昭和62年版

数字で見る図書館活動

目 次

I 調布市の概況	4
1. 人 口	4
2. 財 政	9
II 図書館の概況	14
1. 運営方針	14
2. 昭和61年度図書館重点事業	14
3. 図書館配置図	15
III 各館の概況	18
1. 中 央 館	18
2. 国 領 分 館	20
3. つつじヶ丘分館	22
4. 深大寺分館	24
5. 神代分館	26
6. 宮の下分館	28
7. 緑ヶ丘分館	30
8. 富士見分館	32
9. 若葉分館	34
10. 染地分館	36
11. 佐須分館	38
IV 各館の事業	40
V 図書館の動き	45
1. 蔵書状況	45
2. 登録状況	49
3. 市内小中学生の登録状況(昭和59年度調査結果)	61
4. 貸出状況	73

VI ハンディキャップサービス	80
1. 朗読サービス	80
2. 点訳サービス	83
3. その他の状況	83
4. PR活動	83
5. ボランティアの養成	84
VII 集会・学習活動	85
1. 集会・学習活動の状況	85
2. 行 事	85
3. 図書館まつり	87
4. 調布ブッククラブ	89
5. 地域文庫	96
VIII 視聴覚ライブラリー	97
1. 事 業	97
2. 視聴覚機材・教材の利用状況	97
IX そ の 他	100
1. 将来計画と新中央館構想	100
2. 貸出制度と開館時間	102
3. 運営組織(条例, 館則, 規則, 基準等)	104
4. 事務分掌表	113
5. 各館別施設概況	115
X 年 表	116

I 調布市の概況

昭和30年4月、北多摩郡下の調布町と神代町が合併し、人口4万5千余人の調布市が誕生した。調布市の歴史は自然が与えた野川沿いに始まる。そこは、先人が残した遺物が数多く発見され、縄文時代中期の土器も出土している。奈良時代の万葉集には、『多摩川にさらす手づくりさらさらになにそこの児のここだ愛しき』とうたわれた。今も残る布田・染地といった地名が、当時の人々の生活を象徴的にうつつだしている。更に江戸時代になると、甲州街道(国道20号)沿いに宿場が設けられ、当時は「布田五宿の貸座敷」として有名であった。

現在の調布市は、東京都のほぼ中央部、多摩地区の南東部に位置し、都心部へ約24kmの距離にある。市の東西方向には京王線(私鉄)と甲州街道が走り、ほぼ北東から西南にかけては中央自動車道が横断している。副都心新宿へも、東へ15km、京王線の特急で15分という典型的な近郊住宅都市である。

地形は、南端の多摩川付近の低地から北に向かうに従って高台となる段丘で、武蔵野台地と立川台地の上に広がっている。北部の深大寺付近は、武蔵野の面影を残す絶好の住宅地である。



1 人口

人口の分布状況を町別にみると、甲州街道と京王線に沿って市街地を形成している地域(小島町、布田、仙川町等)、新しく集合住宅の建設によって形成された住宅地域(染地、西つつじヶ丘、緑ヶ丘等)、そして、その2つが重ね合わされて人口密度のかなり高い所を含む地域(国領、多摩川等)などに分けられる。近年は、首都圏に共通する宅地化の波と、道路の整備、バス路線の充実もあって、人口分布も全市的に拡大されつつある。(表I-1)

人口の異動は、このところ続いていたほぼ安定横ばいが、大学の多摩地区への移転、副都心新宿への都庁移転計画などで、東京西部の住宅需要が高まっているためか、若干の増加傾向が見られる。男女比は、男が漸増で現在は6千人余の増となっている。(表I-2)(図I-2)人口構成を約10年前と比較すると、老年層の増加、第1次ベビーブーム世代の幼児の減少などが見られ、若い生産年齢人口が多いことを示す星型から、このままの出生率・死亡率が続けば、将来人口が減り始めることを暗示するつぼ型へと変化しつつある。(図I-1)

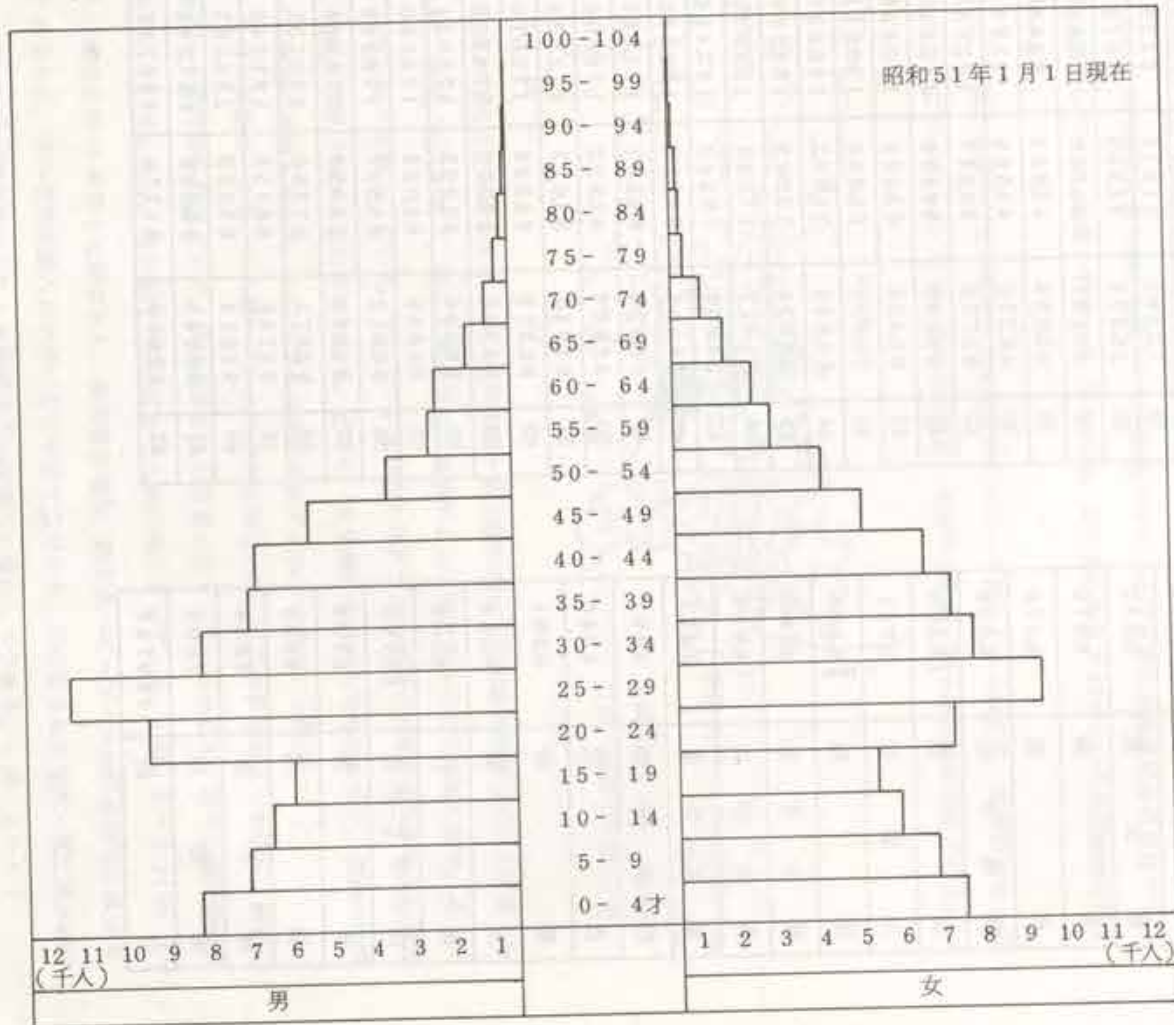
町別人口(S.62.1.1.現在)
(表I-1)

町名	人口
飛田給(野水・西町を含む)	6,058
上石原	8,294
下石原	7,856
多摩川	10,806
富士見	9,612
小島	8,470
布田	9,270
調布ヶ丘	6,686
国領	19,303
八雲台	2,721
染地	15,438
深大寺元	4,795
深大寺北	5,637
深大寺東	9,223
深大寺南	3,097
佐須	4,946
柴崎	6,691
入間	6,954
東つつじヶ丘	4,540
西つつじヶ丘	13,700
若葉	5,136
仙川	4,935
緑ヶ丘	7,889
菊野台	7,690
合計	189,747

調布市の人口推移表 (表I-2)
(数値は1月1日現在)

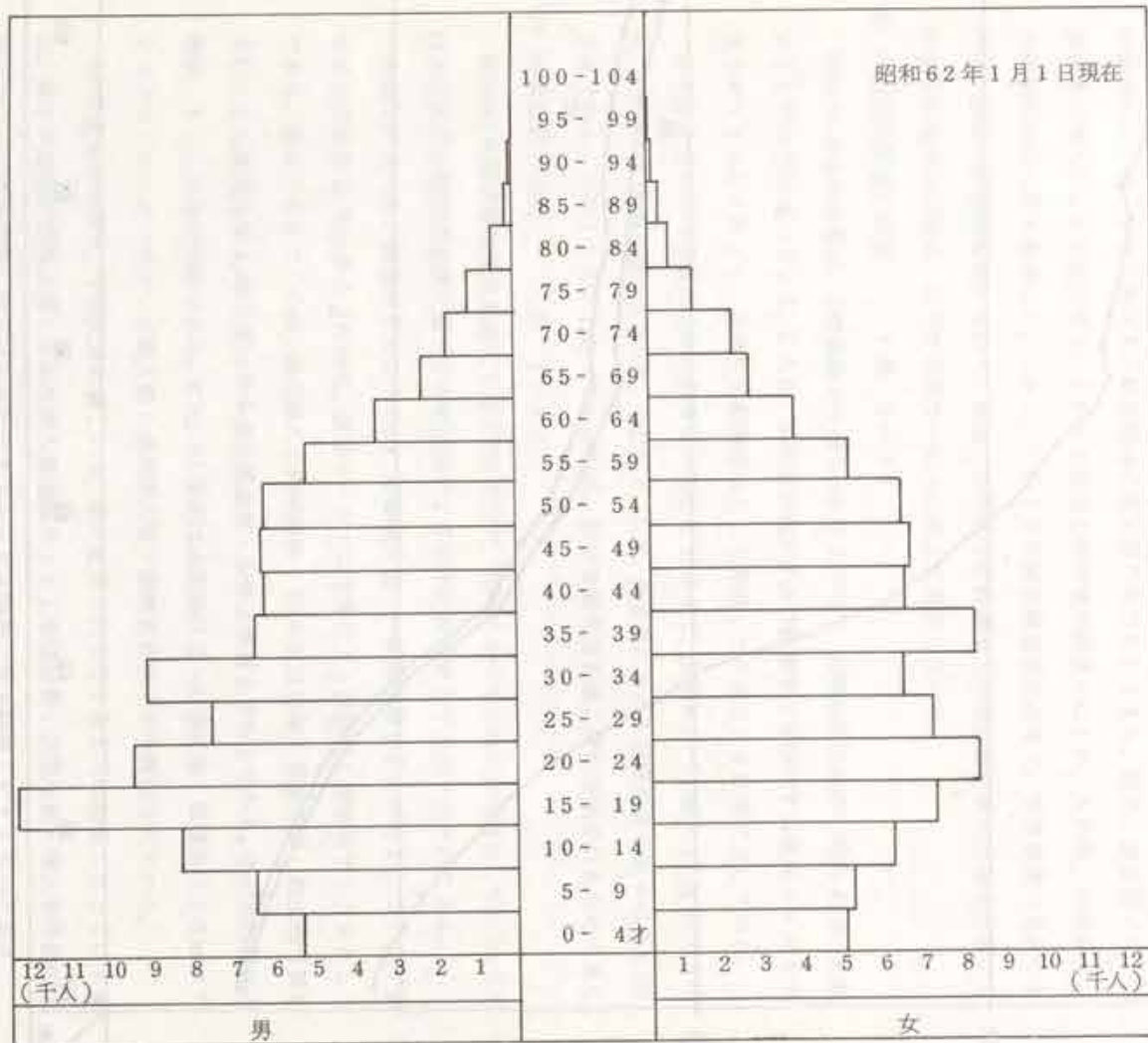
	男	女	合計
S30	22,755	22,335	45,090
31	23,816	23,255	47,071
32	25,783	25,208	50,991
33	27,594	26,904	54,498
34	30,584	29,315	59,899
35	32,385	31,910	64,295
36	35,425	34,369	69,794
37	39,107	36,760	75,867
38	42,854	40,634	83,488
39	48,278	45,566	93,844
40	52,736	50,247	102,983
41	61,145	58,499	119,644
42	67,434	65,024	132,458
43	70,951	68,860	139,811
44	74,545	71,992	146,537
45	78,336	75,203	153,539
46	81,417	77,609	159,026
47	83,201	79,243	162,444
48	86,514	82,116	168,630
49	88,094	83,187	171,281
50	87,684	82,922	170,606
51	87,819	83,613	171,432
52	88,272	84,338	172,610
53	89,305	85,200	174,505
54	89,806	85,225	175,031
55	89,655	85,035	174,690
56	90,612	85,537	176,149
57	91,863	86,951	178,814
58	92,971	87,760	180,731
59	93,789	88,153	181,942
60	94,914	89,339	184,253
61	96,645	90,599	187,244
62	97,977	91,770	189,747

年齢別・男女別の人口構成 (図1-1)



年齢	性別	男	女
95-99	男	2	8
96-94	男	14	39
85-89	男	67	183
80-84	男	248	426
75-79	男	583	862
70-74	男	1,039	1,304
65-69	男	1,594	1,809
60-64	男	2,237	2,548
55-59	男	2,500	2,949
50-54	男	3,491	4,023
45-49	男	5,452	5,143
40-44	男	6,804	6,605
35-39	男	7,030	7,261
30-34	男	8,161	7,880
25-29	男	11,315	9,522
20-24	男	9,519	7,270
15-19	男	6,928	5,313
10-14	男	6,433	5,966
5-9	男	7,184	6,958
0-4才	男	8,218	7,544

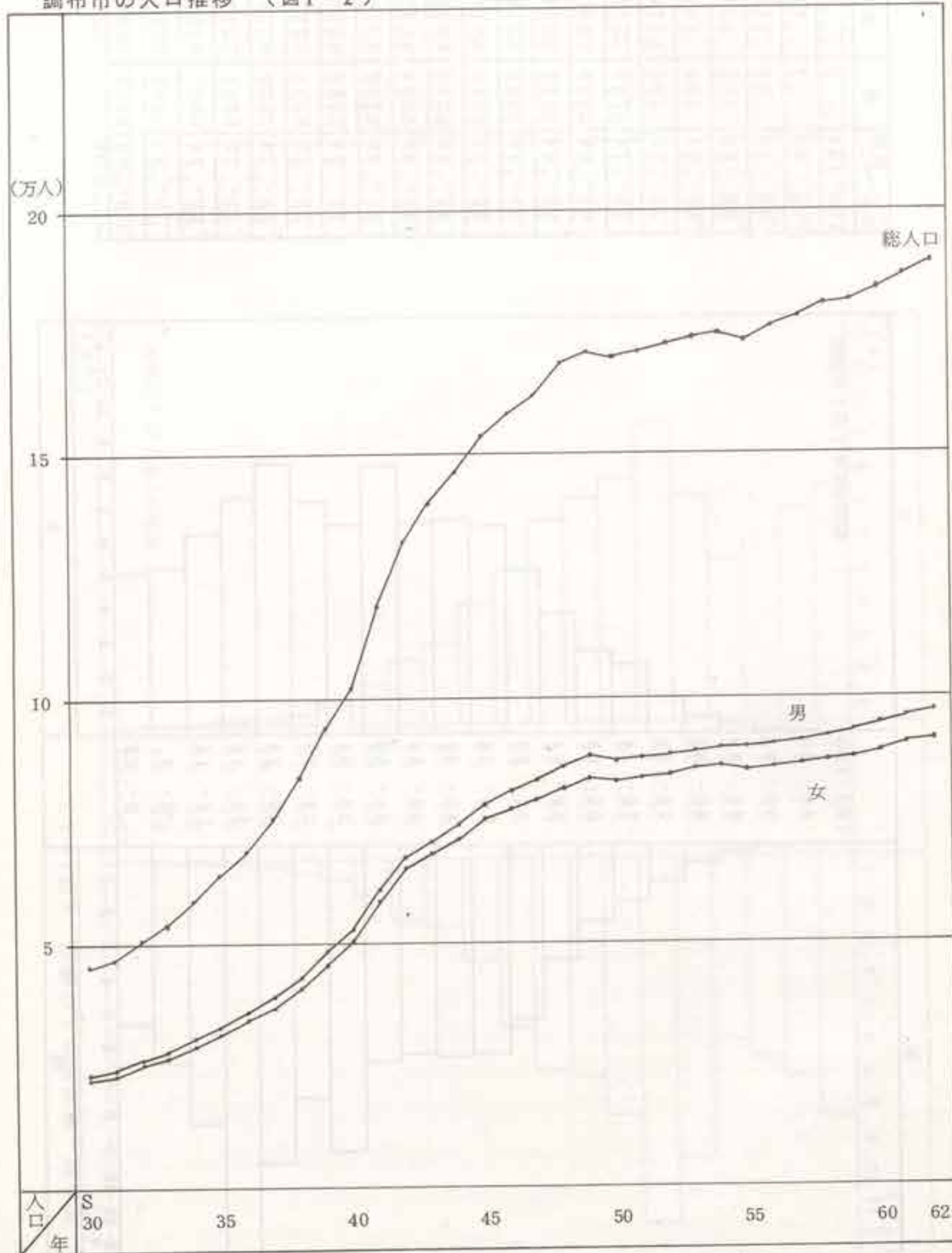
- 9 -



年齢	性別	男	女
100-104	男	0	3
95-99	男	7	14
90-94	男	48	115
85-89	男	202	421
80-84	男	592	862
75-79	男	1,180	1,578
70-74	男	1,743	2,243
65-69	男	2,236	2,860
60-64	男	3,511	3,974
55-59	男	5,212	5,274
50-54	男	6,310	6,616
45-49	男	6,248	6,896
40-44	男	6,524	6,732
35-39	男	9,106	8,250
30-34	男	7,688	6,526
25-29	男	9,511	7,282
20-24	男	12,229	8,324
15-19	男	8,321	7,351
10-14	男	6,540	6,136
5-9	男	5,341	5,257
0-4才	男	5,428	5,056

- 2 -

調布市の人口推移 (図1-2)



2. 財 政

わが国経済は、回復の過程にあるとはいえ、円高不況など基本的には低成長の基調にある。国の62年度一般会計予算は厳しい財政難の中で、赤字国債減額の優先、補助金の総合的見直しなどの歳出抑制策を打ち出し、5年連続の一般歳出超緊縮型の予算編成となった。

一方、東京都においては、行政改革の名の下に市町村への業務移管などによる負担の軽減化と財源の重点配分に徹する中で、マイタウン東京の実現のための折り返し点にかかっている。

調布市においても、国・都から少なからず影響を受け、財政的に苦しい実情にある。収入の大半を占める市税は、経済情勢から自然増収はあまり期待できず、収益事業その他の収入も伸び悩みの状態にある。また、59年度からは地方交付税不交付団体の指定を受けるなど厳しい財政事情のもとで、市税の徴収など財源確保に最大限の努力をしてきた。他方、歳出面では、行政需要の増大による施設の増加、これらの施設の維持管理経費をはじめ、人件費、公債費などの義務的経費は年々累増した。しかし、このような財政構造悪化の中で、事務事業の見直しを行い、経費の徹底的節減に努めて、健全で効果的な財政運営と長期計画(第三次基本計画の3年次)の着実な実施で、公平な市民サービスの向上に努力している。

(1) 年度別決算額の推移 (表 1-3)

昭和61年度決算額は、市費総額376億5,666万2千円で、図書館開設当時の昭和41年と比較すると17.8倍になっている。これは、調布市が増大する行政需要と多様化する住民ニーズを充足させてきたことにより、着実に首都圏都市として発展してきたことを如実に示している。

本年度決算の中で市費に占める教育費の割合は15.8%で、前年に比べて額で13億99万5千円、率において18%の減少であった。その中で、市費、教育費に占める図書館費の割合は各0.5%、3%である。前年より若干上向っているのは、新中央館用図書購入費が増額されたためである。

(2) 図書館費の内訳 (表 1-4)

昭和61年度図書館費決算額は1億7,853万円で、前年に比べて2,249万円増加している。これは主に新中央館用図書購入費(5ヶ年計画による初年次購入費2千万円)のためである。

各節毎に比べると増加が目につくのは、図書購入費・一般需用費(『この本よんで!』、『調布市立図書館20年の歩み』印刷代、複写サービスの予算化)と役務費(講演会テープおこし)である。減少が目につくのは、備品購入の機械器具(60年度は高架下書庫空調・除湿機予算を含む)と工事請負費(60年度は中央館外壁塗装・改修工事費を含む)である。その他は僅かな増減、もしくはほぼ同額である。また、61年度は点訳奉仕者への謝礼金(報償費)と8mmビデオカメラ・モニター用テレビ購入費(備品購入費・視聴覚教材)が予算化されている。

62年度当初予算で、予算配分の難しい中、前年度比で約3千5百万円の増額となっているのは、新中央館用図書購入費(2年次購入費増額分)と工事請負費(国領分館・深大寺分館の改修工事)、一般需用費(新たに3分館で複写サービス開始に伴う経費)によるものである。

年度別決算額の推移 (表1-3)

科目	年度	40	41	42	49	50	51	52
市費総額		1,729,966	2,111,464	2,355,029	1,481,906	1,644,076	1,812,750	2,094,241
指数			100	112	692	778	859	892
教育費		468,770	486,168	574,563	4,090,834	5,484,729	4,196,469	3,480,825
指数			100	118	841	1,128	863	716
市費に占める割合			23.0%	24.4%	28.0%	33.3%	23.1%	16.6%
図書館費		18,960	5,914	5,946	173,055	64,615	53,695	68,539
(図書費)			2,044	2,946	40,083	26,225	17,577	20,227
(建設費)		17,348	0	0	100,689	0	0	0
(その他)			3,870	3,000	32,283	38,390	36,118	48,312
指数			100	101	29.26	1.092	908	1,159
市費に占める割合			0.3%	0.3%	12%	0.4%	0.3%	0.3%
教育費に占める割合			1.2%	1.0%	42%	1.1%	1.3%	2.0%
人口		119,644	132,458	139,811	170,606	171,432	172,610	174,505
指数			100	106	129	129	130	132
人口一人当り								
市費		14,459	15,940	16,844	85,689	95,903	105,020	120,010
教育費		3,918	3,670	4,110	23,978	31,994	24,311	19,947
図書館費		158	45	43	1,014	377	311	393
図書購入費			15	21	235	153	102	116
図書館分館開館時			中央		富士見・緑ヶ丘	若葉		

書籍平均単価		885	883	2,293	2,394	2,301	2,348
--------	--	-----	-----	-------	-------	-------	-------

- ・図書費に職員の給与等人員費は含まれていない。
- ・人口は1月1日現在。
- ・44年度国領分館開館、45年度つつじヶ丘分館開館、46年度深大寺・神代分館開館。
- ・書籍平均単価は『出版年鑑』(出版ニュース社)による。
- ・40、41年度は開館準備年度と開館年度にあたる。

(単位 千円)

53	54	55	56	57	58	59	60	61
21,746,176	24,331,014	26,876,122	30,229,207	31,855,245	32,295,852	34,544,398	37,006,648	37,656,662
1030	1153	1273	1431	1509	1530	1636	1753	1783
4,532,321	4,647,420	5,126,437	6,195,692	4,802,891	5,259,307	6,000,325	7,249,014	5,948,019
932	956	1,054	1,274	988	1,082	1,234	1,491	1,223
208%	19.1%	19.1%	20.5%	15.1%	16.3%	17.4%	19.6%	15.8%
83015	134,977	91,971	275,630	127,283	120,476	176,760	156,042	178,534
22,004	55,242	35,314	58,291	51,898	53,959	49,990	49,955	73,139
0	0	0	15,154	0	0	49,350	0	0
61,011	79,735	56,657	65,791	75,385	66,517	77,420	106,087	105,395
1,404	2,283	1,555	4,661	2,152	2,037	2,989	2,741	3,019
0.4%	0.6%	0.3%	0.9%	0.4%	0.4%	0.5%	0.4%	0.5%
1.8%	2.9%	1.8%	4.4%	2.7%	2.3%	2.9%	2.2%	3.0%
175,031	174,690	176,149	178,814	180,731	181,942	184,253	187,244	189,747
132	132	133	135	136	137	139	141	143
(単位 円)								
124,242	139,281	152,576	169,054	176,258	177,506	187,484	197,639	198,457
25,894	26,603	29,103	34,649	26,575	28,907	32,566	38,714	31,347
474	772	522	1,541	704	662	943	833	941
126	316	200	326	287	297	267	267	385
		染地		佐須		(資料保存庫)		

(単位 円)

2386	2483	2635	2754	2712	2740	2751	2833	2521
------	------	------	------	------	------	------	------	------

図書館費内訳表 (表I-4)

節	年度	57年度		58年度	
		決算額	百分比	決算額	百分比
報酬		450,000	0.35	450,000	0.37
賃金		546,600	0.43	2,689,170	2.23
報償費		3,970,300	3.12	3,942,400	3.27
旅費		337,000	0.26	333,770	0.28
一般需用費		28,340,439	22.27	29,770,812	24.71
食糧費		45,660	0.04	45,910	0.04
役務費		1,565,650	1.23	2,144,173	1.77
委託料		20,087,108	15.78	21,475,621	17.83
使用料及び賃借料		424,320	0.33	443,070	0.37
工事請負費		14,818,000	11.64	894,000	0.74
原材料費		148,900	0.12	117,150	0.10
備品購入費		56,439,480	44.34	58,077,697	48.21
(図書)		(51,897,760)	(40.77)	(53,958,935)	(44.79)
(機械器具)		(77,000)	(0.06)	(577,500)	(0.48)
(視聴覚教材)		(2,257,000)	(1.77)	(2,253,750)	(1.87)
(庁用器具)		(2,207,720)	(1.74)	(1,287,512)	(1.07)
負担金、補助及び交付金		100,320	0.08	83,040	0.07
補償、補填及び賠償金		0	0	0	0
投資及び出資金		0	0	0	0
公課費		8,800	0.01	8,800	0.01
合計		127,282,577	100	120,475,613	100

()内は内訳

(単位 円)

59年度		60年度		61年度		62年度当初予算
決算額	百分比	決算額	百分比	決算額	百分比	
0	0	0	0	0	0	0
2,694,700	1.52	2,465,738	1.58	2,604,390	1.46	2,588,000
4,233,340	2.39	3,937,300	2.52	4,995,592	2.8	7,112,000
322,290	0.18	270,650	0.17	268,570	0.15	938,000
32,380,995	18.32	32,771,922	21.00	34,708,029	19.44	37,136,000
42,500	0.02	42,240	0.03	42,120	0.02	74,000
2,005,720	1.14	1,965,581	1.26	3,292,902	1.84	3,778,000
29,066,731	16.45	28,569,317	18.31	30,588,614	17.13	26,959,000
487,530	0.28	723,650	0.46	1,726,620	0.97	2,861,000
51,245,000	28.99	12,384,000	7.94	9,925,000	5.56	30,579,000
98,550	0.06	100,650	0.06	129,480	0.07	163,000
54,091,419	30.59	72,740,925	46.62	90,089,352	50.46	101,350,000
(49,990,159)	(28.28)	(49,954,880)	(32.01)	(73,138,752)	(40.96)	(86,000,000)
(184,000)	(0.10)	(16,120,000)	(10.33)	(10,389,480)	(5.82)	(10,291,000)
(2,300,000)	(1.30)	(2,491,800)	(1.60)	(3,264,300)	(1.83)	(3,049,000)
(1,617,260)	(0.91)	(4,174,245)	(2.68)	(3,297,820)	(1.85)	(2,010,000)
82,320	0.05	61,600	0.04	61,600	0.04	62,000
0	0	0	0	93,374	0.05	30,000
0	0	0	0	0	0	0
8,800	0.01	8,800	0.01	8,800	0.01	9,000
176,759,895	100	156,042,373	100	178,534,443	100	213,639,000

Ⅱ 図書館の概況

調布市の図書館活動は、昭和41年の調布市立図書館（現中央館）の開館により始まった。以来、20年の図書館活動の中で、中央館の充実と共に市内全域に図書館サービスを提供するため、分館建設に着手した。昭和44年には分館第1号の国領分館が開館し、昭和57年に佐須分館が開館をして、分館網計画は、その目的を達成し、現在の体制が整った。

分館網は、人口2万人に1館、半径800メートルに1館、2つの小学校区に1館を三原則としており、中央館を中心にして10分館が活動をしている。

早期建設が望まれている新中央館は、調布市第3次基本計画に基づいて、調布市生涯教育施設建設推進プロジェクトチームの図書館部会で、昭和65年度完成を目指して、具体的な構想が検討されており、昭和61年度には「調布市立中央図書館計画調査報告書」を作成した。

新中央館が完成すると、分館網の中核機能を果たすと共に、各館を有機的に結びつけ、よりきめのこまかい図書館サービスが確立される。

1 運営方針

調布市立図書館は、市民の参加と協力のもとに、自立した市民の連帯と地域に根ざした市民文化の創造に向けて積極的な図書館活動を展開していく。

- (1) いつでも、どこでも、誰でも気軽に立ち寄れる市民図書館を目指し、市民のだれもが自由に図書館サービスを受けられるようにサービスの拠点を広げていく。
- (2) 利用を待つという静態的な活動に終始することなく、積極的に市民に働きかける動態的な図書館活動を目指す。
- (3) 子どもに良い読書環境を整備するため、各館に独立した児童室を設け、専任の職員を配置し、館内・館外に対して、あらゆる機会をとらえて児童サービスを行う。
- (4) 市民の身近なところで、文化的事業（講座、講演会、著者を囲む読書会、座談会、名画鑑賞会等）を開催し、文化創造の拠点として積極的な図書館活動を展開する。
- (5) 市民に充実した図書館サービスを保障するため、種々の機会をとらえて、組織的に研修を行い、職員の資質の向上を図る。

2 昭和61年度 図書館重点事業

図書館は、文化の伝承にとどまらず、文化創造の拠点として、積極的な活動を展開した。また、読書の普及と読書によって啓発された学習意欲や多様化する市民要求を的確にとらえ、それらに即応できるサービスを提供するため、次の重点事業を中心に、それぞれの事業の充実を図った。

(1) 蔵書の充実

市民図書館としての責務を果たすため、予算を効果的に執行しながら蔵書の充実に努めた。

ア 新刊書を中心に、市民のニーズにマッチした資料の選択と収集

イ 参考図書網の網羅的な収集と充実・強化

ウ 郷土資料及び行政資料の積極的な収集

エ 各分野の専門的資料の充実

オ 新中央館用図書の年次の購入

(2) 図書館サービス体制の充実

10番目の分館・佐須分館の開館により、図書館サービスは、ほぼ全市域にわたって提供できるようになったが、今年度は新中央館構想を含め、サービス網の機能強化等体制の整備、充実を図った。また、年2分館の予定で、年次的な増改築を検討しており、昭和62年度より実施していく。

(3) 文化的事業の推進とサークル育成

読書啓蒙活動と並行して、市民の学習意欲と文化的要求を受けとめ、それを育てるために、社会教育関連機関等と協力し、市民の学習活動を積極的に援助した。また、誰でも気軽に学習に参加できる機会を設け、市民と連帯した文化活動を推進した。

(4) ハンディキャップサービス

視覚障害者に対するサービスに重点を置き、朗読テープの作成や対面朗読、点訳サービスを実施し、視覚障害者へ読書に関する情報を提供して読書権の確立をはかると共に、朗読ボランティアや点訳ボランティアの育成に努めた。

(5) 図書館日常活動の充実

多様化する業務の組織化を図ると共に、今日までの経験と蓄積を基盤として、より良いサービスを行うため、図書の貸出、閲覧業務を遂行しながら、様々な事業を展開した。

ア おはなし会、小学生読書会の実施と中学生通信の発行

イ 「図書館だより」及び各種資料の発行等広報活動の充実

ウ 学校等諸施設及び地域との提携、協力

エ 職員の資質の向上と研修

オ 視聴覚ライブラリーの充実

視聴覚機器及び機材を整備すると共に、地域における映画会指導、機器操作指導、映写機検定の実施等、幅の広い視聴覚教育活動の普及とその充実を図った。

3 図書館配置図

基本計画に基づいて配置された各分館ごとに奉仕対象地域を設定すると、次のようになる

(図Ⅱ-1)

Ⅲ 各館の概要

1. 中央館



調布市布田4-17-5

電話 0424-81-7661

昭和41年6月10日開館

(京王線調布駅より徒歩2分)

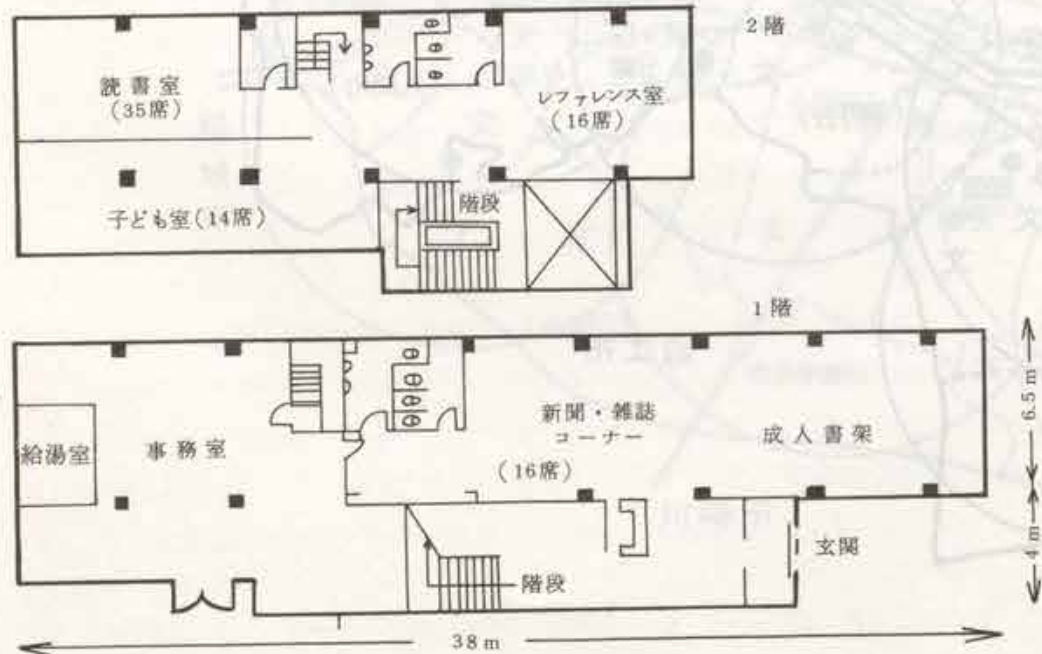
(1) 概況

調布市の中央よりやや西側に位置している。京王線調布駅・各方面へのバス発着所に近く、市役所をはじめとした各種公共施設、銀行、商店街などの集中した交通上・生活動線上の中心にあり、大変恵まれた、利用しやすい場所にある。

当館は、蔵書面はもちろん、他の様々な面においても全館をカバーする機能を持たなければならないが、現実にはあまりにも規模が小さく、収容能力を越えた資料は、2ヶ所の書庫(佐須分館保存庫、高架下保存庫)に分散して保存している状態である。こうしたことから、近年ますます高くなる一方の市民からの読書要求に、十分応えられない場合もある。

開館以来20年。さらに質の高いサービスを目指そうとする今、十分な機能を備えた新中央館の建設が待たれている。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用状況 (61年度)

ア 蔵書

郷土資料	2,513
総記	6,480
哲学	3,391
歴史地理	7,741
社会科学	10,982
自然科学	3,230
工業家庭	2,413
産業交通	1,193
芸術スポーツ	5,540
語学	1,216
文学	21,441
児童	21,446

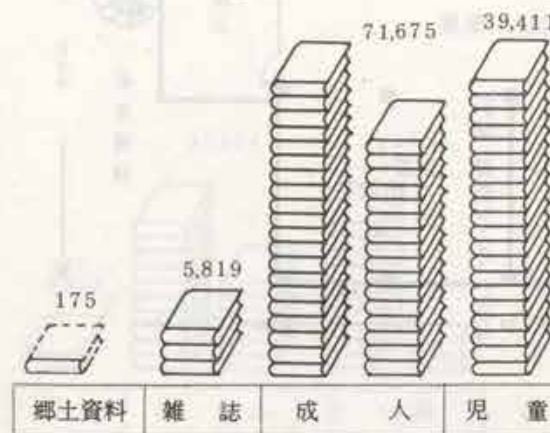
イ 職業別登録者数 (△ 50人)

中学生	639 (6.5)
高校生	784 (8.0)
大学生	1,773 (18.2)
勤人	1,741 (17.8)
主婦	1,595 (16.4)
自営	163 (1.7)
その他	185 (1.9)
無職	387 (4.0)
児童	2,487 (25.5)

(合計 87,586冊)

(合計 9,754人) (100%)

ウ 貸出冊数 (△ 2,000冊)



(合計 117,080人 一日平均 430.4冊)

(4) 定例会

- ア おはなし会
毎月 第2・第4水曜日
3:00~3:30
- イ 小学生読書会
毎月 第1日曜日
10:00~11:30
- ウ 子どもの本を読む会
毎月 第3火曜日
10:00~12:00

2. 国領分館



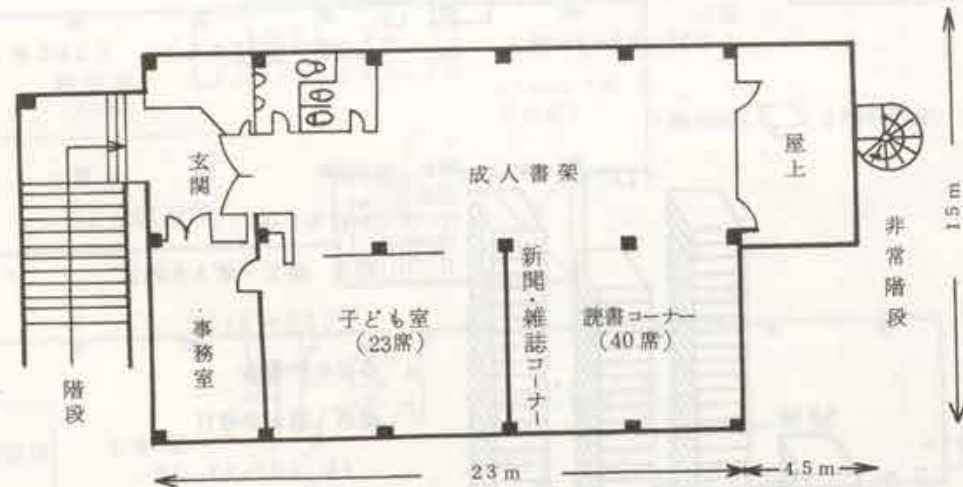
調布市国領町3-12-1
電話 0424-84-2000

昭和44年8月14日開館(保育園併設)
(京王線国領駅より徒歩3分)

(1) 概況

調布市の中央よりやや南に位置している。京王線国領駅に近く、駅周辺に商店街を抱えた立地条件の良い図書館である。近隣の公共施設としては、第五保育園、国領・第二小学校、第六・第七小学校、国領児童館、東京都多摩南部住宅建設事務所などがある。地域内には都営くすの木アパート、金子団地、国領住宅(公団)をはじめとした集合住宅が多いのが特徴である。当館は、開館以来19年を経て、62年に本格的な改修工事を行った。2ヶ月の工期をかけて建物の内外装を一新し、念願のおはなし室も増築した。これを機会に、改めて図書館のPRをしたところ、登録が非常に伸びた。当館は、以前から地域に定着していたが、今回の改修工事で、新たな利用者層の拡大を期待しているところである。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用の状況 (61年度)

ア 蔵書冊数

総記	623
哲学	629
歴史地理	2,148
社会科学	2,296
自然科学	1,392
工業家庭	1,725
産業	426
芸術スポーツ	1,881
語学	437
文学	9,048
児童	7,978

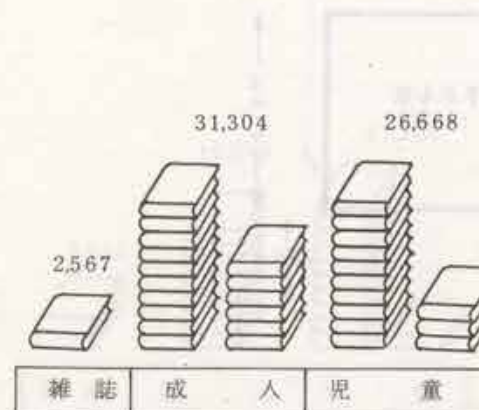
(合計 28,583冊)

イ 職業別登録者数 (人) (50人)

中学生	439 (11.8)
高校生	215 (5.8)
学生	189 (5.1)
勤人	515 (13.8)
主婦	591 (15.9)
自営	57 (1.5)
その他	45 (1.2)
無職	127 (3.4)
児童	1,546 (41.5)

(合計 3,724人) (100%)

ウ 貸出冊数 (冊) (2,000冊)



(合計 60,539冊 一日平均 230.2冊)

(4) 定例会

ア おはなし会

毎週 水曜日
2:30~3:00 (幼児)
3:30~4:00 (小学生)

イ 小学生読書会

毎月 第4日曜日
10:00~11:00

3. つつじヶ丘分館



調布市西つつじヶ丘4-23-6

電話 0424-85-2000

昭和45年7月20日開館

(京王線つつじヶ丘駅より徒歩10分)

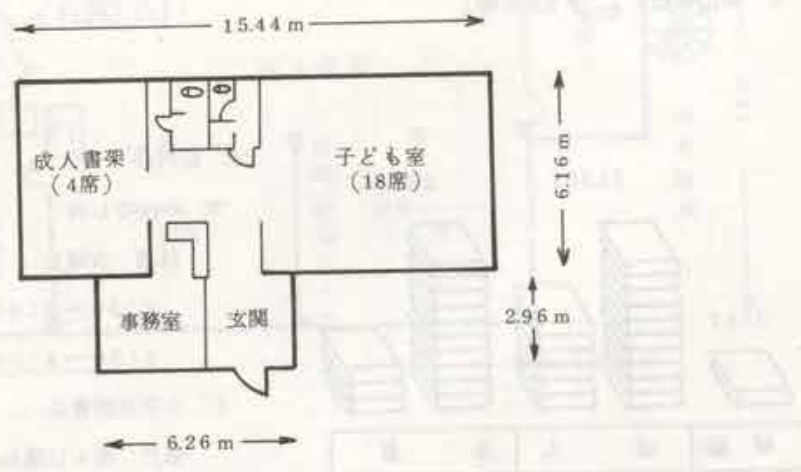
(1) 概況

調布市の東南に位置する当館は、市内では一番小さい図書館である。住宅都市整備公団の賃貸住宅である神代団地約2,000世帯を含む西つつじヶ丘と菊野台などの住民を主な利用対象者としている。団地の敷地内にあることもあり、比較的静かな環境と言える。

野川・大町小学校の二校は、当館より五分以内という近さであり、また近隣のつつじヶ丘幼稚園、金子保育園などからの集団・個人での利用も少なくない。このように、利用の大半は幼児・小学生、それに主婦層である。しかし、蔵書が物足りないためか、中・高校生になると利用が落ちている現状である。一方で常連の利用者は、当館を窓口として、リクエスト制度などを活用していることが目立っている。

現在の施設があまりにも手狭なのは、当館が暫定的施設として開館したためである。潜在的利用者の多いこの地域に、近い将来本格的な図書館を新設することを計画している。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用の状況 (61年度)

ア 蔵書

児童書 7,531冊

開館当初は、小規模ながら成人図書・児童図書を共に備え、地域の読書家層に支えられて高い利用率を示していた。しかし、限られたスペースをいかすため、昭和50年、隣接する若葉分館の開館を機に、児童図書中心の図書館として再出発した。

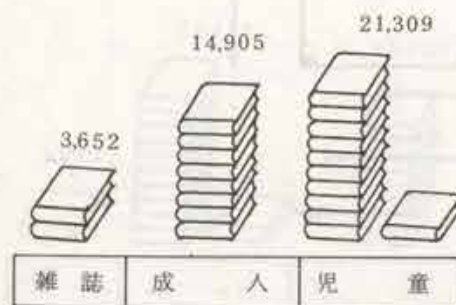
現在、成人図書は統計上若葉分館と一体となっている。その中から、小説・随筆のほか、家庭・教育・旅行等の実用書を中心に、約5,000冊の図書が常置されている。蔵書が少ないだけに、より生き生きした内容を保つように心掛けながら、当館で選定し、更新している。また、これを補うため、若葉分館の蔵書から300冊程の本を配架し、定期的に交換している。

イ 職業別登録者数 (△ 50人)

中学生	⊗⊗⊗	135 (6.3)
高校生	⊗	46 (2.1)
学生	⊗	41 (2.0)
勤人	⊗⊗⊗⊗	222 (10.3)
主婦	⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗	476 (22.1)
自営	{	23 (1.1)
その他	{	15 (0.7)
無職	⊗	36 (1.7)
児童	⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗ ⊗⊗⊗⊗	1,153 (53.7)

(合計 2,147人) (100%)

ウ 貸出冊数 (📖 2,000冊)



(合計 39,866冊 一日平均 151.6冊)

(4) 定例会

ア おはなし会

毎月 第2日曜日

10:00~10:20 (幼児)

10:30~11:00 (小学生)

イ 小学生読書会

毎月 第4日曜日

10:00~11:00

4. 深大寺分館



調布市深大寺北町5-6-1

電話 0424-85-3350

昭和46年7月24日開館

(京王線調布駅北口より
吉祥寺・三鷹行バス
山野駅下車 徒歩8分)

(1) 概況

調布市の北端部に位置している。周囲の環境は、南側にある神代植物公園や深大寺に象徴されるように、いたる所に雑木林や畑の見られる緑豊かな地域である。付近には、深大寺保育園、北ノ台・深大寺小学校、調布北高枚のほか、総合体育館もある。住宅は、市営山野住宅のほか、小さな民間アパートが数多く見られるが、比較的一戸建て住宅の割合が高い。ただ全体としては、人口密度の低い閑静な地域になっている。利用の状況は、最近、20代や壮年の男性の利用が増えるなど、若干の変化が見られるが、全般的な特徴としては、家族連れでの利用が多い。

なお、当館は、62年度当初に外装工事を行い、外観を一新したが、引き続き63年度に内装工事を予定している。利用者にとってより一層心地良く、使いやすい図書館にしていきたい。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用の状況 (61年度)

ア 蔵書冊数

総記	698
哲学	500
歴史地理	2,153
社会科学	1,995
自然科学	1,231
工業家庭	1,728
産業	431
芸術スポーツ	2,034
語学	477
文学	8,308
児童	7,229

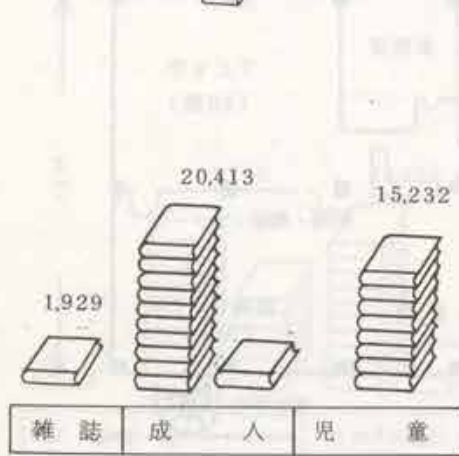
(合計 26,784冊)

イ 職業別登録者数 (△ 50人)

中学生	212 (9.9)
高校生	150 (7.0)
学生	94 (4.4)
勤人	250 (11.6)
主婦	467 (21.7)
自営	50 (2.3)
その他	23 (1.1)
無職	73 (3.4)
児童	830 (38.6)

(合計 2,149人) (100%)

ウ 貸出冊数 (△ 2,000冊)



(合計 37,574冊 一日平均 14.29冊)

(4) 定例会

ア おはなし会

毎週 木曜日

3:00~3:30 (幼児)

3:30~4:00 (小学生)

イ 小学生読書会

第4日曜日

10:00~11:00

ウ 絵本の会

第2木曜日

10:00~12:00

5. 神代分館



調布市西つつじヶ丘1-40-5

電話 0424-85-0054

昭和46年10月1日開館(保育園併設)
(京王線つつじヶ丘駅より徒歩8分)

(1) 概況

調布市の北東、つつじヶ丘駅の北に位置している。周辺は、一戸建ての住宅のほかマンションや社宅などもあり、市内でも人口密度が高い地域である。また、北側は三鷹市と接しているため、市外の利用者も多くなっている。近くには上ノ原・滝坂小学校、神代中学校のほか神代出張所、児童会館などもある。

開館当初からの利用者がある一方、転入転出も頻繁で、海外赴任などの後、再び来館する住民も多い。また、図書館の使い方に慣れた利用者が多く、予約・リクエストを上手に活用したり、研究・調査のために利用する姿が見られる。それだけに、図書館に対する要求にも多様なものがある。

なお、当館はより明るい図書館をめざして、63年度中に改修工事を行う予定である。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用の状況 (61年度)

ア 蔵書冊数

総記	859
哲学	771
歴史地理	2,454
社会科学	2,820
自然科学	1,614
工業家庭	2,013
産業	571
芸術スポーツ	2,241
語学	448
文学	9,024
児童	8,193

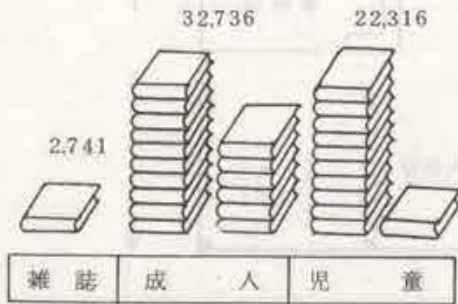
(合計 31,008冊)

イ 職業別登録者数 (△ 50人)

中学生	353 (10.2)
高校生	211 (6.1)
学生	229 (6.6)
勤人	481 (13.9)
主婦	769 (22.3)
自営	48 (1.4)
その他	36 (1.1)
無職	86 (2.5)
児童	1,240 (35.9)

(合計 3,453人) (100%)

ウ 貸出冊数 (△ 2,000冊)



(合計 57,793冊 一日平均 219.7冊)

(4) 定例会

ア おはなし会

毎週 第1・3水曜日(幼児)

毎週 第2・4 " (小学生)

3:00~3:30

イ 小学生読書会

毎週 第2日曜日

10:00~11:00

6. 宮の下分館



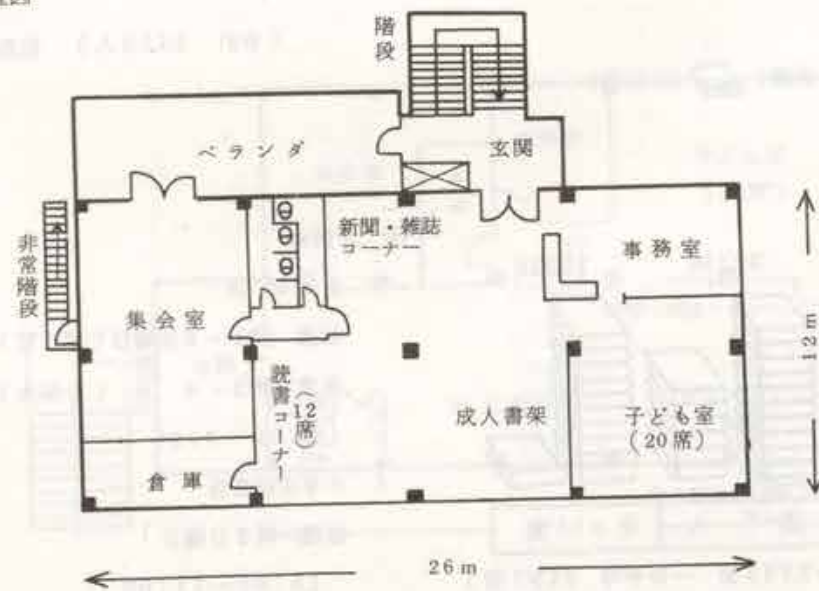
調布市上石原3-34-10
電話 0424-86-5798

昭和47年7月24日開館(保育園併設)
(京王線西調布駅より徒歩15分)

(1) 概況

調布市の南西、品川道と多摩川の間地点に位置し、同じ建物の一階には宮の下保育園、北に第五中学校、南に病院がある。その他、近隣の公共施設としては、西部公民館、児童館、学童保育所、西部地域福祉センター、第三・飛田給・多摩川小学校などが点在している。サービスエリア内で、もっとも利用の多い上石原三丁目、多摩川一丁目の地域には、民間アパート、小規模の工場が混在している。また、地図上ではかなりの利用者が予想される飛田給三丁目、上石原二丁目、下石原二・三丁目からは、分館が生活動線上にないことや、品川道や「はげ」にさえぎられることなどからか実際には、利用者は限られている。反面、分館周辺に多かつた空地や農地に、近年、高層集合住宅や民間アパートの建設が目立ち、成人・児童ともに利用が上向く傾向にある。開館後15年たつ63年度には、改修し、装いを新たに予定である。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用状況 (61年度)

ア 蔵書冊数

総記	580
哲学	433
歴史地理	1,993
社会学	1,847
自然科学	1,220
工業家庭	1,581
産業	439
芸術スポーツ	1,962
語学	397
文学	8,520
児童	6,461

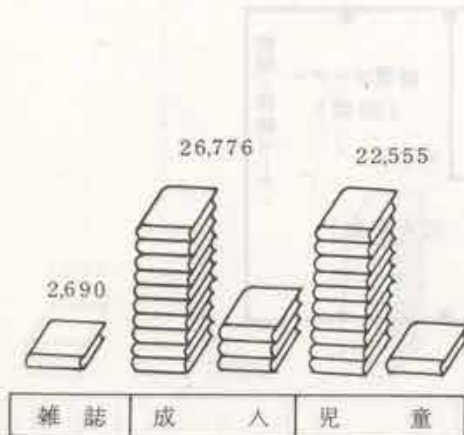
(合計 25,433冊)

イ 職業別登録者数 (△ 50人)

中学生	329 (12.0)
高校生	119 (4.3)
学生	82 (3.0)
勤人	362 (13.1)
主婦	521 (18.8)
自営	27 (0.9)
その他	16 (0.6)
無職	40 (1.4)
児童	1,268 (45.9)

(合計 2,764人) (100%)

ウ 貸出冊数 (△ 2,000冊)



(合計 52,021冊 一日平均 197.8冊)

(4) 定例会

ア おはなし会

第1・2木曜日

3:00~3:30 (幼児)

3:30~4:00 (小学生)

イ 小学生読書会

毎月最後の水曜日

3:30~4:30

7. 緑ヶ丘分館



調布市緑ヶ丘2-25
電話 03-300-7672

昭和49年7月20日開館
(京王線仙川駅より徒歩12分)

(1) 概況

調布市の北東に位置している。駅北側の甲州街道を渡って北に進み、仙川にかかる宅添橋を渡ると都営緑ヶ丘団地に出る。当館は、この団地の中央公園にある。サービスエリアは、三鷹市と世田谷区に隣接した一角で、団地があるとはいえ、市内でも人口の少ない地域である。周辺には、鯉のすむ仙川が流れ、畑や「みんなの森」と呼ばれる「森」がある緑の多い、静かな住宅地である。付近には、緑ヶ丘小学校、第八中学校、白百合女子大学、緑ヶ丘幼稚園、緑ヶ丘保育園、児童館、地域福祉センターなどがある。

最近の児童数の減少(緑ヶ丘小学校は全学年2クラス)、高齢化の傾向はこの地域でもみられ、今後も、登録者数の著しい伸びは期待できない。ただ、登録者ひとりあたりの貸出冊数は、市内全館のトップ(21.4冊)で、地域の人たちが足繁く、当館を利用していることがうかがえる。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用の状況 (61年度)

ア 蔵書冊数

総記	614
哲学	409
歴史地理	1,717
社会学	2,002
自然科学	1,060
工業家庭	1,739
産業	386
芸術スポーツ	1,610
語学	438
文学	8,000
児童	7,103

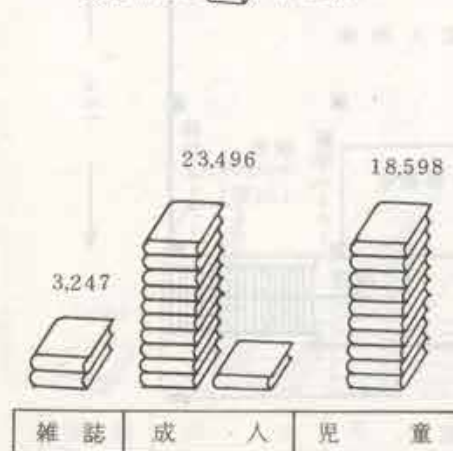
(合計 25,078冊)

イ 職業別登録者数 (△ 50人)

中学生	184 (8.7)
高校生	91 (4.4)
学生	93 (4.4)
勤人	283 (13.4)
主婦	424 (20.0)
自営	31 (1.5)
その他	12 (0.6)
無職	49 (2.3)
児童	944 (44.7)

(合計 2,111人) (100%)

ウ 貸出冊数 (△ 2,000冊)



(合計 45,341冊 一日平均 17.24冊)

(4) 定例会

- ア おはなし会
毎週 金曜日(第4をのぞく)
3:30~4:00
- イ 小学生読書会
毎週 第4金曜日
3:30~4:30

8. 富士見分館



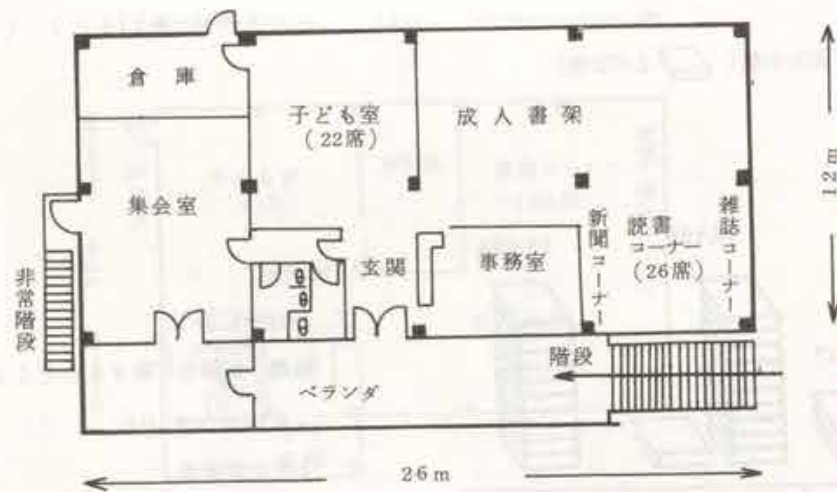
調布市富士見町2-3-26
電話 0424-81-7664

昭和49年7月20日開館(保育園併設)
(京王線調布駅下車徒歩15分)

(1) 概況

調布市の北西部に位置しており、甲州街道、中央自動車道調布インターチェンジ、鶴川街道が交差している交通量の多い地域である。当館は甲州街道から100m奥まった新興住宅地の一角にあり、近くには子どもたちの格好の遊び場となっている八幡神社、下石原公園がある。サービスエリア内の教育施設には、石原・第一小学校、調布中学校、電気通信大学、保惠学園、調布養護学校がある。地域性としては都営住宅、マンションなどの集合住宅と一戸建ての住宅に形成される住宅地域である。住民は30~40代の比較的若い世代が多く、図書館の利用層にも反映されている。利用の状況は子どもと主婦の利用が多く、特におはなし会のある水曜日は幼い子ども連れの若い母親と、小学生で賑わっている。最近、土・日曜日は勤人の利用がのびてきており、ビジネス書を中心に幅広く、さまざまな分野の図書が貸出しされるようになった。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用の状況 (61年度)

ア 蔵書冊数

総記	825
哲学	507
歴史地理	1,680
社会科学	2,017
自然科学	1,104
工業家庭	1,354
産業	354
芸術スポーツ	1,597
語学	389
文学	7,277
児童	7,849

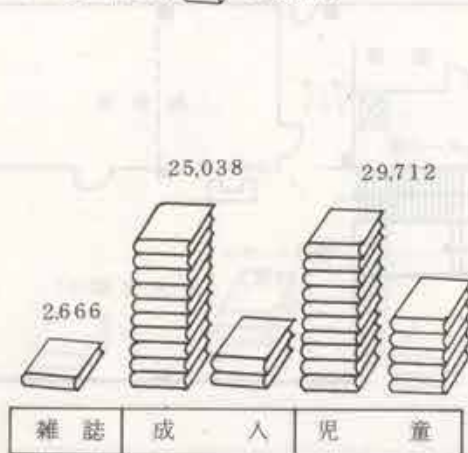
(合計 24,953冊)

イ 職業別登録者数 (△ 50人)

中学生	231 (8.5)
高校生	114 (4.2)
学生	76 (2.8)
勤人	325 (12.0)
主婦	576 (21.2)
自営	27 (1.0)
その他	21 (0.8)
無職	54 (2.0)
児童	1,290 (47.3)

(合計 2,714人) (100%)

ウ 貸出冊数 (△ 2,000冊)



(合計 57,416冊 一日平均 218.3冊)

(4) 定例会

- ア おはなし会
 - 毎週 水曜日
 - 2:00~2:20 (幼児)
 - 3:30~3:50 (小学生)
- イ 小学生読書会
 - 毎月 第4金曜日
 - 3:30~4:30

9. 若葉分館



調布市若葉町3-16-13

電話 03-309-3411

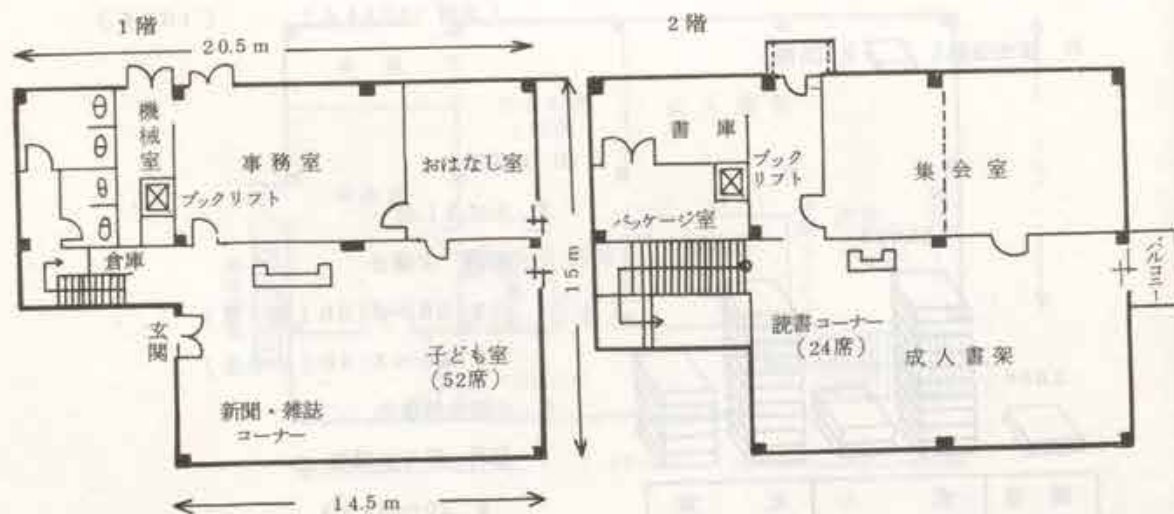
昭和50年4月12日(児童室) 開館
7月5日(成人室)
(京王線仙川駅より徒歩12分)

(1) 概況

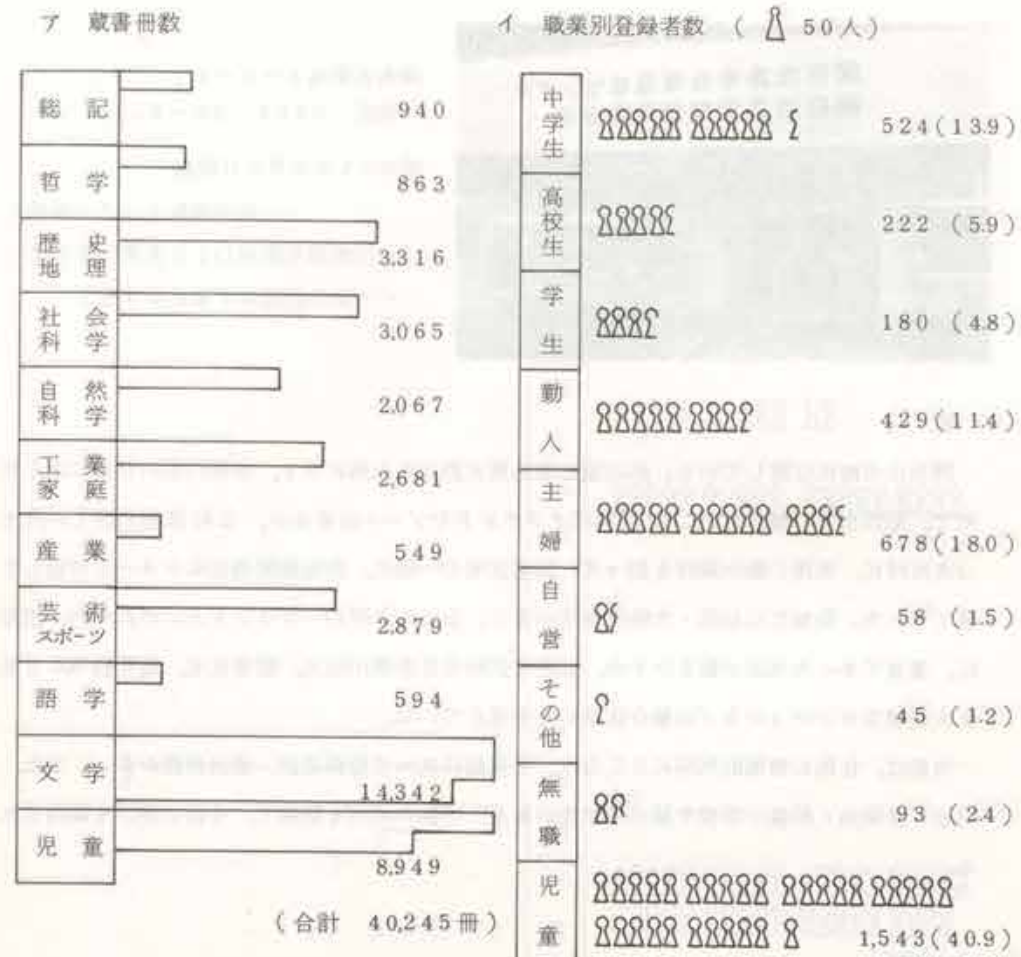
調布市の南東に位置し、狛江市、世田谷区と隣接している。二階建ての図書館単独施設で、8番目の分館として昭和50年4月に開館した。それまでの分館建設の経験を生かし、当市の分館建築の集大成を旨とした建物である。

サービスエリアは、若葉町、入間町の全域と、仙川、東つつじヶ丘の一部で、人口1万5千人、6,350世帯の、緑の多い住宅街が広がっている。また付近には、若葉小学校、第四中学校、神代高校、桐朋学園(幼稚園~大学)、東部公民館、実篤記念館などがある。利用の状況は、立地条件もあって若葉町、入間町の住民の利用が大半を占めている。サービス面での特色として、隣接する若葉小学校との協力事業がある。内容としては、「読書の時間」に子ども室を開放したり、おはなしや本の紹介を行っている。

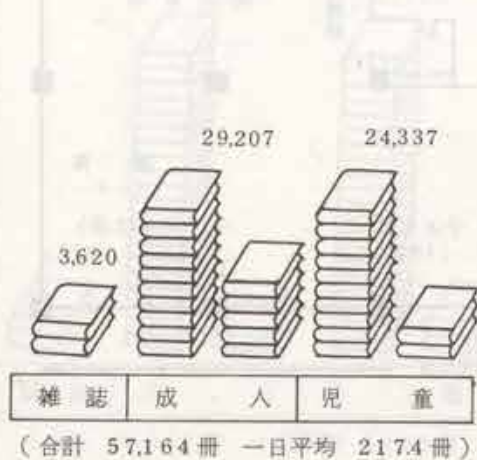
(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用の状況 (61年度)



ウ 貸出冊数 (2,000冊) (合計 3,772人) (100%)



10. 染地分館



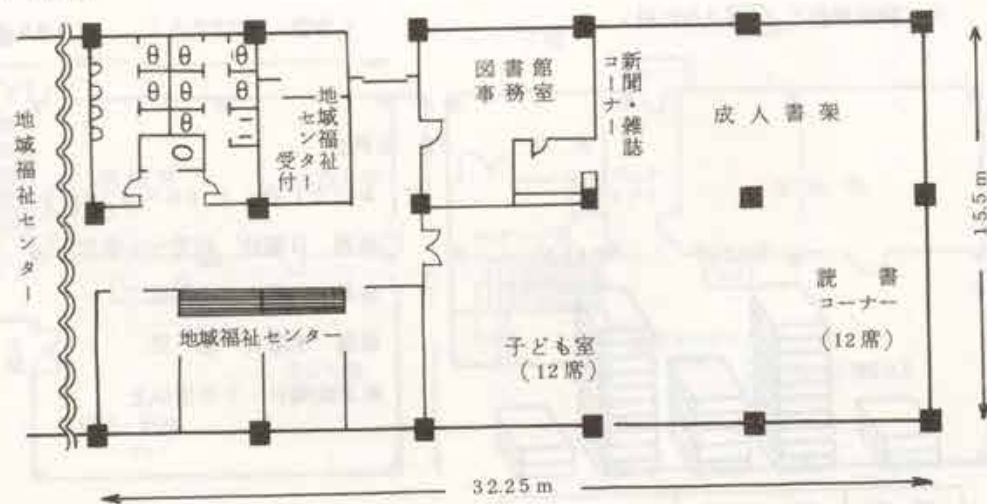
調布市染地3-3-1
 電話 0424-88-8393
 昭和55年6月6日開館
 (地域福祉センター併設)
 (京王線調布駅南口より多摩川住宅西行
 バス染地公園前下車徒歩3分)

(1) 概況

調布市の南に位置している。品川道を橋蔵交差点から南に下り、多摩川沿いを東に進んだ所で、狛江市との境に近い。河川敷にグラウンドやプールはあるが、公共施設の乏しい所だっただけに、市民の熱い期待を担って、都営住宅の一階に、染地地域福祉センターと併設して建てられた。染地には日活・大映撮影所があり、かつて東洋のハリウッドといわれたが、現在は、豊富であった水田が影をひそめ、都住宅供給公社多摩川住宅、都営住宅、世帯数600を越す大規模なマンションなどの集合住宅が立ち並んでいる。

当館は、住民の積極的利用に支えられ、中央館に次いで登録者数、貸出冊数が多い。また、付近には染地・杉森小学校や第三中学校があり、子供の利用も活発で、今後の伸びも期待される。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用の状況 (61年度)

ア 蔵書冊数

総記	830
哲学	641
歴史地理	2,243
社会科学	2,414
自然科学	1,331
工業家庭	1,472
産業	432
芸術スポーツ	2,411
語学	465
文学	10,102
児童	8,576

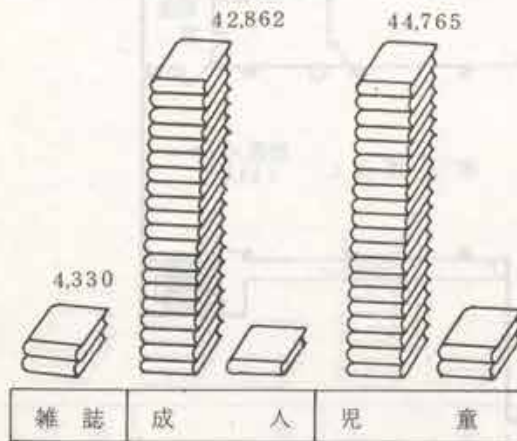
(合計 30,917冊)

イ 職業別登録者数 (△ 50人)

中学生	641 (13.7)
高校生	227 (4.9)
学生	135 (2.9)
勤人	609 (13.0)
主婦	955 (20.5)
自営	53 (1.1)
その他	25 (0.5)
無職	105 (2.3)
児童	1,922 (41.1)

(合計 4,672人) (100%)

ウ 貸出冊数 (△ 2,000冊)



(合計 91,957冊 一日平均 349.6冊)

(4) 定例会

- ア おはなし会
 第2・4木曜日
 2:30~3:00 (幼児)
 3:30~4:00 (小学生)
- イ 小学生読書会
 第1日曜日
 10:30~11:30

11. 佐須分館



調布市佐須町4-42-2
電話 0424-85-1306

昭和57年7月13日開館(児童館併設)
(京王線布田駅より徒歩15分)

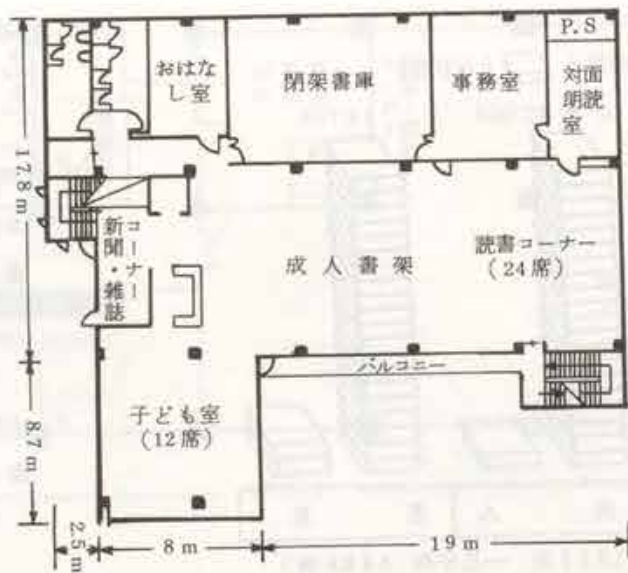
(1) 概況

調布市の中央よりやや北に位置している。昔は柏の里とも称され、深大寺縁起と深い関係を持つ祇園寺のすぐ近くで、周囲にはまだ田畑や木が多く残る、緑豊かな所にある。

付近には、都営・市営住宅などの集合住宅もあるが、古くからの調布在住者の、あるいは新しく宅地化が進んだ中での一戸建の住宅が多く、閑静な地域と言えよう。八雲台・柏野両小学校や第七中学校、私立晃華学園が近く、また1階が児童館・学童保育所ということもあって平日は子ども達で賑わっている。土曜、日曜ともなると、その子ども達が家族と一緒にやってくるという姿もたくさん見られる。面積は分館の中で一番広く、ゆったりとしていて、館内での読書を習慣にしている利用者も多い。

当館は、5万冊収容の電動式閉架書庫を持ち、またエレベーターや対面朗読室を備えて、身体障害者への配慮をしている。

(2) 配置図



(3) 蔵書及び利用の状況 (61年度)

ア 蔵書冊数

総記	743
哲学	803
歴史地理	2,417
社会科学	2,877
自然科学	2,022
工業家庭	1,764
産業	528
芸術スポーツ	2,309
語学	449
文学	8,428
児童	8,964

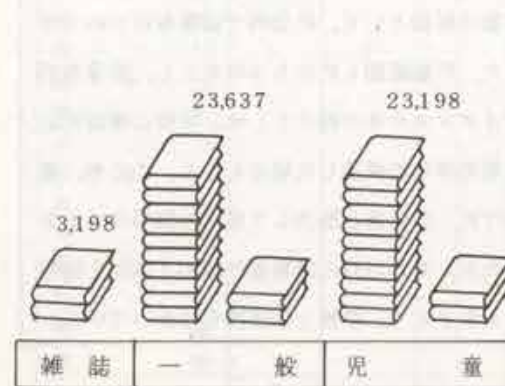
(合計 31,304冊)

イ 職業別登録者数 (人)

中学生	374 (11.6)
高校生	181 (5.6)
学生	133 (4.1)
勤人	394 (12.2)
主婦	603 (18.7)
自営	50 (1.6)
その他	30 (0.9)
無職	78 (2.4)
児童	1,381 (42.9)

(合計 3,224人) (100%)

ウ 貸出冊数 (冊)



(合計 50,033冊 一日平均 190.2冊)

(4) 定例会

- ア おはなし会
毎週 水曜日
2:30~2:50 (幼児)
3:30~3:50 (小学生)
- イ 小学生読書会
第2日曜日
10:00~11:00

IV 各館の事業

1. 子ども対象の事業

(1) おはなし会

実施館	日時	内容
全館	館によって異なるが、毎月1～4回実施 若葉分館は毎週3回 (Ⅲ各館の概要参照)	幼児から小学校低学年までを対象に、ストーリーテリング、絵本の読み聞かせ、紙芝居、スライド、16ミリフィルム等を組み合わせたプログラムを用意し、楽しいお話の世界へ導くことを目的として実施した。

(2) 小学生読書会

実施館	日時	内容
全館	毎月1回 曜日、時間は館によって異なる (Ⅲ各館の概要参照)	小学校3・4年生から6年生までを対象に、幅広い本の世界の楽しさを知ってもらうために実施した。日常生活に結びついたテーマを中心にプログラムを組み、ストーリーテリング、本の読み聞かせと合わせて、文学作品、ノンフィクション双方とりまぜた本を紹介し、また、子どもたちにも発言してもらった。創作活動もとり入れ、創造力を啓発した。若葉分館では、同上の対象に、ストーリーテリングや本の読み聞かせを行った。

(3) 市立小学校との協力事業

実施館	日時・会場	内容
全館	・各学級の授業時に合わせて実施 ・各小学校又は図書館	市内公立全小学校を対象に、読書の動機づけを行った。対象は原則として、社会科で図書館について学び、また、行動範囲も広がる3年生とし、図書館利用のガイダンスや本の紹介をした。学校の要望に応じて、他の学年に実施した場合もある。この他、夏休み向けに、先生方と協力して推せん図書リストを作成したり、それ以外の図書館作成のリストを随時配布するなどを、学校との連携をはかっている。

内容	
プログラム の 例 — 第 一 小 学 校	①プログラム ガイダンス (3年生) 1. 「としょかんのつかいかた」(利用案内)の説明 2. ストーリーテリング 「マメ子と魔物」 3. 本の紹介 「火のくつと風のサンダル」他 4. 読み聞かせ 「はちうえはほくにまかせて」
	②プログラム テーマ：ことばのおもしろさ (1年生) 1. ストーリーテリング 「ついでにペロリ」 2. 本の紹介 「ことばのこぼこ」「なぜなぜのすきな女の子」 「きつときつてかっけてきて」他 3. 読み聞かせ 「へびのクリクター」
	③プログラム テーマ：怖い話 (5年生) 1. ストーリーテリング 「こわいものなしのジョヴァンニン」 2. 本の紹介 「魔法使いのチョコレート・ケーキ」「詠商」 「水木しげるお化け絵文庫」他 3. 読み聞かせ 「フォックス氏」

学校協力事業実施回数及び団体貸出冊数 (表 IV-1)

学校名	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	団体貸出冊数
第1	一	1	1	1	1	1	1	6	880
第2	二			1				1	
第3	三			1				1	510
第8	雲			1				1	116
第9	士見			1				1	720
第10	大			1				1	
第11	深			1	1			2	28
第12	石			1				1	385
第13	若	6		1				7	8,383
第14	野	1	1	1				3	41
第15	緑			1				1	
第16	染			1				1	
第17	北			1				1	200
第18	多			1				1	
第19	杉			1	1			2	160
第20	大			1				1	89
第21	飛			1				1	
第22	柏			1				1	157
第23	国			1				1	153
第24	布			1				1	720
計		8	2	21	3	1	1	36	12,542

(4) その他

事業名	日時・会場	内容
中学生通信の発行	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回、第1日曜日 午前10時～12時 (編集会場) 国領分館 	中学生との交流と、図書館利用の促進をめざして、中学生による中学生のための通信「ぶちねこ便」を発行した。各図書館のカウンターを通し配布をしたところ、読者からの反響は大きかった。
二葉学園読書会	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回、第4水曜日 午後6時半～7時半 二葉学園 	読み聞かせや本の紹介などを中心に、本の世界の楽しさを知ってもらい、読書への導入をはかった。また、本を媒介にしての創作も行った。
その他 (実施)各館	<ul style="list-style-type: none"> 随時 児童館・学童保育所 保育園・幼稚園等 	市の施設等に対して、図書の団体貸出や施設を利用している子どもたちを対象に、ストーリーテリングや読み聞かせなどを行い、相互の連携をはかった。

2. 成人対象の事業

事業名	日時・会場	内容
子どもの本を読む会	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回、第2火曜日 午前10時～12時 中央館 	昔話、新刊書、基本的な図書などをとりあげて読書会を催した。大冊の作品にも手をのばし、相互の読後感を話し合い、子どもと本に対する理解を深めた。
絵本の会	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回、第2木曜日 午前10時～12時 深大寺分館 	絵本についての勉強会で、今年度は長い間、子どもに支持されているロングセラー絵本をとりあげて、絵本と子どもをめぐる様々な問題について話し合った。



おはなし会



児童文学講座



子どもの本を読む会



「ぶちねこ便」編集風景



文学散歩



平和講演会

V 図書館の動き

1. 蔵書状況

各分館における蔵書の状況は、文学を中心に社会科学、歴史、芸術、家庭など比較的利用頻度の高い分野に重点を置いて整備をすすめている。また、児童図書は全体の約28%を占めている。当市における分館の規模(平均330㎡、蔵書収容能力約2万5千冊～3万冊)は、比較的小さく、収集範囲や収容冊数が限定されているのが現状である。従って、蔵書の量ではなく、今、市民が求めているもの、そして鮮度に重点を置いた内容によって、市民の期待に応えていかなければならない。

一方、中央館における蔵書の状況は、各分館のセンターとしての役割も果たすために、すべての分野にわたって網羅的に収集することを原則として蔵書の構築をはかっている。しかし、全館的な視点にたつての選書体制がまだ確立されていないなどの理由から、その体制は十分とは言えない。各分野の欠落部分の補充のためにも、選書の体制づくりを急がなければならない。

また、現在の中央館は、蔵書能力をはるかに超えた図書資料の収集を行っており、比較的新しい資料までも書庫に入れざるを得ない状況である。図書については、昭和57年に開館した佐須分館内の閉架書庫(5万冊収容可能)を利用している。雑誌・逐次刊行物、新聞の地方版などは、近年、市立図書館レベルでも一応の資料を揃えて利用に供することが必要不可欠の要件となっているが、これらのバックナンバーの保存には、昭和60年3月、中央自動車道高架下に完成した資料保存庫(収容能力約20万冊)を使って、利用者の要求に応じている。

しかし、このように資料保存が2ヶ所に分散しているため、利用者の求める資料を所蔵しているにもかかわらず直ちに提供できない状況にあり、十分な書架スペースと保存機能を備えた新しい中央館の建設が大いに待たれる。

(1) 年度別蔵書の推移 (図 V-1)

昭和61年度の蔵書数は359,422冊であり、前年度と比較すると13,993冊の増となる。市民1人当たりの冊数は1.89冊であり、当面の目標である市民1人当たり2冊の蔵書が整備されるのも、それほど遠いことではなくなった。また、除籍図書数の大幅な減少(約12,000冊)により、前の数年間に比べて、蔵書数が増加した形になっている。

なお、市民の図書館として、郷土に関する資料や市民の著作などをコレクションとして収集することは、大変に重要な意味を持つ。今後は、これらの分野にも積極的に取り組んでいきたい。(館別分類別蔵書冊数は、「Ⅲ 各館の概要」参照)

(2) 館別購入・寄贈受入・除籍冊数 (表 V-1)

ア 館別購入冊数

図書は各館ごとに地域や利用者の状況などを配慮して、選定・購入する。分館の場合は、

比較的範囲を限定し、日常的なものを中心に購入している。一方、中央館の場合は、分館と同じく利用頻度の高い資料から、調査研究のための専門的資料まで、奥行を深めていくよう配慮して購入している。

61年度の購入冊数は33,676冊で、前年度より1,124冊の減少になる。図書購入費の増額にもかかわらず購入冊数が減少しているのは、高価な古書を中心とした新中央館用図書(約2,800冊)が蔵書統計には含まれていない(未登録・利用可能)ことと、分館での購入対象図書の単価が上昇したためと思われる。

図書の年間購入冊数は、その利用の状況から、総蔵書冊数の約20%を常に更新させることが望ましいと専門的なデータでも明らかになっている。比較的小規模の分館の場合は、蔵書の新鮮度によって利用の状況が大きく左右され、書棚の鮮度を維持することは大変重要なことと考えねばならない。蔵書の新鮮度は、年間購入冊数の総蔵書冊数に占める割合で見ることができ、61年度の場合、調布市立図書館全体での新鮮度は9.4%である。これは、望ましい年間購入冊数の比率15~20%を下回る結果となっており、利用者のリクエストにきちんと応えていくためにも更に充実した図書の選定・購入をしなければならない。

イ 館別寄贈受入冊数

市民からの図書の寄贈は日常的に行われ、市民の図書館としての認識の高まりを示している。寄贈された図書は、当館の受入基準と照らし合わせて可能な限り受入れている。61年度の寄贈受入冊数は2,892冊で、60年度より若干減少した。

今後の課題としては、図書館の求めている資料(現在購入できないもの、保存雑誌のバックナンバーなど)の寄贈を広く呼びかけ、積極的に収集していくことがあげられる。また、市民の図書館として不可欠な郷土資料の収集についても、市民の協力を得て埋もれている資料の発掘に努めていきたい。

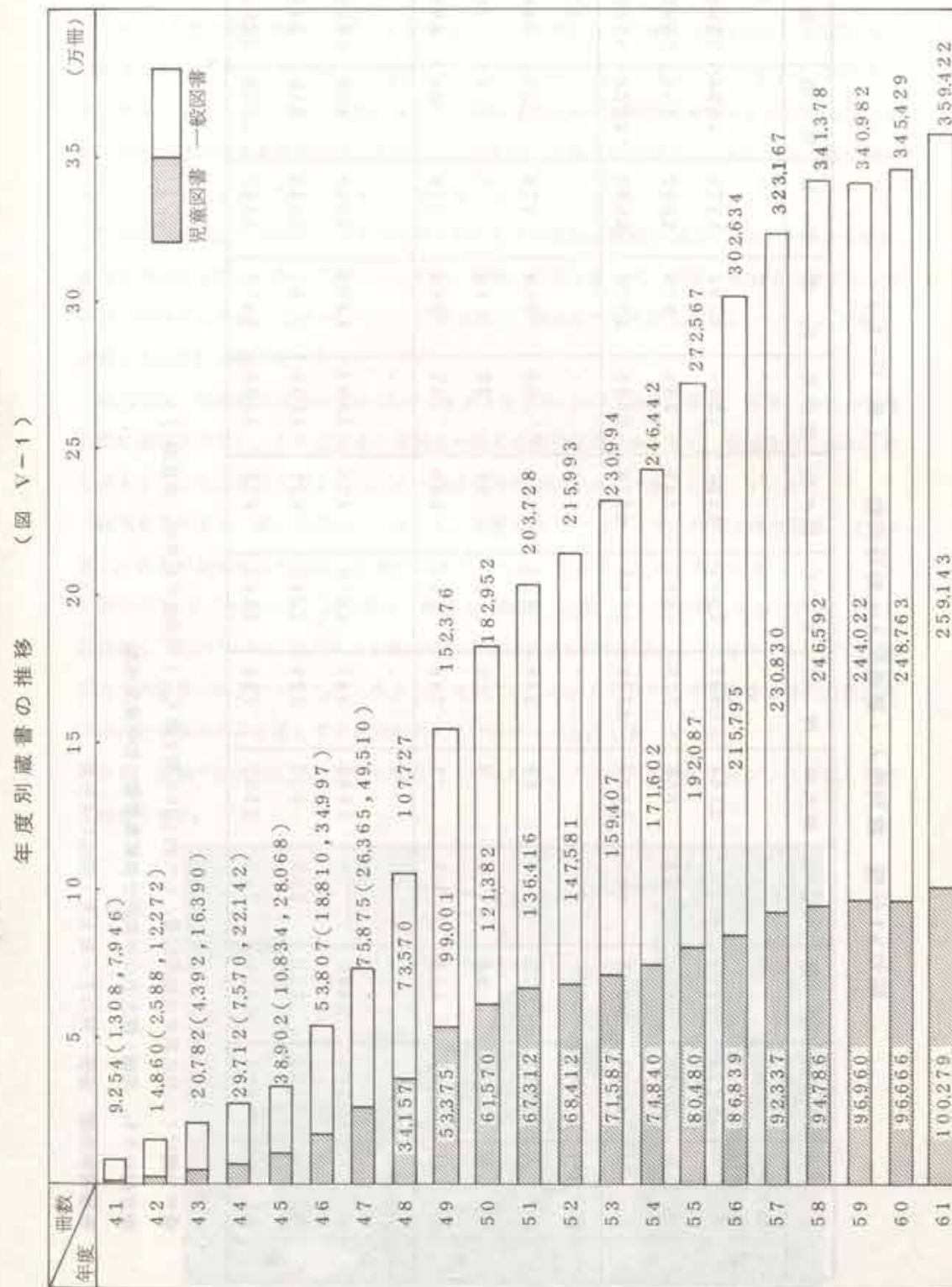
ウ 館別除籍冊数

一般的な蔵書の寿命は、受入後約5~6年とされている。これを経過すると利用は非常に少なくなり、書架に停滞する。小規模の図書館の場合には、特にその傾向が顕著である。そのため各分館では、利用頻度の低下した図書を書架から外し、鮮度を維持して魅力ある蔵書をつくっていかねばならない。利用が少なくなったり、傷んだ図書を抜き出すなどの点検作業は、日常の書架整理の中でも行われるが、曝書(本の棚卸)はその最良の機会である。従って、曝書実施館の除籍冊数は、実施しない館に比べて多くなっている。

今後の課題は、全館的な保存を念頭に入れた除籍のシステム化をはかっていくことである。

(3) 資料の保存

前項でふれたように、今後の課題として、資料の保存計画がある。2つの書庫を全館のものとして有効に活用し、市民の役に立つ蔵書を構築していける体制づくりが必要である。



昭和61年度 館別購入・寄贈受入・除籍冊数 (表 V-1)

		中央館	国領	つつじヶ丘	深大寺	神代	宮の下	緑ヶ丘	富士見	若葉	染地	佐須	計
購入	郷土資料	90	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	90
	成人	4,296	2,171	-	2,741	1,947	1,841	1,927	1,807	2,791	1,578	1,594	22,693
	児童	2,338	862	863	888	775	924	747	881	879	1,002	734	10,893
	合計	6,724	3,033	863	3,629	2,722	2,765	2,674	2,688	3,670	2,580	2,328	33,676
寄贈	郷土資料	222	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	222
	成人	1,172	72	-	69	248	102	266	95	238	178	23	2,463
	児童	73	30	3	2	0	23	37	22	16	0	1	207
	合計	1,467	102	3	71	248	125	303	117	254	178	24	2,892
除籍	郷土資料	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	成人	765	2,446	-	1,697	547	1,876	454	3,393	1,396	1,858	668	15,100
	児童	205	770	293	836	239	1,269	421	1,093	81	1,635	610	7,452
	合計	970	3,216	293	2,533	786	3,145	875	4,486	1,477	3,493	1,278	22,552

※中央館はこの他に新中央館用図書として約2,800冊を購入 (利用は可能だが、未登録)

※分館のうち、国領・深大寺は年次の分館蔵書整備の初年度実施館

※曝書実地館 国領・宮の下・富士見・染地の4分館

2. 登録状況

昭和61年度の登録者数は、成人(中学生以上)24,880人、児童(小学生以下)15,604人、合計40,484人である。昨年度と比較すると、成人は320人の増であったが、児童は735人の減であり、全体として415人の減となった。登録者数は中央館開館以来徐々に伸び続けていたが、当初の目的である分館網が一応完成した現在は、急激な増加はなく、むしろやや減少傾向を示している。(表 V-2・3)(図 V-2)

町別に登録状況を見ると、大きな団地をかかえている染地地域が32.5パーセントと全地域の最高の登録率を示し、次いで西つつじヶ丘、柴崎、佐須、富士見、国領の各地域の順になっており、全体としては、20.6パーセントの登録率で、登録率でも昨年より0.5パーセント下回る結果となった。(図 V-3)

館別では、中央館が全登録者の25パーセントを占め、以下、染地、国領、若葉、神代の各館の順に登録者が多い。これは交通の利便さや近くに集合住宅があるなど、立地条件とのかかわりが大きく、その条件に恵まれていない館は利用が伸び悩んでいる。(表 V-4)

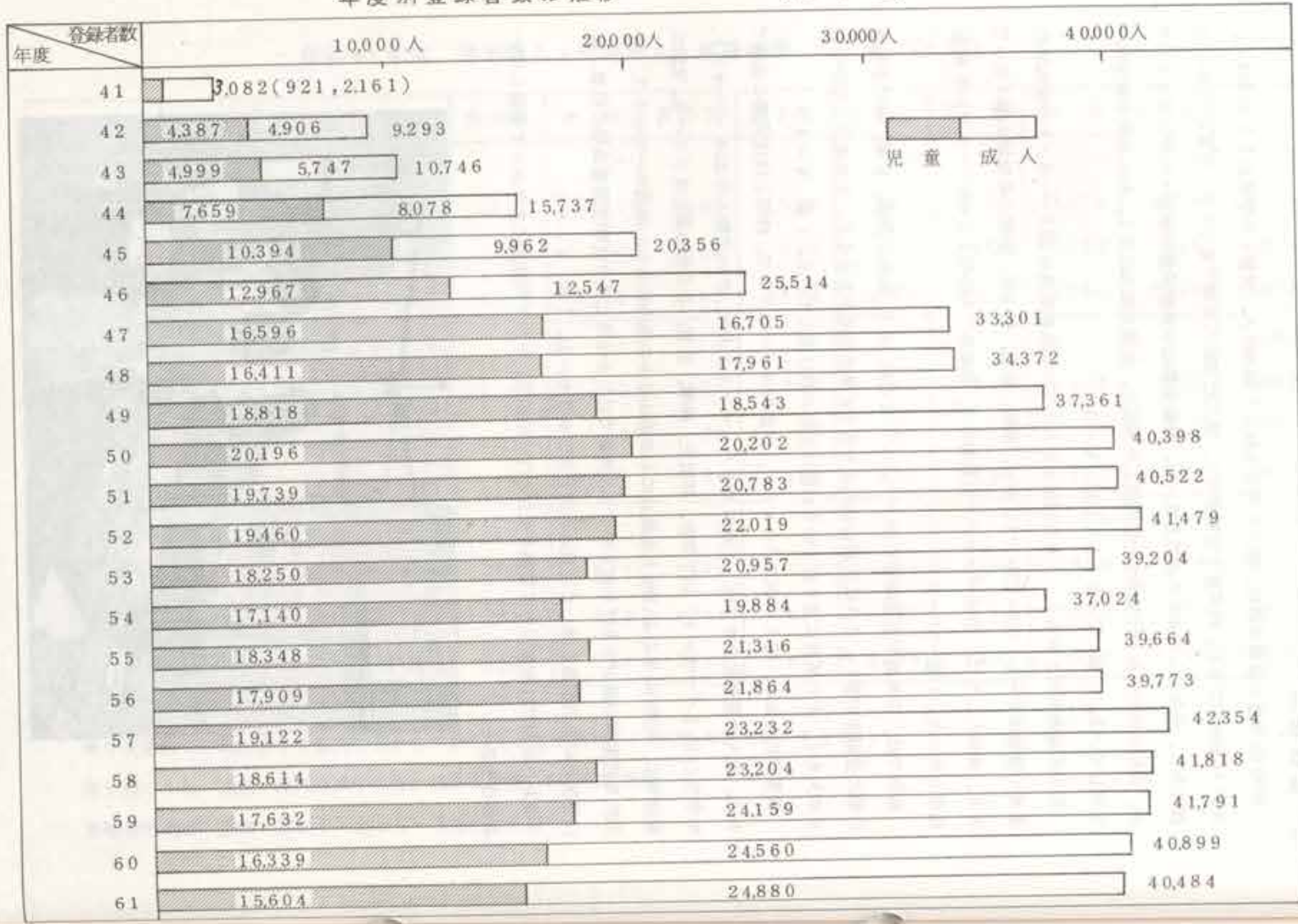
職業別にみると、成人の61.5パーセント、児童38.5パーセントで、昨年とほぼ同様の比率である。成人の登録者の中では、主婦が30.8パーセントを占め、次いで勤人の22.6パーセント、中学生の16.3パーセント、以下学生、高校生、無職、自営、その他の順となっている。児童の登録者は、昭和50年の20,196人を最高にその後は減少の傾向にある。原因の一つとして、全国的な児童数の減少があげられるだろう。当館では、おはなし会や小学生読書会等の行事、及び学校との協力事業を通して児童の利用をよびかけている。(表 V-5)

なお、当館では各館ごとに登録を受付けているので、一人で何館かにまたがって登録している場合もある。



年度別登録者数の推移

(図 V-2)



- 50 -

年度別・町別登録者数

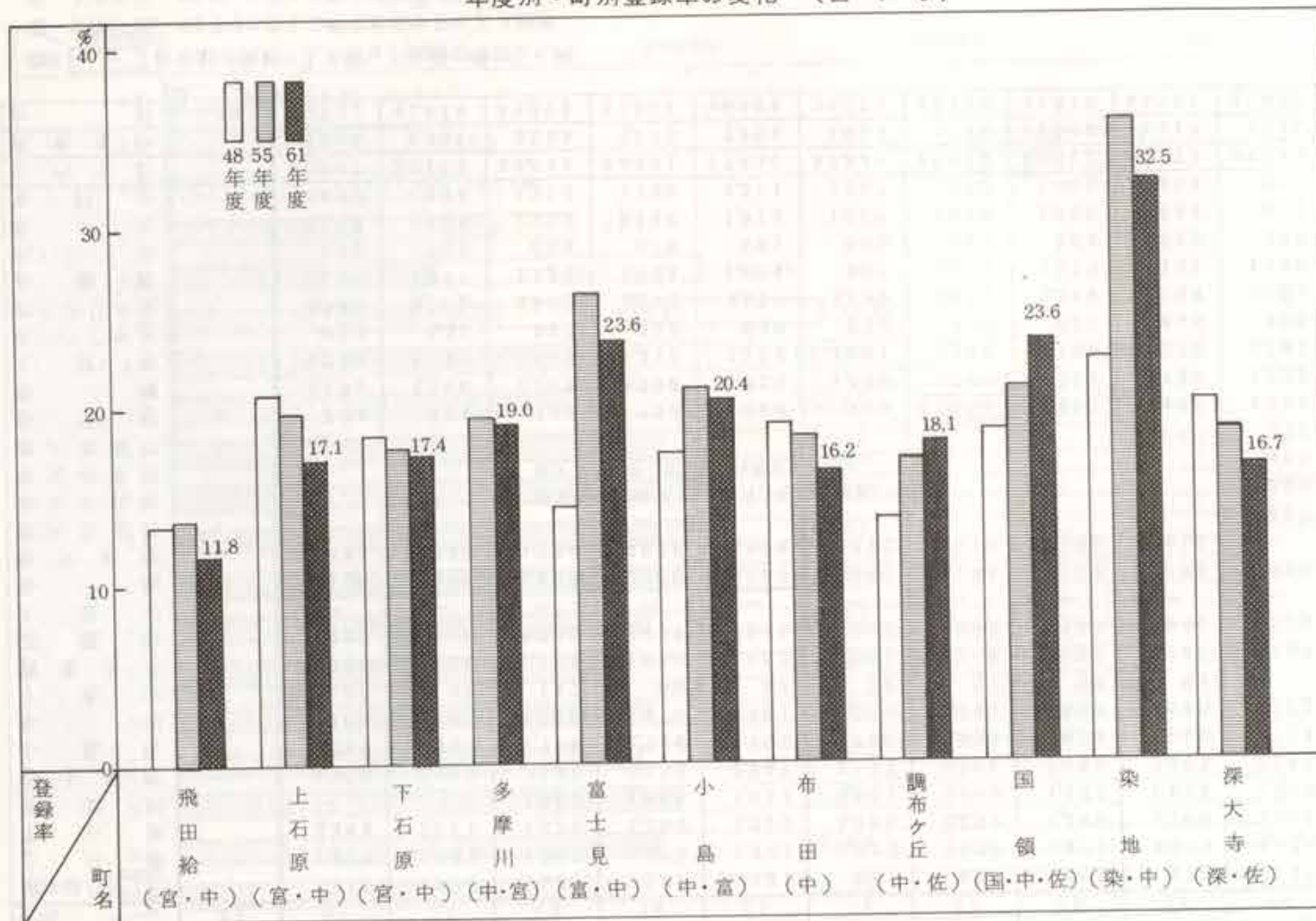
(表 V-2)

町名	41	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
飛田給(野水・西原町を含む)		575	600	589	662	687	682	697	708	770	747	714
上石原		1,573	1,563	1,367	1,370	1,441	1,432	1,500	1,472	1,575	1,479	1,415
下石原		2,344	2,511	1,326	1,262	1,212	1,285	1,252	1,249	1,260	1,267	1,364
多摩川		-	-	1,865	1,806	1,944	2,111	2,080	1,929	1,911	1,907	2,057
富士見町		2,302	2,263	2,083	2,105	2,247	2,137	2,366	2,380	2,403	2,282	2,271
小島町		2,219	2,202	1,798	1,716	1,726	1,789	1,859	1,874	1,770	1,714	1,728
下布田		1,708	1,765	1,528	1,470	1,461	1,579	1,644	1,689	1,640	1,572	1,498
下布田		55	90	117	66	95	70	81	69	84	-	-
調布ヶ丘		936	1,125	1,127	1,096	1,062	1,016	1,249	1,197	1,265	1,186	1,212
国領町		3,422	3,838	3,795	3,667	4,341	4,688	5,208	6,133	6,042	5,256	4,560
八雲台		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	536
八雲台		2,420	2,686	2,438	2,300	5,080	5,149	5,184	4,162	4,095	4,988	5,014
深大寺町		4,431	4,399	4,094	4,048	3,959	3,872	4,410	4,366	4,411	-	-
深大寺元町											857	802
深大寺北町											1,289	1,160
深大寺東町											1,369	1,192
深大寺南町											577	644
佐須町		794	851	786	733	668	714	1,556	1,455	1,468	1,376	1,291
柴崎		1,495	1,498	1,504	1,508	1,523	1,440	1,780	1,754	1,720	1,622	1,591
入間町		1,298	1,348	1,302	1,212	1,158	1,161	1,189	1,132	1,275	1,281	1,275
東つつじヶ丘		827	930	955	876	849	924	930	822	845	805	826
西つつじヶ丘		3,985	3,793	3,550	3,293	3,177	3,160	3,112	3,246	3,288	3,284	3,335
若葉町		1,125	1,177	1,103	1,001	1,004	997	1,007	1,073	1,134	1,149	1,092
仙川		639	709	694	676	591	550	521	564	519	548	554
緑ヶ丘		2,517	2,566	2,291	2,146	1,914	1,800	1,688	1,638	1,644	1,801	1,678
菊野台		1,422	1,258	1,332	1,238	1,271	1,287	1,303	1,400	1,254	1,202	1,344
市内小計		35,087	37,172	35,644	34,251	37,410	37,840	40,616	40,312	40,373	39,588	39,153
調布市外		4,435	4,307	3,563	2,773	2,254	1,933	1,738	1,506	1,418	1,341	1,331
合計	3,082	40,522	41,479	39,204	37,024	39,664	39,773	42,354	41,818	41,791	40,899	40,484

※ □ は分館の開館により著しく登録の増加した例
 ※ 多摩川は、52年10月1日町名地番改正により設置
 ※ 下布田は、60年9月1日町名地番改正により廃止
 ※ 八雲台は、" により設置

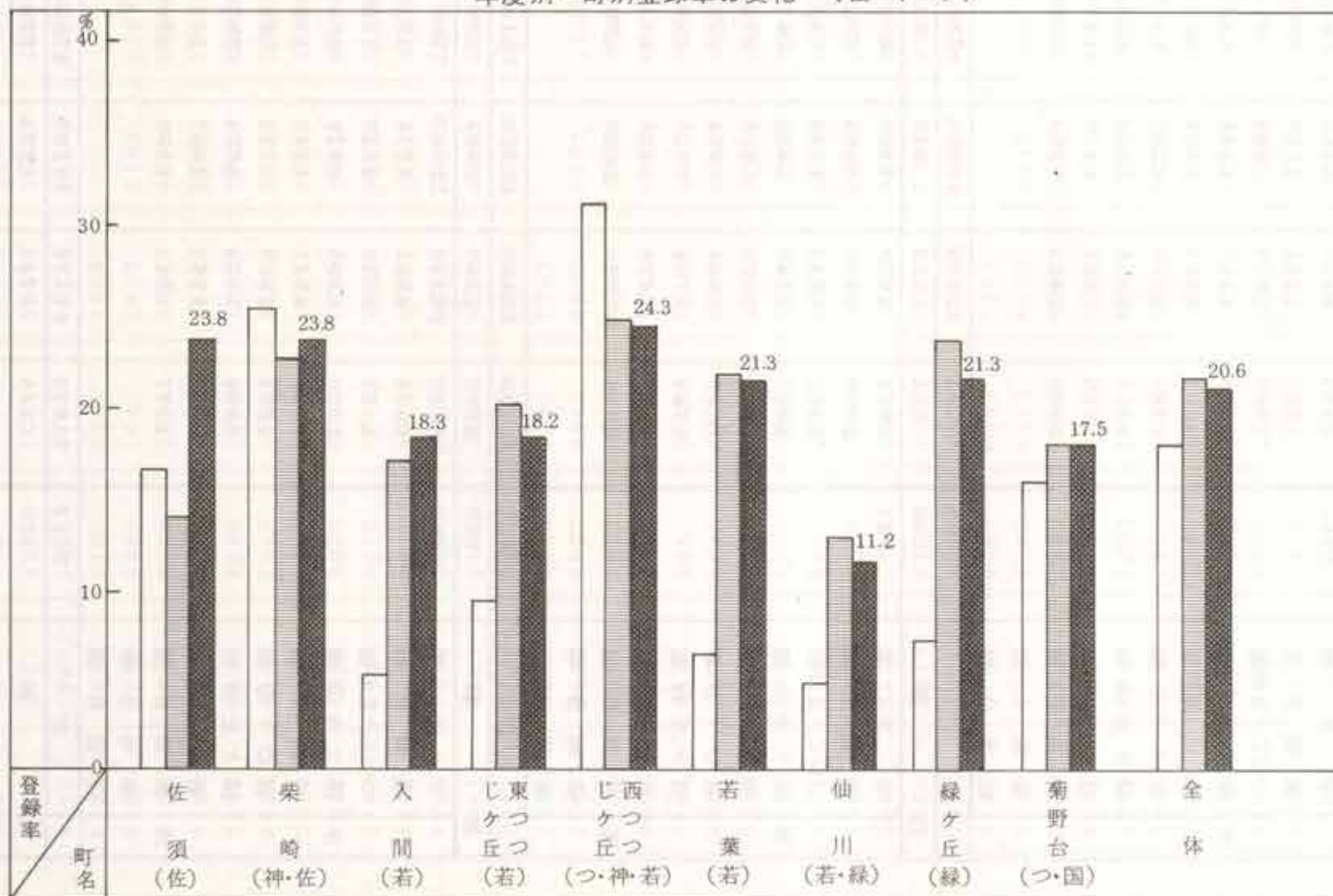
- 51 -

年度別・町別登録率の変化 (図 V-3)



町名：()内は、主な利用館 61年度の深大寺は、4町の平均 (深大寺元町 16.7% 深大寺北町 20.6%
深大寺東町 12.9% 深大寺南町 20.8%)

年度別・町別登録率の変化 (図 V-3)



町名：61年度の佐須は、八雲台を含む

年度別・館別登録者数

館別		年度				
		41	51	52	53	54
成人	中央館	2,161	7,984	8,520	8,262	7,844
	国領分館		1,930	2,157	2,180	2,000
	つつじヶ丘分館		1,080	1,058	996	944
	深大寺分館		1,665	1,557	1,346	1,377
	神代分館		2,301	2,324	2,222	2,010
	宮の下分館		1,264	1,315	1,205	1,203
	緑ヶ丘分館		1,201	1,348	1,314	1,243
	富士見分館		1,249	1,287	1,179	1,177
	若葉分館		2,109	2,453	2,253	2,086
	染地分館					
佐須分館						
計		2,161	20,783	22,019	20,957	19,884
指数		100	962	1,019	970	920
児童	中央館	921	4,531	4,659	4,425	4,057
	国領分館		2,108	2,225	2,058	1,910
	つつじヶ丘分館		2,343	1,842	1,643	1,422
	深大寺分館		1,605	1,746	1,473	1,471
	神代分館		2,142	2,023	1,918	1,755
	宮の下分館		1,620	1,644	1,574	1,598
	緑ヶ丘分館		1,768	1,755	1,705	1,583
	富士見分館		1,564	1,476	1,428	1,436
	若葉分館		2,058	2,090	2,026	1,908
	染地分館					
佐須分館						
計		921	19,739	19,460	18,250	17,140
指数		100	2,143	2,113	1,982	1,861
合計	中央館	3,082	12,515	13,179	12,687	11,901
	国領分館		4,038	4,382	4,238	3,910
	つつじヶ丘分館		3,423	2,900	2,639	2,366
	深大寺分館		3,270	3,303	2,819	2,848
	神代分館		4,443	4,347	4,140	3,765
	宮の下分館		2,884	2,959	2,779	2,801
	緑ヶ丘分館		2,969	3,103	3,019	2,826
	富士見分館		2,813	2,763	2,607	2,613
	若葉分館		4,167	4,543	4,279	3,994
	染地分館					
佐須分館						
計		3,082	40,522	41,479	39,207	37,024
指数		100	1,315	1,346	1,272	1,201
登録率		2.5	23.5	23.8	22.4	21.2

(表 V-3)

55	56	57	58	59	60	61
7,609	7,868	7,666	7,360	7,325	7,207	7,267
1,972	2,017	2,129	2,037	2,026	2,111	2,178
949	1,009	971	1,027	1,004	1,032	994
1,344	1,375	1,483	1,475	1,460	1,330	1,319
1,984	1,927	1,901	1,919	1,957	2,055	2,213
1,170	1,264	1,242	1,256	1,381	1,442	1,496
1,068	1,023	954	941	1,071	1,168	1,167
1,262	1,197	1,304	1,324	1,421	1,466	1,424
1,958	2,003	1,948	1,935	2,167	2,228	2,229
2,000	2,181	2,279	2,370	2,440	2,596	2,750
		1,355	1,560	1,879	1,925	1,843
21,316	21,864	23,232	23,204	24,131	24,560	24,880
986	1,011	1,075	1,074	1,117	1,137	1,151
3,558	3,534	3,210	2,901	2,687	2,448	2,487
2,022	2,113	1,989	1,969	1,740	1,611	1,546
1,326	1,235	1,234	1,296	1,192	1,063	1,153
1,404	1,320	1,349	1,203	1,190	1,031	830
1,687	1,576	1,516	1,481	1,366	1,250	1,240
1,535	1,507	1,532	1,389	1,350	1,277	1,268
1,334	1,188	1,073	1,000	950	1,015	944
1,529	1,414	1,521	1,481	1,449	1,374	1,290
1,736	1,692	1,688	1,750	1,761	1,606	1,543
2,217	2,330	2,388	2,331	2,243	2,084	1,922
		1,622	1,813	1,732	1,580	1,381
18,348	17,909	19,122	18,614	17,660	16,339	15,604
1,992	1,944	2,076	2,021	1,917	1,774	1,694
11,167	11,402	10,876	10,261	10,012	9,655	9,754
3,994	4,130	4,118	4,006	3,766	3,722	3,724
2,275	2,244	2,205	2,323	2,196	2,095	2,147
2,748	2,695	2,832	2,678	2,650	2,361	2,149
3,671	3,503	3,417	3,400	3,323	3,305	3,453
2,705	2,771	2,774	2,645	2,731	2,719	2,764
2,402	2,211	2,027	1,941	2,021	2,183	2,111
2,791	2,611	2,825	2,805	2,870	2,840	2,714
3,694	3,695	3,636	3,685	3,928	3,834	3,772
4,217	4,511	4,667	4,701	4,683	4,680	4,672
		2,977	3,373	3,611	3,505	3,224
39,664	39,773	42,354	41,818	41,791	40,899	40,484
1,287	1,290	1,374	1,357	1,356	1,327	1,314
2.25	2.22	2.34	2.30	2.27	2.18	2.13

館別・町別登録者数

館名 区分 町名	中央館			国領分館			つつじヶ丘分館		
	成人	児童	計	成人	児童	計	成人	児童	計
飛田給 (合、野水・西町)	243	82	325	2	2	4			
上石原	299	81	380	4		4	1		1
下石原	502	232	734	7	2	9	1	2	3
多摩川	639	422	1,061	7	2	9	1		1
富士見町	403	60	463		1	1	1		1
小島町	909	473	1,382	8	1	9	2		2
布田	873	428	1,301	26	5	31	1		1
調布ヶ丘	450	167	617	17	4	21			
国領町	658	220	878	1,552	1,265	2,817	14	37	51
八雲台	96	28	124	58	24	82			
染地	723	134	857	88	22	110	3		3
深大寺元町	189	59	248	1		1		1	1
深大寺北町	54	6	60						
深大寺東町	75	2	77	5		5	2	1	3
深大寺南町	81	10	91	4	2	6	1	1	2
佐須町	114	7	121	17	9	26	1	1	2
柴崎	96	4	100	43	20	63	4	2	6
入間町	43	3	46	2		2	9		9
東つつじヶ丘	61	8	69	3		3	22	16	38
西つつじヶ丘	169	16	185	18	21	39	690	695	1,385
若葉町	49	4	53	2		2	2		2
仙川	34	13	47	2		2	1		1
緑ヶ丘	38	4	42	4		4			
菊野台	133	18	151	256	158	414	204	381	585
市内小計	6,931	2,481	9,412	2,126	1,538	3,664	960	1,137	2,097
調布市外	336	6	342	52	8	60	34	16	50
合計	7,267	2,487	9,754	2,178	1,546	3,724	994	1,153	2,147

(成人・児童別) (表 V-4)

深大寺分館			神代分館			宮の下分館		
成人	児童	計	成人	児童	計	成人	児童	計
						183	177	360
						540	435	975
3	4	7	3	2	5	198	194	392
4	1	5	1		1	458	441	899
9		9	1		1	4	3	7
9	6	15	2		2	33	3	36
	1	1	3	1	4	5		5
5	1	6	2	1	3	2		2
4	3	7	7	6	13	5	4	9
1		1	2	1	3			
2		2	5	1	6	6		6
96	82	178	2	1	3			
662	424	1,086	8	1	9	1		1
421	266	687	214	131	345	1		1
49	27	76	81	51	132	2	1	3
2	1	3	18	11	29	1	1	2
6		6	685	452	1,137	1		1
			2		2	1		1
			43	19	62			
2	1	3	802	466	1,268	1	1	2
			7	3	10			
1		1	7	3	10			
1		1	2		2			
1	4	5	53	30	83		1	1
1,278	821	2,099	1,950	1,180	3,130	1,442	1,261	2,703
41	9	50	263	60	323	54	7	61
1,319	830	2,149	2,213	1,240	3,453	1,496	1,268	2,764

館別・町別登録者数

館名 町名	緑ヶ丘分館			富士見分館			若葉分館		
	成人	児童	計	成人	児童	計	成人	児童	計
飛田 裕 (含、野水西町)				13	10	23	1		1
上石原				33	17	50	1		1
下石原		2	2	92	110	202	1		1
多摩川	3		3	6	3	9	2	1	3
富士見町				933	835	1,768	1		1
小島町	2		2	125	123	248	5		5
布田	1	1	2	7	5	12	1		1
調布ヶ丘				81	85	166			
国領町	3	7	10	8	6	14	9	10	19
八雲台		1	1				1	1	2
柴地	1		1	4	5	9	3		3
深大寺元町				87	80	167	1		1
深大寺北町									
深大寺東町	4	2	6	1		1	3		3
深大寺南町	1		1	1	1	2	1	1	2
佐須町	2	1	3	3	2	5	1	1	2
柴崎							3		3
入間町	2	3	5				634	576	1,210
東つつじヶ丘		1	1	1		1	370	280	650
西つつじヶ丘	4	7	11	2		2	284	109	393
若葉町	5	2	7				624	391	1,015
仙川	108	96	204				167	120	287
緑ヶ丘	858	745	1,603	3		3	17	6	23
菊野台		4	4		3	3	18	7	25
市内小計	994	872	1,866	1,400	1,285	2,685	2,148	1,503	3,651
調布市外	173	72	245	24	5	29	81	40	121
合計	1,167	944	2,111	1,424	1,290	2,714	2,229	1,543	3,772

(成人・児童別) (表 V-4)

柴地分館			佐須分館			合計		
成人	児童	計	成人	児童	計	成人	児童	計
			1		1	443	271	714
2	1	3	1		1	881	534	1,415
2		2	5	2	7	814	550	1,364
47	13	60	4	2	6	1,172	885	2,057
1		1	14	5	19	1,367	904	2,271
9	4	13	10	4	14	1,114	614	1,728
44	23	67	35	38	73	996	502	1,498
2		2	209	186	395	768	444	1,212
274	172	446	131	165	296	2,665	1,895	4,560
1	2	3	189	131	320	348	188	536
2,322	1,685	4,007	10		10	3,167	1,847	5,014
5	1	6	106	91	197	487	315	802
			4		4	729	431	1,160
3		3	28	33	61	757	435	1,192
1	1	2	192	135	327	414	230	644
3	1	4	683	411	1,094	845	446	1,291
	1	1	145	129	274	983	608	1,591
						693	582	1,275
			2		2	502	324	826
1	5	6	18	23	41	1,991	1,344	3,335
1		1	2		2	692	400	1,092
2		2				322	232	554
						923	755	1,678
6	2	8	39	26	65	710	634	1,344
2,726	1,911	4,637	1,828	1,381	3,209	23,783	15,370	39,153
24	11	35	15		15	1,097	234	1,331
2,750	1,922	4,672	1,843	1,381	3,224	24,880	15,604	40,484

館別・職業別登録者数 (表 V-5)

館名 職業別	中央館	国領	つつじヶ丘	深大寺	神代	宮の下	緑ヶ丘	富士見	若葉	染地	佐須	合計	%
中学生	639	439	135	212	353	329	184	231	524	641	374	4,061	10.0 (16.3)
高校生	784	215	46	150	211	119	91	114	222	227	181	2,360	5.8 (9.5)
小学生	1,773	189	41	94	229	82	93	76	180	135	133	3,025	7.5 (12.2)
勤労者	1,741	515	222	250	481	362	283	325	429	609	394	5,611	13.9 (22.5)
主婦	1,595	591	476	467	769	521	424	576	678	955	503	7,655	8.9 (30.8)
自営業	163	57	23	50	48	27	31	27	58	53	50	587	1.5 (2.4)
その他	185	45	15	23	36	16	12	21	45	25	30	453	1.1 (1.8)
無職	387	127	36	73	86	40	49	54	93	105	78	1,128	2.8 (4.5)
小計	7,267	2,178	994	1,319	2,213	1,496	1,167	1,424	2,229	2,750	1,843	24,880	61.5(100.0)
児童	2,487	1,546	1,153	830	1,240	1,268	944	1,290	1,543	1,922	1,381	15,604	38.5
合計	9,754	3,724	2,147	2,149	3,453	2,764	2,111	2,714	3,772	4,672	3,224	40,484	100.0
%	2.41	9.2	5.3	5.3	8.5	6.8	5.2	6.7	9.3	11.6	8.0	100.0	

3. 市内小中学生の登録状況 (昭和59年度調査結果)

この調査は、3年に一回の割合で実施している調査で、調査方法は図書館に登録されたデータをもとに、各学校別、学年別に仕訳をして集計したものである。

これまでの調査は昭和43、47、50、53、56年度に実施をし、今回は6回目の調査である。

(1) 小学生の状況 (表 V-6・7) (図 V-5)

学校別に登録状況をみると、飛田給小が60%を下廻っており、富士見台小、深大寺小がそれに次いで低い登録率となっている。これらの地域は市内に点在する分館との距離が比較的遠く、児童の図書館利用に関しては困難な地域といわなくてはならない。

しかし、前回の調査結果と比較すると、50%台の学校が2校あったが、今回は1校となり、60%台が5校で、全体的なレベルアップが計られた。

学年別の状況をみると、3~4年生を頂点として山型の登録率を示しているが、前回の調査結果と比べ各学年とも登録率が上廻っており、4年生では95.8%で、殆ど全児童が登録している。

前回65%であった6年生も76.0%と大巾にアップし、小学生の全体の登録率は85.0%で全国的にも高い数値を示している。

なお、全館で小学校と協力をして3年生を対象に図書館利用のガイダンスや、ブックトーク、読み聞かせ、ストーリーテリング等を定期的実施して読書の動機づけを行っており、その成果として高い登録率となっていると思われる。(表 IV-1)

(2) 中学生の状況 (表 V-8・9) (図 V-4)

中学生の場合は、学校別の格差がかなりあり、高い学校で73.1% (四中)、低い学校では35.4% (八中)、38.9% (調布中) となっており、近くに分館がある場合とそうでない場合の状況が端的にあらわれている。また館別の登録状況をみると、蔵書を多く所蔵している館に集まる傾向が少しずつ見られ、中学生の行動範囲が小学生のときよりさらに拡大していることがわかる。

一方、学年別の状況をみると、1年生が66.5%と最も多く、2年、3年と進むにつれて登録率が低くなっていく。なお、前回の調査結果と比べると僅かだが増えており、今後の働きかけによって更に拡大されることが期待できる。

(3) 未就学児童の状況 (図 V-6)

0才~6才までの未就学児童(乳児・幼児)の状況であるが(6才児のデータは、小学1年生と重複するため若干誤差が認められるので、参考程度とする)、5才児では62.0%と半数以上の幼児がすでに図書館の利用者として登録されている。これは、市内全域をカバーする分館が整備されていることの具体的な現われと考えられる。

学校別・館別登録者数

学校名	館名	中央館		国領分館		つつじヶ丘分館	
		登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
第 一		428	47.3	9		5	
第 二		173	35.3	238	48.6	6	
第 三		109	15.7	3		2	
八雲台		118	16.1	85	11.6	3	
富士見台		382	59.0	3			
滝坂		7				24	
深大寺		42	8.0				
上ノ原		11		17		2	
石原		58		1		1	
若葉				4		8	
野川		20		16		418	78.6
緑ヶ丘		1					
染地		24		25			
北ノ台		8		1			
多摩川		52	9.0				
杉森		72		25		1	
大町		5		123	26.9	230	43.2
飛田給		71	14.5				
柏野		19		5		1	
国領		56		694	86.3	17	
布田		245	43.3				
小計		1,901		1,249		718	
桐朋		17		5		3	
晃華		21		7		5	
その他		49		13		31	
合計		1,988		1,274		757	

(小学校) (表 V-6)

(登録率が100%以上になるのは重複登録のため)

深大寺分館		神代分館		宮の下分館	
登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
		4		3	
1		4		1	
				443	63.6
				11	
1		146	19.7		
144	27.4	36			
17		655	69.4		
		1		2	
		4			
		26			
679	74.1	1		1	
				332	57.5
		21			
				169	34.6
		9			
4		11		8	
846		918		970	
4		12		7	
10		38		3	
27		87		10	
887		1,055		990	

学校別・館別登録者数

学校名	緑ヶ丘分館		富士見分館		若葉分館	
	登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
第一	3		266	29.4	4	
第二	4		3		3	
第三	3		44			
八雲台	4				4	
富士見台			6			
滝坂	20		1		297	40.1
深大寺			11			
上ノ原					6	
石原			579	74.3	1	
若葉	3				780	105.8
野川	9				83	15.6
緑ヶ丘	587	79.9			13	
染地						
北ノ台						
多摩川			3			
杉森	1					
大町					6	
飛田給			10			
柏野	1				1	
国領	5		4		11	
布田						
小計	640		927		1,209	
桐朋	6		4		20	
見華	3		1		6	
その他	75		12		40	
合計	724		944		1,275	

(小学校) (表 V-6)

染地分館		佐須分館		計	
登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
6		71		799	88.4
44	9.0	10		487	99.4
		2		606	87.1
5		431	58.9	650	88.8
4		2		408	63.1
				496	66.9
		105	20.0	338	64.4
		135	14.3	843	89.3
		4		647	83.1
				799	108.4
		16		588	110.5
2				603	82.0
474	80.2	1		524	88.7
		2		692	75.5
1				388	67.2
791	85.1			890	95.7
		1		386	84.3
3		3		256	52.4
		455	92.3	491	99.9
14		42		866	107.7
148	26.1			393	69.4
1,492		1,280		12,150	85.0
4		7		89	
2		24		120	
44		10		398	
1,542		1,321		12,757	

学校別・学年別登録者数

学年 学校名	1 年		2 年		3 年	
	児童数	登録者数	児童数	登録者数	児童数	登録者数
第 一	131	106	141	127	144	118
第 二	72	58	70	61	78	82
第 三	93	72	107	85	123	118
八 雲 台	120	95	108	95	113	109
富 士 見 台	108	61	104	67	109	77
滝 坂	123	73	110	72	121	89
深 大 寺	78	47	87	37	76	51
上 ノ 原	145	114	151	116	139	121
石 原	109	90	117	108	137	121
若 葉	104	109	127	136	114	124
野 川	105	86	85	90	76	128
緑 ケ 丘	103	89	99	91	112	116
染 地	68	61	82	76	96	89
北 ノ 台	142	110	133	114	126	104
多 摩 川	92	46	87	60	110	82
杉 森	149	138	146	139	152	148
大 町	69	62	68	68	73	61
飛 田 給	79	30	74	30	74	60
柏 野	72	74	85	86	76	82
国 領	98	95	137	150	151	147
布 田	92	54	83	68	82	62
小 計	2,152	1,670	2,202	1,877	2,283	2,089
登 録 率	77.6		85.2		91.5	
桐 朋		11		12		16
見 華		10		18		21
そ の 他		63		39		55
合 計		1,754		1,946		2,181

(小学校) (表 V-7)

(登録率が100%以上になるのは重複登録のため)

4 年		5 年		6 年		合 計		登録率
児童数	登録者数	児童数	登録者数	児童数	登録者数	児童数	登録者数	
167	168	168	135	153	145	904	799	88.4
73	100	97	74	100	112	490	487	99.4
137	142	109	90	127	99	696	606	87.1
122	135	121	111	148	105	732	650	88.8
92	62	126	88	108	53	647	408	63.1
110	84	141	102	131	76	741	496	66.9
77	44	107	85	100	74	525	338	64.4
167	176	162	174	180	142	944	843	89.3
150	126	136	120	130	82	779	647	83.1
129	145	119	128	144	157	737	799	108.4
78	91	91	99	97	94	532	588	110.5
141	116	147	102	133	89	735	603	82.0
102	102	121	106	115	90	591	524	88.7
169	128	184	129	162	107	916	692	75.5
99	75	76	54	113	71	577	388	67.2
152	160	169	163	162	142	930	890	95.7
82	60	81	67	82	68	458	386	84.3
96	48	78	55	88	32	489	256	52.4
95	97	72	65	93	87	493	491	99.9
139	238	151	139	128	97	804	866	107.7
104	85	107	72	98	52	566	393	49.4
2,487	2,382	2,563	2,158	2,599	1,974	14,286	12,150	85.0
95.8		84.2		76.0				
	16		22		12		89	
	25		24		22		120	
	90		70		81		398	
	2,513		2,274		2,089		12,757	

学校別・館別登録者数

学校名	館名	中央館		国領分館		つつじヶ丘分館	
		登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
調	布	133	12.5				
神	代	22				1	
第	三	218	15.9	72	5.3		
第	四	13		13		77	9.3
第	五	161	16.4	8			
第	六	26		234	43.2	39	
第	七	56		41		2	
第	八	1		3			
小	計	630		371		119	
桐	朋	17		8		1	
晃	華	5		1		1	
そ	の	84		20		7	
合	計	736		400		128	

学校名	館名	緑ヶ丘分館		富士見分館		若葉分館	
		登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
調	布			250	23.4		
神	代			3			
第	三					1	
第	四	9		1		460	55.6
第	五			3		1	
第	六					4	
第	七			2		2	
第	八	155	32.6			6	
小	計	164		259		474	
桐	朋	8		2		16	
晃	華	2				4	
そ	の	43		17		40	
合	計	217		278		534	

(中学校) (表 V-8)

深大寺分館		神代分館		宮の下分館	
登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
9				8	
202	16.0	165	13.1		
		30		1	
		13		282	28.7
		5			
		7			
		2			
211		222		291	
1		15		2	
2		3			
24		52		21	
238		292		314	

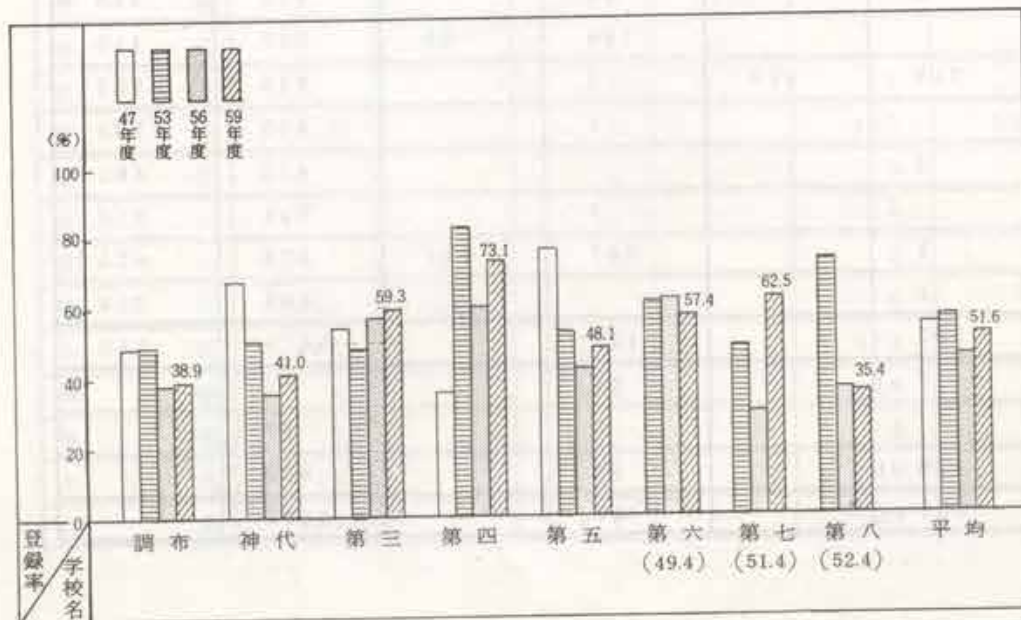
染地分館		佐須分館		計	
登録者数	登録率	登録者数	登録率	登録者数	登録率
2		13		415	38.9
		124	9.8	517	41.0
519	37.9	3		813	59.3
		1		605	73.1
4				472	48.1
		3		311	57.4
1		267	44.1	378	62.5
1				168	35.4
527		411		3,679	51.6
7		10		87	
		5		23	
26		24		358	
560		450		4,147	

学校別・学年別登録者数(中学校) (表 V-9)

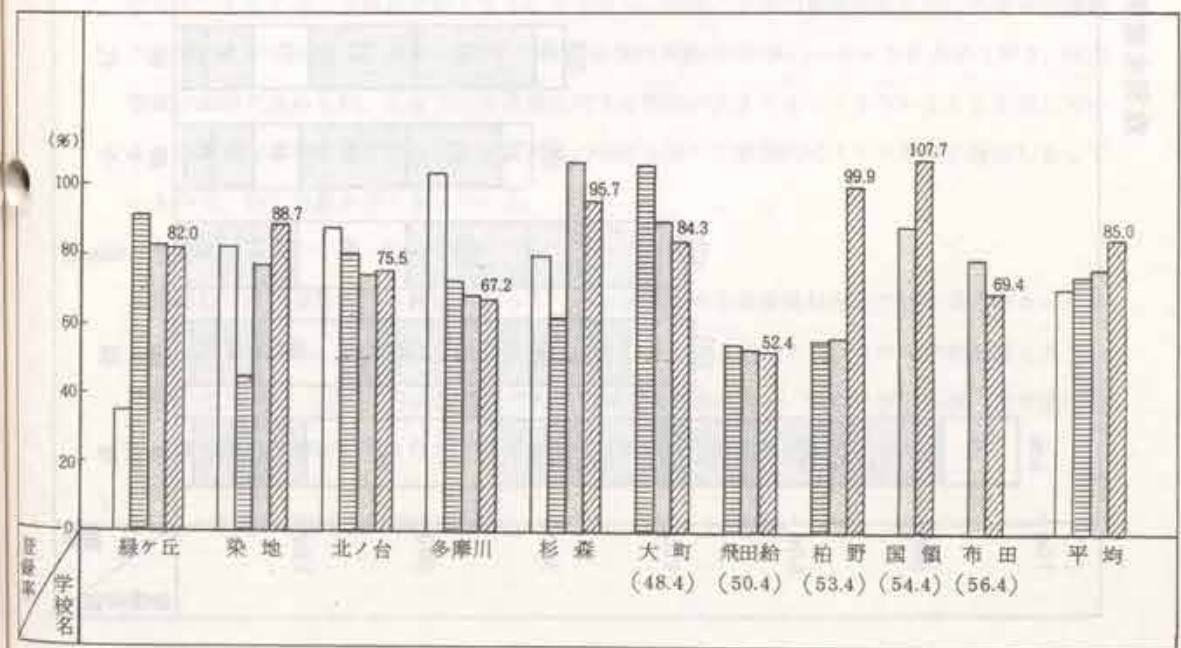
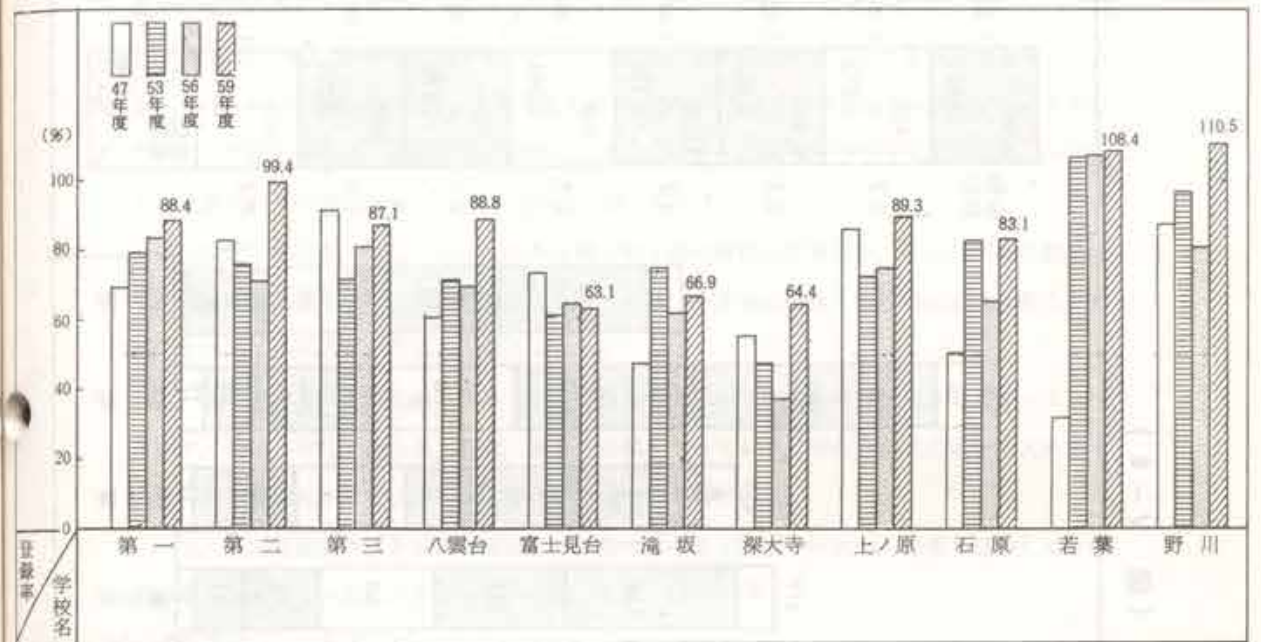
学年 学校名	1年		2年		3年		計		登録率
	生徒数	登録者数	生徒数	登録者数	生徒数	登録者数	生徒数	登録者数	
調布	375	255	359	109	333	51	1,067	415	38.9
神代	410	236	441	192	411	89	1,262	517	41.0
第三	443	272	435	274	493	267	1,371	813	59.3
第四	289	255	259	154	280	196	828	605	73.1
第五	354	203	306	156	321	113	981	472	48.1
第六	203	145	181	107	158	59	542	311	57.4
第七	230	198	183	98	192	82	605	378	62.5
第八	161	76	160	59	154	33	475	168	35.4
小計	2,465	1,640	2,324	1,149	2,342	890	7,131	3,679	51.6
登録率	66.5		49.4		38.0				
桐朋		36		19		32			8.7
晃華		7		7		9			2.3
その他		161		117		80			35.8
合計		1,844		1,292		1,011			41.47

学校別登録率の推移(中学校) (図 V-4)

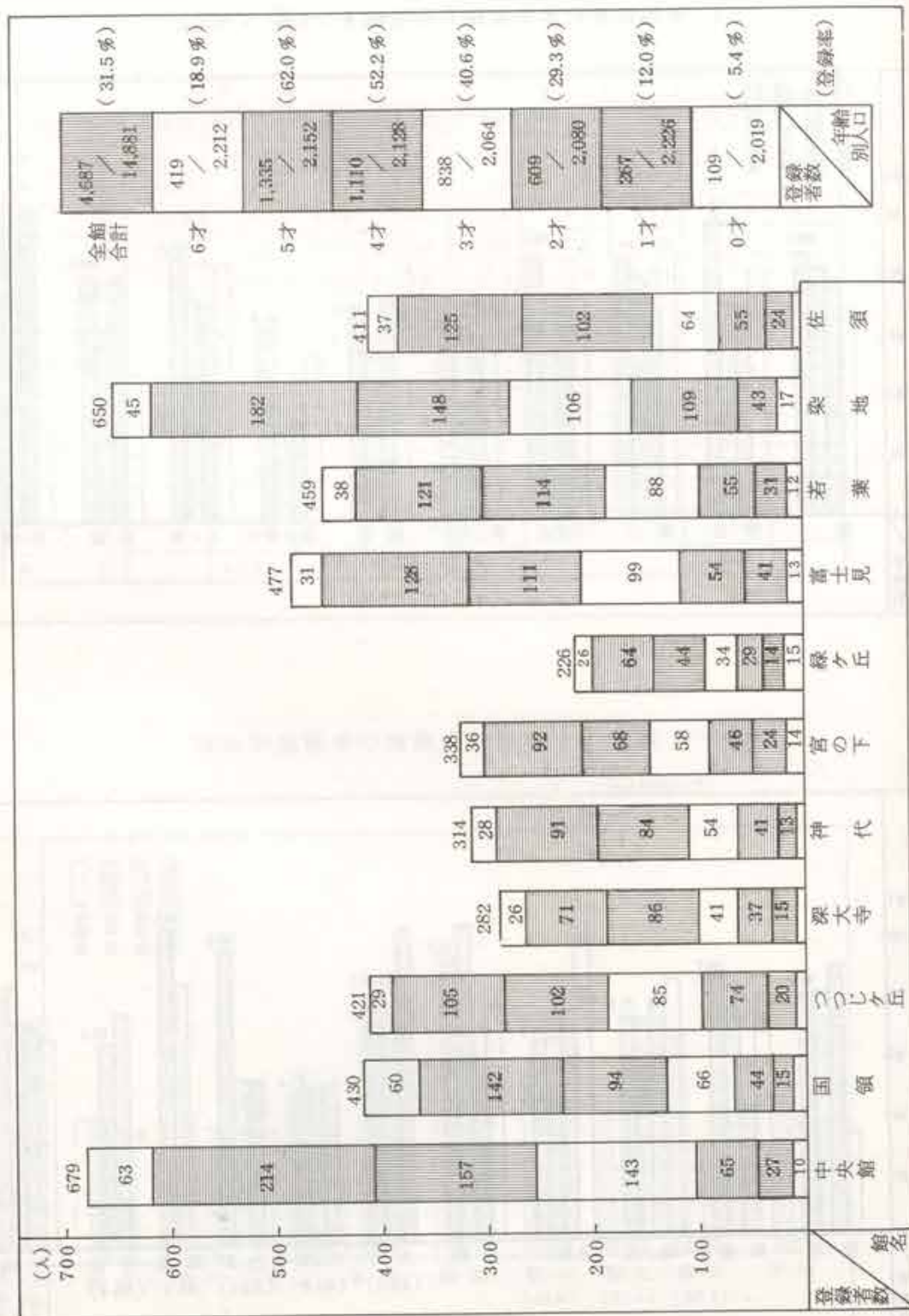
()内は開校年月



学校別登録率の推移(小学校) (図 V-5)



館別未就学児の登録者数 (図 V-6)



4. 貸出状況

(1) 個人貸出 (表 V-10)

貸出冊数の推移を年度別にみると、昭和54年以降徐々に上向きの傾向を示してきた。この間、55年に染地分館、57年に佐須分館がそれぞれ開館し冊数の上昇を支えてきたと言える。しかし、59年以降その傾向は後退し、今年度も前年の冊数を約6,000冊下廻る666,784冊に減少した。この内訳をみると、登録状況と同様に、成人では約10,000冊の伸びを示しているのに対して、児童は約16,000冊の減となっている。(図 V-7)

館別に貸出状況を見ると、中央館が各分館の約2倍の貸出しであるが、これは駅前の利便さや、中央館の蔵書規模等の関係で当然のことであり、中央館の規模・機能等の拡大が計られれば、その差は更に広がっていくと考えられる。

又、各分館をそれぞれ比較してみると、染地分館が昨年同様他の分館を大きく上廻っており、次いで、国領、神代、富士見、若葉、宮の下の順となっており、昨年と比べて若干の入れ替えが見られるが地域としては昨年とほぼ同様の結果となっている。

一方、利用者別にみると成人の貸出しは7館で昨年を上廻っているが、児童の貸出しは4館で昨年を上廻っているにとどまった。(表 V-13)

(2) 団体貸出 (表 V-11)

現在図書館に登録されている団体は44団体である。その大半が幼児や児童をかかえている文庫や、学校、幼稚園等である。

貸出しの実績は昨年とほぼ同様であり、団体貸出しがある程度定着してきたと言える。特に注目すべきことは、文庫の活動もさることながら、学校との協力事業にもとづいた学校図書館や、学級文庫への貸出しである。これらは団体貸出冊数の75%パーセントを占めており、協力事業が順調に進められ、先生方の図書館に対する期待が大きくなってきていることを示している。若葉分館は若葉小学校全クラスに読書の時間を通して定期的にクラス単位の貸出しをしているので、特に冊数が増えている。

(3) 予約状況 (表 V-12)

図書館では、貸出中等の理由によって、利用者に求める図書資料をその場で貸出せないことがある。その場合、利用者はその図書資料を予約することができる。それを予約制度と言う。当館では57年4月から、予約図書受付件数の調査を開始したが、貸出状況と同様、今年度は昨年度より成人図書は約300件増え、児童図書は約500件減少した。

(注) 最近6年間の図書館の動きについては、表V-14参照。

館別個人貸出冊数

資料別	館別	中央館	国領分館	つつじヶ丘分館	深大寺分館	神代分館	宮の下分館
雑誌		5,819	2,567	3,652	1,929	2,741	2,690
郷土資料		175					
成人図書		71,675	31,304	14,905	20,413	32,736	26,776
小計		77,669	33,871	18,557	22,342	35,477	29,466
児童図書		39,411	26,668	21,309	15,232	22,316	22,555
合計		117,080	60,539	39,866	37,574	57,793	52,021

館別団体貸出冊数

団体別	館別	中央館	国領分館	つつじヶ丘分館	深大寺分館	神代分館
団体数		5	2	5	3	5
貸出冊数	成人				51	19
	学校	1,910	162	79	200	
	文庫等	277	608	403	144	780
	合計	2,187	770	482	395	799

館別予約図書受付件数

資料別	館別	中央館	国領分館	つつじヶ丘分館	深大寺分館	神代分館
成人図書		2,367	1,026	929	674	1,322
児童図書		467	376	215	174	312
合計		2,834	1,402	1,144	848	1,634

(表 V-10)

緑ヶ丘分館	富士見分館	若葉分館	染地分館	佐須分館	計	%
3,247	2,666	3,620	4,330	3,198	36,459	5.5
					175	
23,496	25,038	29,207	42,862	23,637	342,049	51.3
26,743	27,704	32,827	47,192	26,835	378,683	56.8
18,598	29,712	24,337	44,765	23,198	288,101	43.2
45,341	57,416	57,164	91,957	50,033	666,784	100.0

(表 V-11)

宮の下分館	緑ヶ丘分館	富士見分館	若葉分館	染地分館	佐須分館	計
5	4	4	5	4	2	44
	217		4			291
527	46	1,265	8,452		273	12,914
358	913	307	132	258		4,180
885	1,176	1,572	8,588	258	273	17,385

(表 V-12)

宮の下分館	緑ヶ丘分館	富士見分館	若葉分館	染地分館	佐須分館	計
909	992	856	546	1,502	646	11,769
364	385	433	395	1,368	230	4,719
1,273	1,377	1,289	941	2,870	876	16,488

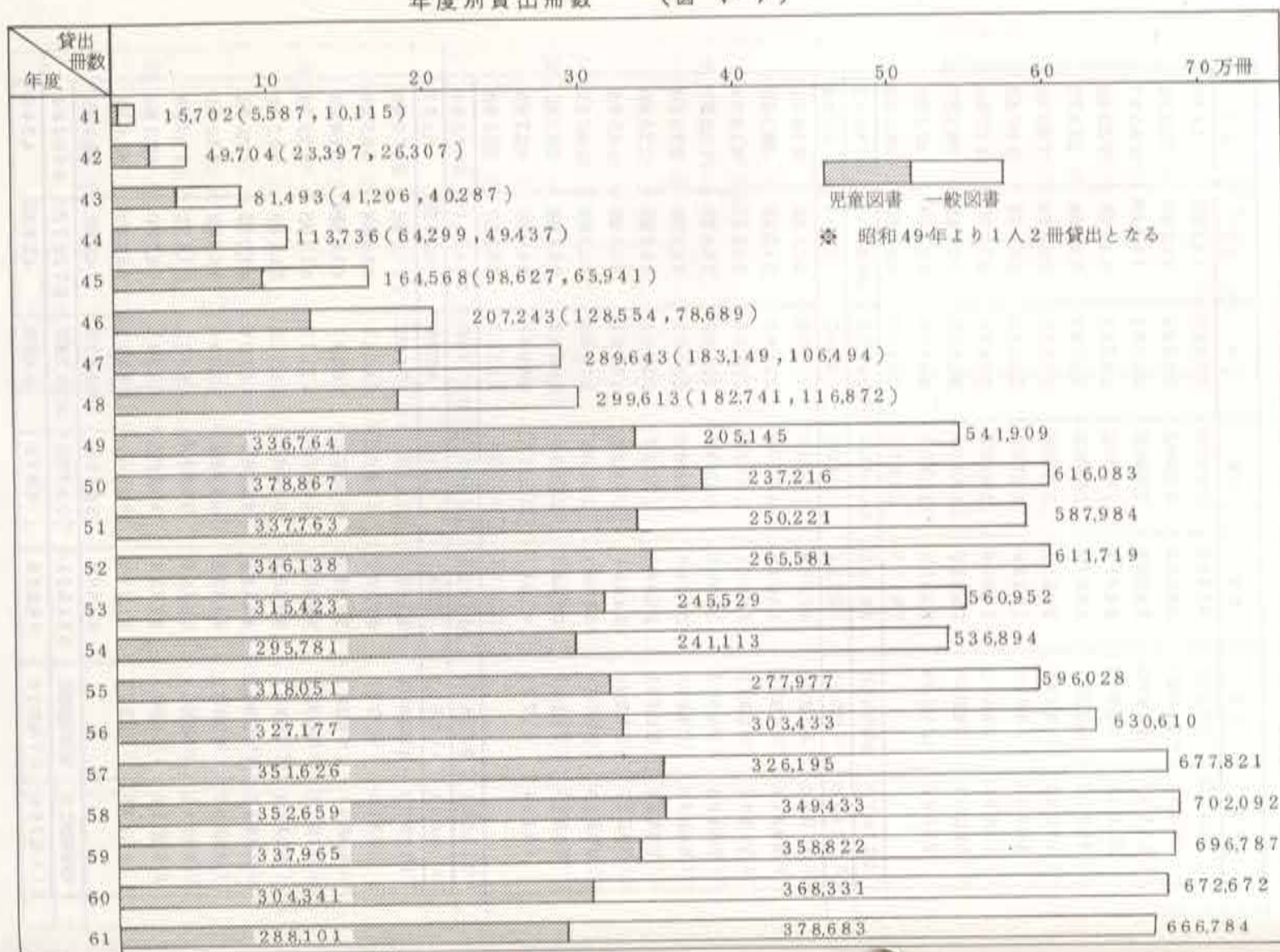
年度別・館別貸出冊数

館名		年度	41	51	52	53	54
成人	中央館		10,115	80,093	81,262	75,982	72,697
	国領分館			21,968	25,134	26,938	25,650
	つつじヶ丘分館			15,248	16,647	14,022	13,637
	深大寺分館			23,874	23,504	16,492	19,251
	神代分館			32,250	31,567	28,838	27,945
	宮の下分館			15,208	17,112	15,614	16,395
	緑ヶ丘分館			17,614	20,777	20,475	19,417
	富士見分館			17,334	17,496	15,514	16,564
	若葉分館			26,632	32,082	31,654	29,557
	染地分館						
佐須分館							
小計			10,115	250,221	265,581	245,529	241,113
指数			100	2,474	2,626	2,427	2,384
児童	中央館		5,587	63,687	67,653	60,247	54,480
	国領分館			31,773	32,434	30,472	28,967
	つつじヶ丘分館			40,957	41,531	35,740	32,467
	深大寺分館			31,675	32,904	23,943	26,755
	神代分館			36,642	35,135	32,747	30,927
	宮の下分館			29,548	31,134	30,194	28,054
	緑ヶ丘分館			35,863	37,438	36,688	35,694
	富士見分館			33,146	33,647	32,422	29,463
	若葉分館			34,472	34,262	32,970	28,974
	染地分館						
佐須分館							
小計			5,587	337,763	346,138	315,423	295,781
指数			100	6,046	6,195	5,644	5,294
合計	中央館		15,702	143,780	148,915	136,229	127,177
	国領分館			53,741	57,568	57,410	54,617
	つつじヶ丘分館			56,205	58,178	49,762	46,104
	深大寺分館			55,549	56,408	40,435	46,006
	神代分館			68,892	66,702	61,585	58,872
	宮の下分館			44,756	48,246	45,808	44,449
	緑ヶ丘分館			53,477	58,215	57,163	55,111
	富士見分館			50,480	51,143	47,936	46,027
	若葉分館			61,104	66,344	64,624	58,531
	染地分館						
佐須分館							
小計			15,702	587,984	611,719	560,952	536,894
指数			100	3,745	3,896	3,572	3,419

(表 V-13)

55	56	57	58	59	60	61
75,135	81,207	77,898	75,104	75,986	74,269	77,669
26,454	29,727	28,635	31,562	31,545	34,245	33,871
17,597	21,682	20,248	20,909	20,152	19,448	18,557
21,032	22,244	24,494	25,273	24,533	23,229	22,342
29,776	30,331	29,643	29,643	31,748	33,899	35,477
18,333	19,243	20,555	22,058	23,175	25,553	29,466
16,950	17,902	18,258	20,764	23,263	25,417	26,743
19,351	20,862	24,009	26,382	26,415	27,278	27,704
28,267	30,666	29,685	28,911	31,659	32,642	32,827
25,082	29,569	33,595	39,883	40,194	43,764	47,192
		19,175	28,811	30,152	28,587	26,835
277,977	303,433	326,195	349,433	358,822	368,331	378,683
2,748	3,000	3,224	3,455	3,547	3,641	3,744
47,694	51,262	47,758	44,649	41,706	37,722	39,411
30,426	38,058	33,642	36,399	32,668	31,239	26,668
31,547	32,429	30,961	32,715	30,085	24,250	21,309
26,183	24,652	24,963	24,305	22,589	18,474	15,232
30,888	29,120	27,238	24,868	23,577	22,250	22,316
28,184	26,709	24,641	23,227	23,331	21,682	22,555
29,027	25,230	24,554	24,522	24,091	21,125	18,598
28,989	29,789	34,783	33,231	29,886	30,394	29,712
24,949	28,137	28,039	27,081	30,582	26,148	24,337
40,164	41,791	47,613	50,678	48,247	44,680	44,765
		27,434	30,984	31,203	26,377	23,198
318,051	327,177	351,626	352,659	337,965	304,341	288,101
5,691	5,856	6,293	6,312	6,049	5,447	5,157
122,829	132,469	125,656	119,753	117,692	111,991	117,080
56,880	67,785	62,277	67,961	64,213	65,484	60,539
49,144	54,111	51,209	53,624	50,237	43,698	39,866
47,215	46,896	49,457	49,578	47,122	41,703	37,574
60,664	59,451	56,881	54,644	55,325	56,149	57,793
46,517	45,952	45,196	45,285	46,506	47,235	52,021
45,977	43,132	42,812	45,286	47,354	46,542	45,341
48,340	50,651	58,792	59,613	56,301	57,672	57,416
53,216	58,803	57,724	55,992	62,241	58,790	57,164
65,246	71,360	81,208	90,561	88,441	88,444	91,957
		46,609	59,795	61,355	54,964	50,033
596,028	630,610	677,821	702,092	696,787	672,672	666,784
3,796	4,016	4,316	4,471	4,438	4,284	4,246

年度別貸出冊数 (図 V-7)



- 78 -

図書館活動6ヶ年間の実績 (表 V-14)

年度	56	57	58	59	60	61
登録率 (市内登録者数/人口 × 100)	$\frac{37840}{178814} \times 100 = 21.2$	$\frac{40616}{180731} \times 100 = 22.5$	$\frac{40312}{181942} \times 100 = 22.2$	$\frac{40373}{184253} \times 100 = 21.9$	$\frac{39558}{187244} \times 100 = 21.1$	$\frac{39153}{189747} \times 100 = 20.6$
市民1人当りの貸出冊数 (貸出冊数/人口)	$\frac{630610}{178814} = 3.53$	$\frac{694732}{180731} = 3.84$	$\frac{718780}{181942} = 3.95$	$\frac{714091}{184253} = 3.88$	$\frac{690570}{187244} = 3.69$	$\frac{684169}{189747} = 3.61$
登録者1人当りの貸出冊数 (貸出冊数/登録者数)	$\frac{630610}{39773} = 15.9$	$\frac{694732}{42354} = 16.4$	$\frac{718780}{41818} = 17.2$	$\frac{714091}{41791} = 17.1$	$\frac{690570}{40899} = 16.9$	$\frac{684169}{40484} = 16.9$
1日当りの貸出冊数 (貸出冊数/開館日数)	$\frac{630610}{2317} = 27.2$	$\frac{694732}{2633} = 26.4$	$\frac{718780}{2923} = 24.6$	$\frac{714091}{2978} = 24.0$	$\frac{690570}{2883} = 24.0$	$\frac{684169}{2902} = 23.6$
1冊当りの利用回数 (貸出冊数/蔵書数)	$\frac{630610}{283690} = 2.2$	$\frac{694732}{323167} = 2.1$	$\frac{718780}{341378} = 2.1$	$\frac{714091}{340982} = 2.1$	$\frac{690570}{345429} = 2.0$	$\frac{684169}{359422} = 1.9$
市民1人当りの年間受入冊数 (年間受入冊数/人口)	$\frac{48822}{178814} = 0.27$	$\frac{41508}{180731} = 0.23$	$\frac{39756}{181942} = 0.22$	$\frac{36823}{184253} = 0.20$	$\frac{38484}{187244} = 0.21$	$\frac{36568}{189747} = 0.19$
登録者1人当りの年間受入冊数 (年間受入冊数/登録者数)	$\frac{48822}{39773} = 1.23$	$\frac{41508}{42354} = 0.98$	$\frac{39756}{41818} = 0.95$	$\frac{36823}{41791} = 0.88$	$\frac{38484}{40899} = 0.94$	$\frac{36568}{40484} = 0.90$
市民1人当りの蔵書冊数 (蔵書数/人口)	$\frac{283690}{178814} = 1.59$	$\frac{323167}{180731} = 1.79$	$\frac{341378}{181942} = 1.88$	$\frac{340982}{184253} = 1.85$	$\frac{345429}{187244} = 1.84$	$\frac{359422}{189747} = 1.89$
市民1人当りの図書購入費 (図書購入費/人口)	$\frac{58291千円}{178814} = 3.26$	$\frac{51898千円}{180731} = 2.87$	$\frac{53959千円}{181942} = 2.97$	$\frac{49990千円}{184253} = 2.71$	$\frac{49955千円}{187244} = 2.67$	$\frac{73139千円}{189747} = 3.85$

※ 57年度以降の貸出冊数は団体貸出冊数をも含む。

- 79 -

VI ハンディキャップサービス

公共図書館は、「すべての住民の学習権の保障」「いつでも・どこでも・だれでも利用できる図書館」を目標としている。その意味で、ハンディキャップサービス（以下HCサービス）は、「図書館利用にハンディキャップのある人々へのサービス」として位置づけられ、図書館利用のための条件整理をすることが基本であり、何ら特殊なサービスではない。

調布市立図書館におけるHCサービスは、昭和54年4月打合せ会が発足し、その体制づくりが始まった。内容は、主に視覚障害者を対象とした朗読サービスと、点訳サービスを中心に行っている。ここ数年、具体的に他の図書館と比較しても、点訳の枚数、対面朗読の実施数、テープ雑誌の貸出数などは飛躍的な伸びを示している。また、今年度は朗読ボランティアだけでなく、点訳ボランティアに対しても謝礼が支払われるようになったのは大きな成果といえる。このように、利用者の増加に伴い業務量も増大しており、新中央館にむけて、予算・人員・技術・組織などの体制も整備されなければならない。

これまでのHCサービスは視覚障害者を中心にすすめてきたが、今後は、視覚障害者以外についてもサービスの範囲を広げ、文字通り「だれでも」利用出来る図書館を目指していかなければならない。

1. 朗読サービス

昭和57年から朗読ボランティア養成講座を開始した。その受講者は、終了後も継続して朗読の向上を目指している。61年度は、その朗読ボランティア38人の協力を得て、録音テープの作成と対面朗読を行った。

(1) 録音テープの所蔵状況 (図 VI-1)

当館作成テープは、61年度も46タイトル増え、総数で1,631本となっている。このうち43タイトルがリクエストによるものである。この場合、普通の出版物のままでは利用できない読者のために、各著作権者に依頼し、テープ化する許諾を得ている。ほとんどの著作権者が快く承諾してくれる中で、著作権問題をはじめ様々な条件がつけられるなど、許諾が受けにくい状況も生じている。

また、市販テープは内容の良いものを選び、年次的に整備していきたいと考えている。

(2) 録音テープの利用状況 (図 VI-2・3)

テープの利用は、所蔵の状況に比例して増加している。また、国立国会図書館・日本点字図書館・都立中央図書館を中心として、全国規模の目録が整備されてきたため、図書館間の相互貸借が盛んになり、61年度の他館へ貸出した録音テープは43タイトルに及んでいる。

最近の傾向としてはテープ雑誌の利用が多く、『文芸春秋』（テープ全12巻）や『暮らしの手帖』（テープ全4巻）など10種類のテープが、年間で2,842本貸出になった。

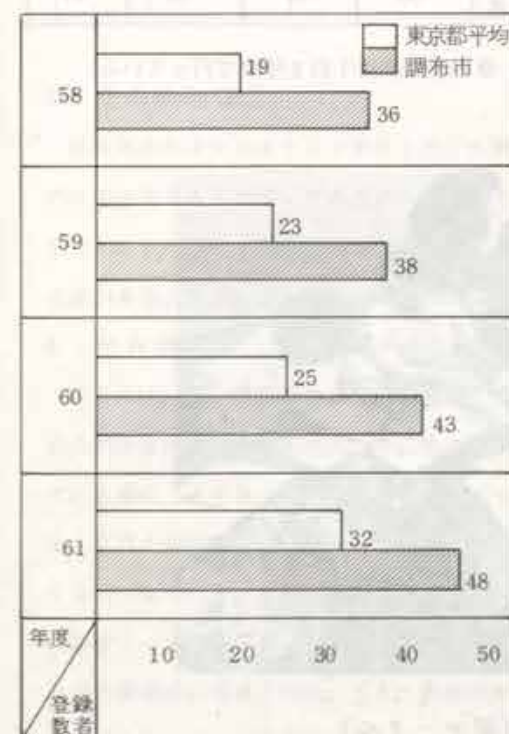
(3) 対面朗読 (図 VI-4・5)

利用者は多少変化しているが、総数に大きな変化はない。個人の利用頻度によって数値がかなり変わってくるサービスである。対面朗読室が中央館と離れたところにあるため、調べものや準備に時間を要し、時には利用が重なり、調整に苦心する場合もある。録音室、対面朗読室の完備した新中央館の待たれるところである。

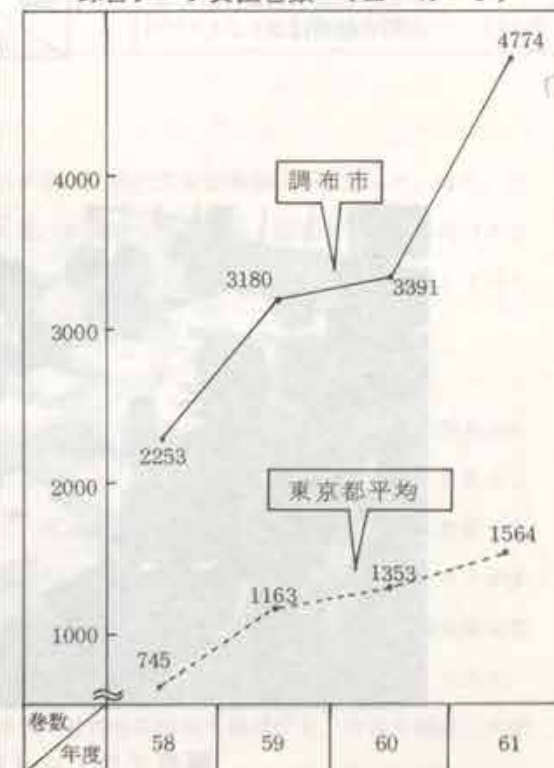
録音テープ所蔵状況 (図 VI-1)

年度	当館作成テープ		市販・寄贈テープ	
	タイトル	巻数	タイトル	巻数
58	208	735	249	305
59	244	948	320	390
60	260	1276	369	484
61	305	1631	405	581

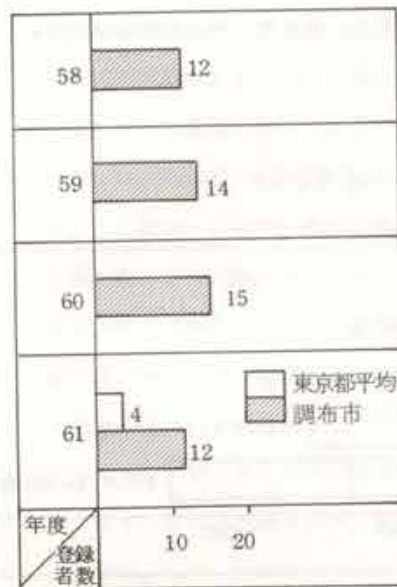
録音テープ利用者数 (図 VI-2)



録音テープ貸出巻数 (図 VI-3)

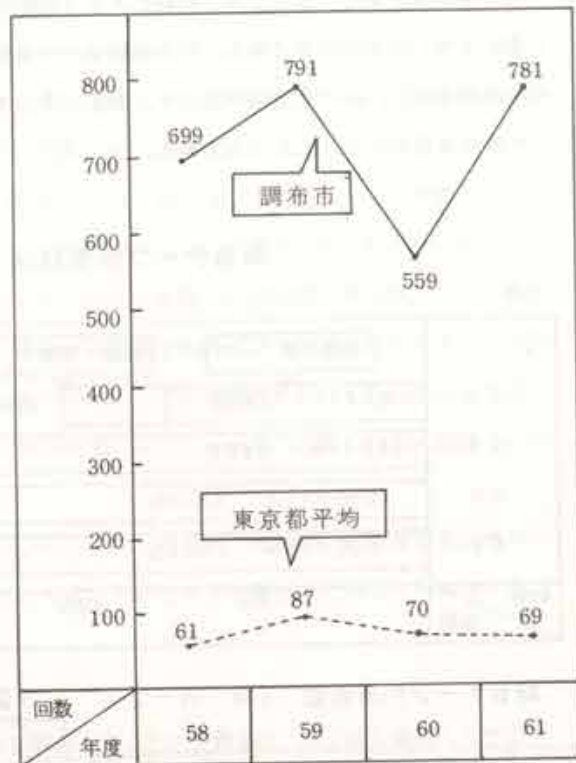


対面朗読利用者数 (図 VI-4)



※ 対面朗読における東京都平均の登録者数は、60年度以前の統計はなし。

対面朗読実施回数 (図 VI-5)



※ 対面朗読は1回2時間で行っている。



調布ブライユ (点訳サークル)

2. 点訳サービス (表 VI-1)

点字図書は、スペースなどの関係で購入していない。ただし、総合福祉センター(対面朗読室)に、各地の関係機関から送られてくる目録類や、ボランティア作成による点字図書を置いている。それらは、対面朗読を受ける利用者に読まれ、またそこから新たなリクエストが生じる。

一方、点訳プライベートサービスは、61年4月より点訳ボランティアへの有償化をしたことにより、利用者側の気持の負担を軽減する事ができ、利用は順調に伸びている。利用者の要求に対応できる体制作り(点訳技術、ボランティアの人数、予算)はまだ十分とはいえないが、年間1,200枚の点訳サービスは、東京都公立図書館協議会(実施館11館)の中でトップクラスに位置した。内容は、仕事に必要な資料、就職のための参考書、小学校の教科書のほか、新たに地図を立体化した触図、幼児を持つ全盲の両親のための点字絵本などの作成である。利用者は増えているが、障眼者のように教養的なものや趣味的なもののリクエストではなく、生活上、最低限必要なものをリクエストしていることがわかる。

点訳サービス実施状況 (表 VI-1)

利用者	リクエスト数	点訳枚数(両面)	点訳ボランティア	点字本の所蔵	
				自館作成	寄贈
5人	16件	1,200枚	14人	30タイトル 6千冊	108タイトル 146冊

3. その他の状況

拡大写本のリクエスト(1タイトル・5冊)があり、他の公共図書館より借用した。また、市内に拡大写本ボランティア自主グループ「そよ風」が誕生した。今後、弱視者や高齢者向けのサービスとして利用が見込まれる分野なので、大型活字本の購入や拡大写本の作成も検討していく必要がある。また、さわる絵本も定期的に借用して、利用に供している。

4. PR活動 (表 VI-2)

PRには、視覚障害者の少ない情報量を補うための情報提供サービスと、未利用者の開拓のための利用案内の二点があげられる。他市の図書館の状況からみても、定期的いきちんとPRをしている館は、より多くの利用実績につながっている。このことから、PR活動は特に重要である。『盲人福祉協会ニュース』は、昭和54年から発行しており、年々ここからのリクエストが多くなってきている。また、61年度は利用者の拡大を目指すために、市内在住の1級の視覚障害者に録音テープ目録を発送した。その結果、新たにサービスを受けたいという申込みが7人あり、PRの重要性が見直された。また、最近利用のない登録者の状況も確認でき、今後も継続した働きかけを行っていく必要がある。

61年度のPR活動 (表 VI-2)

事業名	内 容	備 考
調布盲人福祉協会ニュース (盲協ニュース)	・新刊の紹介 ・新しいテープのお知らせ ・新聞のニュースから ・図書館だより	「調布盲人福祉協会」を通じて発行(テープ版) 利用者(20人)
新着図書案内	・毎月発行している新刊目録のテープ版	利用者(7人)
利用案内録音テープ目録 (61年度版)	・福祉事務所の協力をえて市内在住の1級の方と現利用者(約120名)に発送	墨字版 テープ版 点字版(希望者)
市報への掲載	・利用案内	年2回

5. ボランティアの養成

事業名	期日・参加人数・会場	講 師 及 び 内 容
朗読ボランティアの集い	4月7日 24人 総合福祉センター	朗読ボランティアが集まり、情報交換等の懇談と、ボランティアの登録手続き
点訳ボランティア登録会	4月9日 25人 総合福祉センター	点訳ボランティアの登録手続き (点訳サービスの有償化説明)
点訳講習会 (初級)	61年6月12日～ 62年2月26日 (全14回) 30人 総合福祉センター	点字出版所「雑草の会」 織田 洋 点訳の基礎と応用、交流会
触図の勉強会	9月(全5回)13人 中 央 館	点訳ボランティア 榎本 道子 触図技術の基本と製作
朗読ボランティア講演会	11月11日 25人 総合福祉センター	音声表現総合研修所 坂井 清成 朗読ボランティアの心構えと実際

(ボランティアグループ)

グループ名	人数・定例日・会場	代 表 者	内 容
調布ブライユ (点訳)	28人 第2・4水曜日 総合福祉センター	榎本 道子	打ち合せと校正
ちょうふ水曜会 (朗読)	25人 第4水曜日 総合福祉センター	上田 千代子	作製テープを聞きあい、講評する

VII 集会・学習活動

1. 集会・学習活動の状況

調布市立図書館では、開館以来さまざまな集会学習活動を実施し、積極的に図書館側から市民に働きかける動的な図書館活動を展開してきた。これらの活動は、読書への啓蒙と図書館利用の促進を図るだけでなく、読書を通して生まれた市民一人ひとりの多様な学習意欲と文化的要求に対して、図書館が地域で学び創造する機会と場を提供する活動であり、読書を媒体とする、生活に根を下した生涯学習の確立を目的としている。

現在行っている事業は、図書館が主催する事業と、図書館を拠点に活動している市民の自主的な読書会や研究会等のサークルの連合体である「調布ブッククラブ」の事業とに大別することができる。図書館は、新鮮で評価の高い各分野の図書をテーマにした講演会や講座を中心に事業を行い、市民が自由に参加できる機会を提供している。特に、今年度は、図書館開館20周年記念行事と国際平和年を記念した講演会、映画会を実施した。これらの内容を録音したカセットテープは、中央館で図書と同様に利用に供され、直接参加できない多くの市民に鑑賞されている。一方、調布ブッククラブは、開かれた市民の学習、創造の場として幅広い活動を展開し、会員個々の生涯学習の確立に努めた。

図書館と調布ブッククラブの協力により、例年2月に開催している「図書館まつり」は、今年で15回を数えるに至った。これは、約一ヶ月間に集中的に事業を実施する、図書館において最も規模の大きい集会学習活動である。内容は、多様な市民の要求に応えるため、各種講演会映画会、市民俳句会、短歌会等多岐にわたり、今回も多くの市民が参加した。

2. 行 事

(1) 講 演 会

事業名	期日・参加人数・会場	講 師 及 び 内 容
文化講演会	11月6日 約160人 総合福祉センター	山形県高島町教育委員長・百姓 星 寛治 「すでに秋・野の声 土の声」
図書館開館20周年記念講演会	11月22日 約250人 グリーンホール(小)	お茶の水女子大学教授 小川 剛 「これからの図書館に求められるもの」
講 演 会	12月9日 約50人 東洋信託銀行	東洋信託銀行総合財務相談室長 青野 忠道 「知りたい間接税 考えたい年金・相続税」

(2) 地域講演会 ()内は共催団体

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
第三中学校地域講演会	9月20日 約250人 第三中学校	アナウンサー 中西 龍 (第三中PTA) 「言葉はしみじみとー私の日記から」
野川小学校地域講演会	10月8日 約250人 野川小学校	童話作家 宮川 ひろ (野川小PTA) 「春駒のうたと私ー心の豊かさをどう育てるか」
佐須地域講演会	11月29日 約300人 晃華学園	作家 高 史明 (晃華学園PTA) 「生きとし生けるいのちの優しさ」
国領小学校地域講演会	1月17日 約100人 国領小学校	アナウンサー 中西 龍 (国領小PTA) 「女性の生き方」

(3) 講座・講習会

教育講座 第1回	7月8日 約180人 グリーンホール(小)	テレビ朝日キャスター 江森 陽弘 「子どもの環境を考える」
教育講座 第2回	7月12日 約100人 総合福祉センター	文蔵小学校教諭 大畑 佳司 「つまずく子どもー親の役割, 教師の取組み」
教育講座 第3回	7月16日 約250人 グリーンホール(小)	作家 高 史明 「子どもの心の傷とうめきをどうとらえるか」
児童文学講座	11月7・21日各60人 総合福祉センター	豊川保育園保母 中村 亜子 「子どもの成長と絵本」
手袋人形講習会	3月10日 20人 市民センター	人形作家 三木 和子 「ねずみくん」人形の製作

(4) 著者を囲む会

著者を囲む会	10月5日 約50人 総合福祉センター	作家 田久保 英夫 テキスト「海 図」
--------	------------------------	------------------------

(5) 国際平和年記念行事

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
平和鼎談	8月6日 約200人 グリーンホール(小)	映画監督 岡本愛彦, 作家 中野孝次, 評論家 山川暁夫 「広島原爆の日に平和を耕す」
国際平和年 記念講演会	8月20日 約280人 グリーンホール(小)	作家 今西 祐行 「平和への道」ー生き残った命をかかげてー
名画鑑賞会	9月17日 約400人 中央公民館	映画「この子を残して」(原作 永井 隆) 監督 木下恵介/主演 加藤 剛

(6) 映画会

名画鑑賞会	5月10日 約150人 中央公民館	映画「典子は、今」 監督 松山 善三 主演 辻 典子
名画鑑賞会	3月14日 約300人 中央公民館	映画「五番町夕霧楼」(原作 水上 勉) 監督 田坂具隆/主演 佐久間 良子
第一小学校地域 映画会	7月2日 約400人 第一小学校	映画「典子は、今」 (第一小学校PTAと共催)

(7) その他

年賀状展	1月13日～24日 中央館	現在活躍されている作家・評論家・芸術家等の 直筆賀状を展示した。
------	------------------	-------------------------------------

3. 図書館まつり(第15回)

日本の名歌 冬を歌う	2月1日 約250人 中央公民館	声楽家 大内 壽恵磨 焚火, 雷, ベチカ, 雪の降る街を, 砂山ほか
著者を囲む会	2月3日 約150人 市役所 8階	作家 良永 勢伊子 テキスト「赤い夕日の大地で」

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
子どもと親の あそびの広場	2月8日 約120人 富士見分館	人形劇・指あそび・映画・おはなし
座談会	2月8日 約160人 総合福祉センター	劇作家 矢代 静一 「私の太宰治・三島由紀夫」
講演会	2月10日 約250人 総合福祉センター	随筆家 三國 一朗 「肩書きのない名刺考」
名画鑑賞会	2月14日 約800人 グリーンホール	映画「火宅の人」(原作 檀 一雄) 監督 深作欣二 / 主演 緒形 拳
子ども映画会	2月21日 約250人 中央公民館	映画「おじいさんのランプ」 「北極のムーン・カ・ミーシカ」
第14回市民歌会	2月22日 約80人 総合福祉センター	片山貞美, 小暮政次, 宮地伸一の選評と講話
第15回市民句会	2月27日 約280人 グリーンホール(小)	飯田龍太, 井沢正江, 加倉井秋を, 隅羽狩行, 細見綾子, 山口青町, 鷲谷七菜子の選評と俳話
シンポジウム	2月27日 約50人 市民センター	片山幸子, 佐藤浩子, 田中裕子, 中村征子 「今, 子どもたちの読書は - 子どもたちの読 書環境をめぐって -」
文化講演会	2月28日 約250人 総合福祉センター	アナウンサー 加賀美 幸子 「谷越え山越え……冬の晴れ」
児童文学講演会	3月3日 約150人 グリーンホール(小)	児童文学者 松居 直 「子どもが絵本と出会うとき」
鼎 談	3月6日 約120人 中央公民館	図書館情報大学教授 竹内 愁, 文芸評論家 速丸 立, 木挽社社長 藤田三男 「期待される図書館とは」

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
作家の筆蹟 横顔展	2月1日～21日 西友調布店	これまで図書館を訪れた作家, 評論家等の顔写 真と自筆色紙を展示した。
俳句・短歌展	2月6日～20日 中央公民館	創作作品を揮毫した色紙や短冊を一堂に展示し た。(俳句・短歌サークル会員)
日本画展	2月22日～3月5日 西友調布店	日本画技法を学ぶ4サークルが一堂に会し, 一 般に展示した。(指導 田中興之子)

4. 調布ブッククラブ

図書館と図書の利用を促進し、図書では得られない作品の背景、著者の思想やその形成を探り、より深く作品を鑑賞するため、各地の文学史跡を訪れる文学散歩は、参加者の高い学習意欲と連帯に支えられ、図書館を学習の場とする、自主的な市民のサークルを数多く生み出した。これらの独立した読書会や研究会は開かれた市民の学習、創造の場となる知的共同体の実現を目的に連繫し、昭和48年2月“調布ブッククラブ”が発足した。現在、「読むこと」「書くこと」そして「どう生きるかを考える」をテーマに親睦を深め、相互啓発を促すサークルの学習を核として、幅広い活動を展開している。当初、図書館の援助が大きな役割を果たしていたが、現在では市民の自主的な活動が盛んになり、自由な生涯学習の場として定着しつつある。

なお、昭和61年度末の会員数は691人であった。

(i) 事業

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
公開合同読書会	6月13日 約20人 協和銀行	講師 山口 清次郎 「佩銃」(井上 靖著)
公開読書会	10月8日 約20人 若葉分館	文芸評論家 速丸 立 「椋鳥」(古井由吉著)
公開読書会	11月14日 約20人 協和銀行	講師 山口 清次郎 「三匹の蟹」(大庭みな子著)
公開三島由紀夫 を読む会	6月13日 約20人 三菱銀行	文芸評論家 金子 昌夫 「美德のよろめき」(三島由紀夫著)

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
座談会	6月12日 約120人 グリーンホール(小)	版画家 関野 幸一郎 「太宰治、志功と私」
人から学び 本から学ぶ 感謝の集い	12月23日 約300人 中央公民館	公演 林 洋子 クラムボンの会 「宮沢賢治の世界」
団体映画鑑賞会	6月3日 約1000人 グリーンホール	映画 「植村直己物語」 監督 佐藤純弥 / 主演 西田 敏行
団体映画鑑賞会	8月2日 約900人 グリーンホール	映画 「ガンジー」 監督 リチャード・ア ッテンボロー / 主演 ベン・キングズレー
団体映画鑑賞会	9月27日 約800人 グリーンホール	映画 「新・喜びも悲しみも幾歳月」 監督・脚本 木下恵介 / 主演 加藤 剛
団体映画鑑賞会	3月7日 約800人 グリーンホール	映画 「鹿鳴館」 (原作 三島由紀夫) 監督 市川 崑 / 主演 浅丘 ルリ子
団体観劇会	4月19-21日 約150人 紀伊国屋ホール	「地の乳房」 (原作 水上 勉) 演出 鈴木 完一郎
団体観劇会	4月29日 約1450人 グリーンホール	「欲望という名の電車」 (原作 テネシー・ ウィリアムズ) 出演 杉村春子、北村和夫
たきおん 公開合評会	5月11日 約20人 総合福祉センター	社会教育指導員 林 一夫 文芸誌 「たきおん」 17号
たきおん 公開合評会	11月9日 約20人 市民センター	社会教育指導員 林 一夫 文芸誌 「たきおん」 18号
日本画展	5月30日-6月10日 西友調布店	日本画創作4サークル合同の展示 (指導 田中 與之子)
緑蔭日本画展	6月22日-7月10日 西友調布店	日本画創作4サークル合同の色紙展 (指導 田中 與之子)

事業名	期日・参加人数・会場	講師及び内容
秋麗日本画展	11月6日~18日 西友調布店	日本画創作4サークル合同の展示 (指導 田中 與之子)
俳句集・短歌集 の刊行	7月10日	句集 「草 笛」 歌集 「青葉潮」
随想集の刊行	11月1日	「扉」 創刊号 (指導 林 一夫 / 発行 随想を書く会)

(2) サークル

ア 読書グループ

グループ名	定例日・会場	講師	テキスト
あすなろ読書会	第1金曜日 午前 中央館	社会教育指導員 浅野 哲郎	「紅き唇」連城三紀彦著, 「凧」水上 勉著他9冊
柏 読 書 会	第4木曜日 午後 中央館	社会教育指導員 林 一夫	「友情」武者小路実篤著,「武蔵野」国木田独步著他9冊
名作読書会	第2金曜日 午前 中央館	社会教育指導員 林 一夫	「猟銃」井上 靖著,「白痴」 坂口安吾著他10冊
読 書 会 夜行列車	第2火曜日 夜間 中央館		「海図」田久保英夫著,「橋 の火」古井由吉著他8冊
若 菜 読 書 会	第1・3水曜日 午後 若葉分館		「源氏物語」を年間のテキスト に選び学習会を実施
古典文学を 読む会	第1土曜日 午後 若葉分館		年間のテキストに「枕草子」 を選び読書会を実施
ふたば読書会	第4水曜日 午前 若葉分館	社会教育指導員 浅野 哲郎	「金閣寺」三島由紀夫著,「冬 の花火」渡辺淳一著他9冊

グループ名	定例日・会場	講師	テキスト
七宝読書会	第2水曜日 午前 富士見分館	社会教育指導員 浅野 哲郎	「亀遊の死」有吉佐和子著 「風立ちぬ」堀辰雄著他8冊
こだま読書会	第3木曜日 午前 富士見分館	社会教育指導員 浅野 哲郎	「波」立原正秋著、「羅生門」 芥川龍之介著他9冊
針布読書会	第3木曜日 午後 神代分館		「みちのくの人形たち」深沢七 郎著他9冊
白鳥読書会	第1木曜日 午前 神代分館	社会教育指導員 浅野 哲郎	「知られざる傑作」バルザック 著、「平家物語」他5冊
緑ヶ丘読書会	第4水曜日 午前 緑ヶ丘分館	社会教育指導員 林 一夫	「女の肖像」芝木好子著、「高 野聖」泉 鏡花著他9冊
やまなみ読書会	第1火曜日 午前 深大寺分館	社会教育指導員 浅野 哲郎	「昔も今も」山本周五郎著、 「錦繡」宮本 輝著他9冊
宮の下読書会	第2火曜日 午前 宮の下分館	社会教育指導員 林 一夫	「足摺岬」田宮虎彦著、「曲り 角」神吉拓郎著他9冊
つくし読書会	第3火曜日 午後 多摩川地区	社会教育指導員 林 一夫	「兎の眼」灰谷健次郎著、「花 影」大岡昇平著他8冊
芙蓉読書会	第2土曜日 午前 国領分館	社会教育指導員 浅野 哲郎	「万葉集」、「夜あけ朝あけ」 住井すゑ著他9冊
読書を たのしむ会	第2金曜日 午前 協和銀行		「蟹」河野多恵子著、「安土往 還記」辻 邦生著他9冊

イ 研究グループ

近代女流文学 を学ぶ会	第4火曜日 午後 市民センター	大東文化大学教授 渡辺 澄子	明治以降活躍した女流文学者の 作品を通して学習
----------------	--------------------	-------------------	----------------------------

グループ名	定例日・会場	講師	内容
民俗学入門の会	第1水曜日 午前 福祉センター	日本民俗学会会員 菊地 正	日本人の身近かな生活に係りを もつ伝承から民俗学を学習
三島由紀夫 を読む会	第2木曜日 午後 横浜銀行	近代文学研究家 織田 保夫	世界的に知られた作家・三島由 紀夫の作品を読み学習
枕草子を読む会	第4日曜日 午前 公民館ほか	国文学者・歌人 片山 貞美	枕草子の解釈を通して、平安朝 文学について考察
私の昭和史を 読む会	第3金曜日 午前 中央館	前調布図書館長 萩原 祥三	「証言 私の昭和史」を読み身 近な現代史を学習
現代作家研究 互業会	第2水曜日 午後 若葉分館	文芸評論家 遠丸 立	現代の代表的作家の作品を中心 に人と作品を考察
万葉集を読む会	第3土曜日 午後 第百生命	国文学者・歌人 片山 貞美	古典文学の代表的作品である万 葉集を読み深める
赤彦・茂吉を 読む会	第3木曜日 午後 横浜銀行	歌人 宮地 伸一	島木赤彦の人と作品を考察し言 葉を探った
聖書を読む会	第4水曜日 午前 中央館	立教女学院教授 赤司 道雄	聖書を歴史的、宗教思想史的観 点から学習
仏典に親しむ会	第1水曜日 午前 市内寺院	指導 長谷 瑞英 指導 本多 慈昭	仏典と日常生活の係りについて、 法句経、法華経を学習
朗読奉仕 語りの会	第2・3木曜日 夜間 公民館		目の不自由な人のための朗読テ ープの作成と技術の学習
論語を読む会	第4木曜日 午前 中央館	指 導 職 員	世界的な古典である論語の素読 を通し解釈する

ウ 創作グループ

グループ名	定例日・会場	講師	内容
みちくさ	第3木曜日 午前 深大寺分館	指導員 職員	小説・短歌・俳句などの創作と合評
随想を書く会	第3土曜日 午前 神代分館	社会教育指導員 林 一夫	随想の創作と合評を行い、優れた創作作品を全員で鑑賞
綴り方サークル	第1・3火曜日 午前 神代分館	詩人 菅原 克己	生活に根ざした文章の創作を学習
たきおん	第2日曜日 午後 公民館ほか	社会教育指導員 林 一夫	文芸作品を創作し、文芸誌「たきおん」を発行
童話創作の会	第3金曜日 午前 中央館	児童文学者 西本 鶏介	会員が個々に童話を創作し、講師を中心に全員で学習

エ 俳句・短歌グループ

※ 内容は、俳句及び短歌の創作と合評

グループ名	定例日・会場	講師	内容
火曜句会	第2火曜日 午後 神代分館	指導員 緒方 梧葉	
水曜句会	第4水曜日 午後 若葉分館	指導員 職員	
く(にすい)句会	第2水曜日 午後 横浜銀行	指導員 職員	
木曜句会	第1木曜日 午後 公民館他	指導員 岡田 信成	
に(もく)句会	第2木曜日 午後 横浜銀行	指導員 職員	
金曜句会	第2金曜日 午後 公民館他	指導員 原田走日朗	
みずき句会	第2金曜日 午後 横浜銀行	指導員 職員	
きら句会	第3金曜日 午後 横浜銀行	指導員 職員	
たづくり句会	第3・4木曜日 午後 公民館他	指導員 原田走日朗	

グループ名	定例日・会場	講師	内容
つつじヶ丘句会	第1火曜日 午後 岡田宅	指導員 岡田 信成	
合同句会	第4土曜日 午後 公民館他	指導員 斎藤 杏子他	
ふうしや句会	第2土曜日 午後 市民センター	指導員 若月 瑞峰	
せいじやう歌会	第4日曜日 午前 公民館他	歌人 小暮 政次	
みちやう歌会	第4日曜日 午後 公民館他	国文学者・歌人 片山 貞美	
みづみづ歌会	第3金曜日 午後 公民館他	国文学者・歌人 片山 貞美	
からすうり歌会	第2月曜日 午後 羽入宅		
ふくじやう福寿草歌会	第4金曜日 午前 神代分館	指導員 職員	

オ 絵画グループ

※ 指導 田中與之子(日本画家) / 内容 日本画の創作と作品発表

しゆさい彩会	第1・3土曜日 午前 中央館他	へきさい彩会	第1・3土曜日 午後 公民館他
さいが雅会	第1・3火曜日 午前 中央館	さいやう耀会	第1・3火曜日 午後 公民館他

カ その他

グループ名	定例日・会場	講師	内容
古典講読の会	第2木曜日 午前 中央館		ラジオ放送「古典講読」の源氏物語を聞き学習
文学散歩同好会	5月26日～27日 群馬県前橋市、吾妻溪谷	前橋図書館長 佐藤寅雄、前前橋図書館長 萩原進	“詩人のふるさと朝太郎、恭次郎、信吉の前橋と牧水の吾妻溪谷の新緑”

グループ名	期日・会場	講師	内容
文学散歩同好会 ※ この他に、 都内日帰り4回 近県日帰り10回 を実施	9月21日～23日 岩手県浪民町、花巻市、遠野市	遠野市立図書館 似内 邦雄	“啄木、賢治、光太郎の岩手山麓と柳田国男の「遠野物語」、早池峯山”
	12月1日～2日 新潟県上越市、糸魚川市	児童文学者 杉みき子、糸魚川市職員 松野 功	*「赤い蠟燭と人魚」の小川未明の高田と御風、鏡花、鵜外、冬二の直江津、糸魚川”
	3月9日～10日 千葉県天津小湊町、鴨川市	鴨川市文化財調査委員 石井 守	“「春」の藤村、蕨石の安房小湊と「花」の田宮虎彦、鵜外の鴨川”

5. 地域文庫

市内親子読書グループ(長流文庫)

文庫名	代表者	地域	担当館
つつじ文庫		西つつじヶ丘	つつじヶ丘分館
たんぼぼ文庫		深大寺元町	深大寺分館
しゃぼん玉文庫		飛田給	宮の下分館
ばたぼん文庫		染地	染地分館
すぎな(B)文庫		染地	〃
ふたば文庫		染地	〃

市内に点在する文庫は6団体である。大規模な地域文庫は、分館整備にともなって発展的解消し、現在の各文庫の多くは家庭文庫といえよう。

小規模ながらも幼児を中心としたこれらの文庫は、図書館とは一味違うアットホームな雰囲気、熱心な市民の運営によって支えられている。

図書館側からは、図書の貸出のみに終らず、情報の提供・ストーリーテリング・本の読み聞かせ等を行い、積極的な協力を続けている。

※ 手袋人形講習会……年一回開催、61年度はねずみを製作(P 86参照)

※ 児童文学講座・講演会等のお知らせ……図書館主催事業を優先的に通知

VII 視聴覚ライブラリー

今年度は、視聴覚教育活動の普及と視聴覚ライブラリーの利用促進を図るために機材、教材を整備し、下記の事業を実施した。

1. 事業

(1) 16ミリ映写機操作認定講習会

映写機の基礎的な構造の理解と操作技術の修得に重点を置いて、フィルムの取扱いや映写会の安全運営についても理解を深め、市内各地域での視聴覚教育活動の普及と映画会の安全な運営に役立つものとした。

期日 第1回 5月28日～6月1日 第2回 6月24日～6月28日 修了者 55人

(2) 16ミリ映写機検定

16ミリ映写機及びフィルムの安全利用のため、小・中学校、市内事業所等の保有する16ミリ映写機の機能等の検定を行った。また、この検定は年1回であるが、新規購入分の映写機については随時実施した。

期日 6月4日～6月9日(3日間) 検定台数 79台

(3) 16ミリフィルム試写と研修会

毎月1回、テーマを決めて当ライブラリーの所蔵フィルムや試写フィルムを上映し、映画会のフィルム選定に役立つ内容とした。同時に、操作技術修得者を対象とする映写機操作の実習を実施し、フィルムと機材の安全利用の徹底を図った。また、機材・教材の利用案内と情報交換も積極的に実施した。

(4) 地域における映画会の指導・援助

映画会の開催、フィルムの選定に関する相談等、地域の視聴覚活動の窓口として、積極的に活動し、地域映画会の援助・育成を行った。さらに、研修会等を通して映写機の安全操作、実際の映写会場の管理を指導し、映画会の開催に関する幅広い知識の普及に努めた。

2. 視聴覚機材・教材の利用状況

昭和61年度の利用状況をみると最も利用の多いのは、16ミリフィルムである。市内各施設、地域の子ども会等で、年間を通して利用されているが、特に夏休み期間と年末の時期は、親子映画会や行事の中で幅広く活用されている。(表 VII-1)

年度別統計の推移を見ると、16ミリ映写機の貸出しは、減少傾向にある。これは、小・中学校等各施設や事業所に16ミリ映写機が普及したためと考えられる。

近年、8ミリ映写機材の利用が著しく減少しているが、これは、家庭用ビデオ機材の普及が原因として考えられる。(表 VII-2)(図 VII-1)

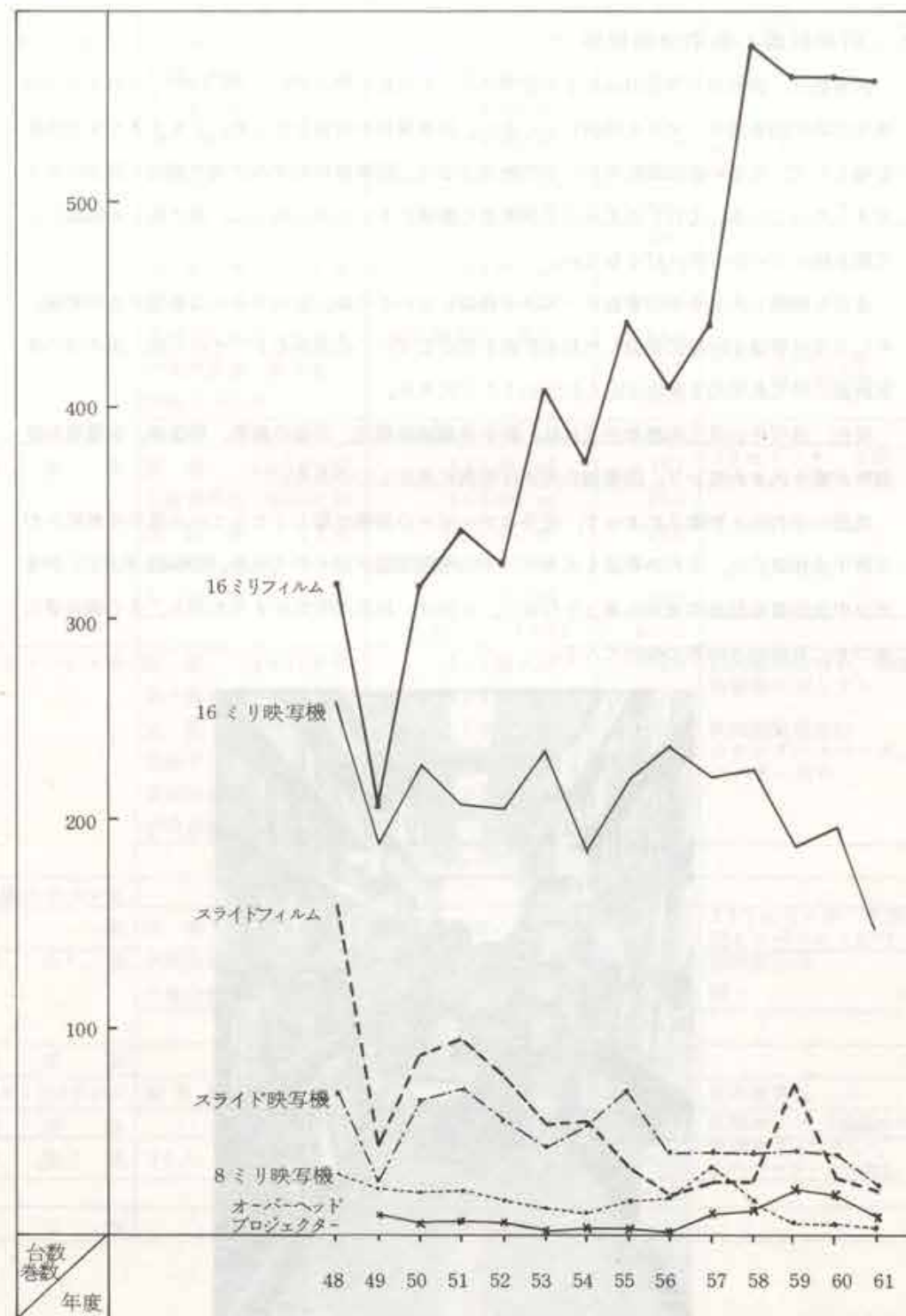
視聴覚機材・教材月別利用状況 (表 VIII-1)

視聴覚機材・教材	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	保有数
16ミリ映写機		3	9	12	17	19	10	10	16	15	8	13	14	146	10
スクリーン		1	5	7	4	10	9	4	12	7	0	1	3	63	10
オーバーヘッドプロジェクター		0	0	0	1	2	0	0	1	0	1	1	2	8	2
スライド映写機		2	1	0	2	0	2	3	4	6	1	1	2	24	7
8ミリ映写機		0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	4
暗幕		1	1	0	0	0	1	1	4	6	1	2	1	18	6
16ミリフィルム		33	45	39	79	81	39	40	64	44	26	38	26	554	274
スライドフィルム		2	0	0	0	0	0	3	1	8	1	3	2	20	261

視聴覚機材・教材年度別利用状況 (表 VIII-2)

視聴覚機材・教材	年度	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
16ミリフィルム		315	205	313	339	322	405	369	438	406	435	572	556	556	554
16ミリ映写機		255	187	225	206	204	232	183	218	234	219	223	185	195	146
スライドフィルム		158	42	86	94	76	53	53	32	19	25	25	72	27	20
スライド映写機		70	26	64	71	56	42	52	69	39	40	39	40	39	24
8ミリ映写機		29	22	20	21	16	12	10	16	17	33	16	5	5	3
オーバーヘッドプロジェクター		10	6	7	6	2	3	3	1	10	12	21	19	8	

視聴覚機材・教材年度別利用状況 (図 VIII-1)



Ⅸ その他

1. 将来計画と新中央館構想

図書館は、調布市の長期計画により整備され、中央館を中心にして10分館が、それぞれの地域で市民に図書館サービスを展開しているが、図書資料の提供をはじめ、さまざまな文化活動の場として、あるいは生涯教育の一つの拠点として、図書館に対する市民の期待と要望は年々大きくなっている。それに応えるべく図書館の整備とサービスの向上は、常に新しい課題として取り組んでいかなければならない。

全市を網羅した公平な図書館サービスを提供していくには、変化する人口動態や生活動線、そして市民要望を的確に把握した将来計画を策定していく必要があり、それらは、調布市の基本計画の中で具体的な解決が図られていくことになる。

現在、進行中の第三次基本計画には、新中央館建設構想、分館の新築、増改修、図書資料整備等が盛り込まれており、図書館の充実を着実に進捗しつつある。

施設の老朽化と狭隘さによって、十分なサービスの提供が難しくなっている現中央館にかわる新中央館建設は、市民の要望も大きく、その早期完成が望まれている。昭和61年度に「調布市立中央図書館計画調査報告書」を作成し、今後は、用地の特定をまちながら、その報告書に基づき、具体的な内容の検討に入る。



新中央館の概要

室名	構成要素	諸元値	面積(m ²)	備考
一般開架室	図書 100,000冊	185冊/m ²	540.0	1.8mピッチ 5段 カウンタースペース、 ブラウジングなど含む
	新聞・雑誌 500誌	185誌/m ²	31.6	
	閲覧席 40席	0.6席/m ²	66.7	
	AV席 20席	0.4席/m ²	50.0	
	通路その他のスペース	上記面積合計と同値	688.3	
	小計	1,376.6	=1,380.0	
ハンディキャップコーナー	資料スペース		20.0	4人 10m×3室 (内1室は録音室)
	閲覧席 10席	0.4席/m ²	25.0	
	打合せスペース 6人用	0.26人/m ²	23.1	
	通路その他のスペース	上記面積合計と同値	68.1	
	対面朗読室 録音室 作業スペース		30.0 20.0	
	小計	186.2	= 185.0	
児童室	図書 15,000冊	111冊/m ²	135.1	1.8mピッチ 3段 空きスペース 1/3
	児童資料室 5,000冊	185冊/m ²	27.0	
	閲覧席 12席	0.6冊/m ²	20.0	
	通路その他のスペース	上記面積合計と同値	182.1	
	お話し室 40席	1席/m ²	40.0	
	小計	404.2	= 400.0	
レファレンス室	図書 10,300冊	111冊/m ²	92.8	新聞縮刷版含む、低書架・ 高書架同数とする 新聞閲覧席含む カウンタースペース、展示 コーナー含む
	郷土資料 3,000冊	185冊/m ²	16.2	
	閲覧席 60席	0.6席/m ²	100.0	
	通路その他のスペース	上記面積合計と同値	209.2	
	共同研究室 2室 研究個室 3室	20m ² /室 4m ² /室	40.0 12.0	
	小計	470.2	= 470.0	
特殊コレクション室			100.0	
書庫	図書 100,000冊	200冊/m ²	500.0	1.35mピッチ 7段 空きスペース 1/7
	中集会室 1室		200.0	
	小集会室 3室	50m ² /室	150.0	
	小計		350.0	
喫茶室			50.0	
スタッフラウンジ	館員数 35人	2m ² /人	70.0	更衣室含む
館長室			60.0	応接スペース、小会議スペース含む
事務室	35人	8m ² /人	280.0	視聴覚ライブラリー、 製作ラボラトリー含む
		計	3,845.0	
その他		上記面積の30%		

1,155.0
合計 5,000.0

2. 貸出制度と開館時間

調布市立図書館館則<抜粋>

(個人貸出)

第9条 館長は、図書資料を個人に貸出することができる。

2. 図書資料の個人貸出しを受けようとする者は、個人登録票によらなければならない。
3. 個人登録票は調布市内に住居を有し、又は調布市内に通勤・通学している、身元確実な者に対し、本人の請求によりこれを交付する。
4. 個人登録票の有効期間は、3年とする。
5. 個人登録票は貸与若しくは譲渡してはならない。貸与され、若しくは譲渡され、または紛失届の出された個人登録票は無効とする。
6. 個人貸出しの出来る図書資料は原則として3冊(部・種)以内とする。
7. 図書資料の貸出期間は14日以内とする。
8. 個人貸出しを受けようとする者に対する個人登録票は各館ごとに交付する。

(団体貸出)

第10条 図書資料の団体貸出しを受けようとするものは、団体登録票によらなければならない。

2. 団体登録票は社会教育団体、官公署、会社、学校等の代表者の申請により館長が審査の上適当と認めた場合に交付する。
3. 団体登録票の有効期間は1年とする。
4. 館長は、図書資料の団体貸出しを受けた機関、又は団体の代表者に対しその利用状況について報告を求めることができる。
5. 同時に団体貸出しのできる図書資料は原則として100冊(部・種)以内とする。
6. 同一の図書資料の団体貸出期間は3箇月以内とする。

開館時間と休館日

館名	開館時間	休館日
中央館	日曜日	月曜日 第3日曜日 第4日曜日
	火・土曜日	
	水・木・金曜日	
分館	毎日 ただし若葉分館は日曜日のみ	
	10時30分～17時30分 12時00分～17時30分 13時00分～17時00分 10時30分～17時00分	

※ 休館日はこのほか、国民の祝日(この日が月曜日の場合は翌日)

年末年始

臨時休館(その都度お知らせする)

各館の開館時間は、別表のように曜日によって異なっている。

中央館は、夏休み期間中午前10時30分から開館している。

今後の課題として、新中央館の開館を機に中央館の開館時間の延長を検討していく必要がある。

開館日数と開館時間

		月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開館日数	中央館		23	23	23	25	25	21	24	22	22	20	21	23	日 272
	分館		23	18	19	25	25	21	24	22	22	20	21	23	日 263
開館時間	中央館		143	148.5	144.5	155.5	157	137.5	148.5	144.5	130.5	125	132	144.5	時間 1,711
	若葉分館		99.5	79.5	86	107.5	110	91.5	103.5	95.5	93	87.5	91.5	102	時間 1,147
	他九分館	各館一月当り	92	72	76	100	100	84	96	88	88	80	84	92	時間 1,052
		合計	828	648	684	900	900	756	864	792	792	720	756	828	時間 9,468
合計	開館日数		253	203	213	275	275	231	264	242	242	220	231	253	日 2,902
	開館時間		1,070.5	876	914.5	1,163	1,167	985	1,116	1,032	1,015.5	932.5	932.5	1,074.5	時間 12,326

3. 運営組織

1. 図書館運営に関する条例・規則は次のとおりである。

- (1) 調布市立図書館設置条例(昭和41年3月30日条例第10号)
- (2) 調布市立図書館館則(昭和41年3月30日教育委員会規則第1号)
- (3) 調布市立図書館処務規程(昭和41年3月30日教育委員会規則第1号)
- (4) 調布市立図書館職員の勤務時間・休憩時間等に関する規程(昭和41年4月16日教育委員会規則第4号)
- (5) 調布市視聴覚ライブラリー設置規則(昭和45年11月11日教育委員会規則第5号)
- (6) 調布市視聴覚ライブラリー運営要綱(昭和45年11月1日教育委員会要綱)
- (7) 調布市立図書館録音テープ図書貸出要綱(昭和56年7月25日教育委員会要綱第3号)
- (8) 調布市立図書館協力員の設置および勤務に関する内規(昭和50年4月1日教育委員会内規)
- (9) 調布市立図書館集会室使用基準(昭和57年9月1日教育委員会基準)

調布市立図書館処務規程(抜粋)

(係の設置)

第2条 館に次の係を置く。

- (1) 庶務係
- (2) 図書係

(分掌事務)

第3条 各係の分掌事務は、次のとおりとする。

庶務係

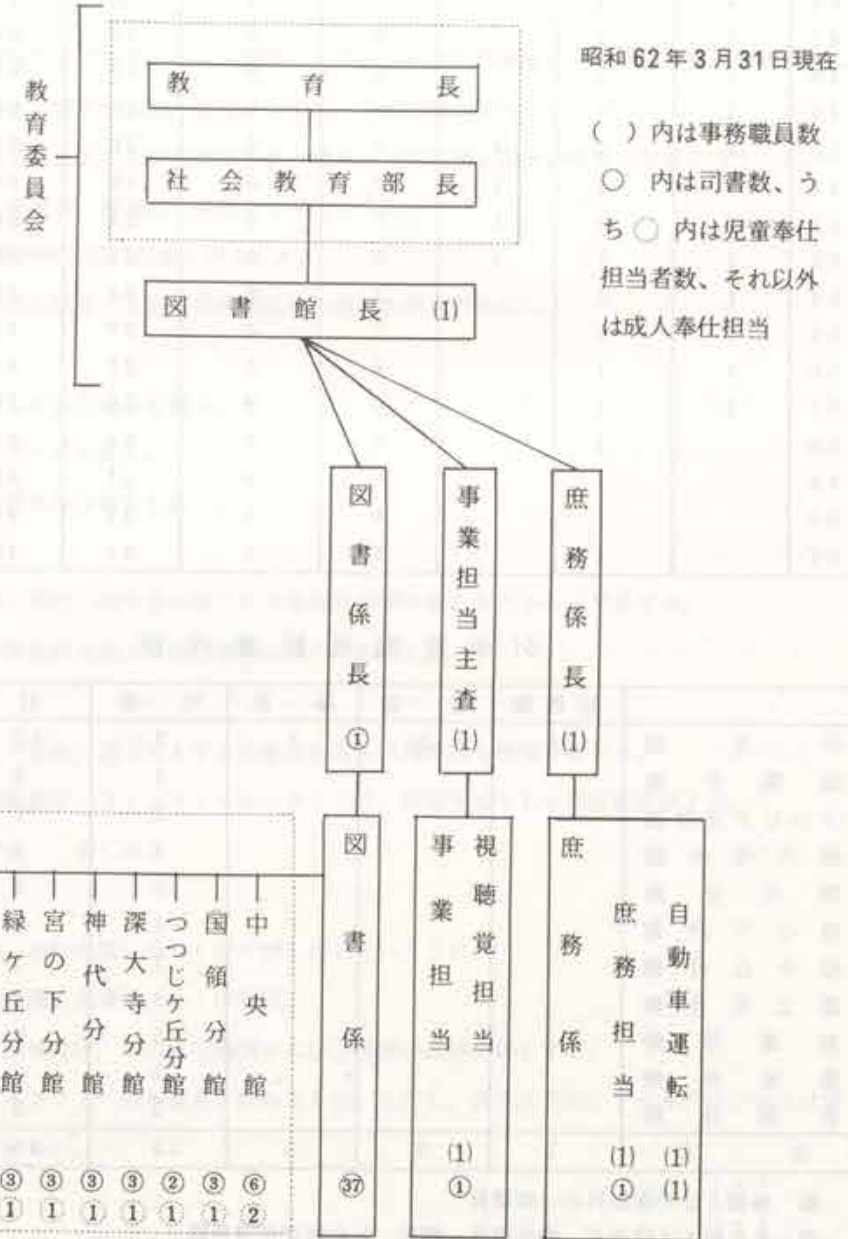
- (1) 公印の保管に関する事。
- (2) 文書の収受、発送に関する事。
- (3) 施設、設備の維持管理に関する事。
- (4) 企画運営統計及び調査に関する事。
- (5) 関係各機関との連絡に関する事。
- (6) 予算の編成及び執行に関する事。
- (7) 館内の取締りに関する事。
- (8) その他、他係に属さない事項に関する事。

図書係

- (1) 図書資料並びに視聴覚資料の収集、整理、保管及び利用に関する事。
- (2) 整本及び修理に関する事。
- (3) 読書案内及び読書相談に関する事。

- (4) 読書会、研究会、講演会、映写会、鑑賞会等の開催及び奨励に関する事。
- (5) 郷土資料に関する事。
- (6) 図書室の利用並びに管理に関する事。
- (7) 図書資料の相互貸借に関する事。

<組織図>



年度別職員数の推移

年度	名誉館長	館長	副館長	事務	中央館司書	分館司書	計	その他
41	1	(兼)1		2	2		6	1
42	1	1		2	4		8	1
43	1	1		3	4		9	2
44	1	1		4	4	2	12	2
45	1	1		4	4	4	14	2
46	1	1		3	4	8	17	2
47	1	1		5	5	10	22	3
48	1	1		5	6	10	23	4
49	1	1		6	5	18	31	6
50	1	1	1	7	5	20	35	8
51	1	1	1	7	6	20	36	7
52	1	1	1	7	6	22	38	6
53	1	1	1	7	6	23	39	8
54	1	1		7	6	24	39	8
55	1	1		7	6	27	42	8
56	1	1		8	6	27	43	7
57	1	1		6	8	30	46	7
58		1		6	8	31	46	8
59		1		6	8	31	46	8
60		1		5	9	31	46	8
61		1		5	9	31	46	8

61年度職員配置内訳 (昭和62.3.31)

	管理職	係長	事務	司書	計	その他
中央館	1	3	3	8	15	7
国領分館				3	3	
つつじヶ丘分館				2	2	
深大寺分館				3	3	
神代分館				3	3	
宮の下分館				3	3	
緑ヶ丘分館				3	3	
富士見分館				5	5	
若葉分館				3	3	1
染地分館				3	3	
佐須分館				3	3	
合計	1	3	3	39	46	8

※ 事務とは司書以外の一般職員

※ その他とは協力員、委託要員、嘱託、社会教育指導員等

調布市視聴覚ライブラリー運営要綱

(昭和45年11月1日)
教育委員会要綱

第1章 総則

(目的)

1. この要綱は、調布市教育委員会規則に基づき、視聴覚ライブラリーの運営について必要な事項を定めることを目的とする。

(事業)

2. 調布市視聴覚ライブラリー(以下調布市AVLという)の事業は、おおむね次の事業とする。

- (1) 視聴覚教材、機材を収集、整理、保管し、その利用を図ること。
- (2) 調布市AVLの利用及び視聴覚教材、機材の利用に関し調査研究及び指導を行うこと。
- (3) 試写会、鑑賞会、講習会、研究会等を行うこと。
- (4) 16ミリ発声映写機の登録を行うこと。
- (5) その他前項に規定する設置目的達成に必要な事業を行うこと。

(職員)

3. 調布市AVLに次の職員を置く。

- (1) ライブラリー長を置く。
- (2) 運営に必要な専任職員を置く。

(職員の資格)

4. ライブラリー長は、調布市に属する主管課長の職にあるものをもってあてる。

- (2) その他の職員は当該主管課の職員がこれにあたる。

(職員の職責)

5. ライブラリー長は、調布市AVLの事務を掌り所属職員を指揮監督する。

- (2) その他の職員は、ライブラリー長の命をうけ、調布市AVLの事務に従事する。

第2章 貸し出し

(対象)

6. 視聴覚機材、教材の貸し出し(以下貸し出しという)は

- (1) 市内の幼稚園、保育園、小・中学校。
- (2) 社会教育関係団体、その他公機関および公機関の関係団体とする。
- (3) その他ライブラリー長が適当と認めたもの。ただし、営利を目的とするものについては貸し出しを行わない。

(範囲)

7. 貸し出しは1回の申込みについて次の範囲とする。ただし特別の理由の認められる場合はこの限りでない。

(1) 期間、貸し出しの日より3日以内。

(2) 貸し出し品目及び制限数については別表のとおりとする(略)。

(方法)

8. 貸し出しを受けようとする者は、あらかじめ連絡し、3日前までに様式第1号の「視聴覚教育教具、教材借用申請書」を提出すること。

(機材操作等について)

9. 16ミリ映写機ならびに16ミリ映画フィルムの操作をする者は、16ミリ発声映写機操作講習会修了証の所持者もしくは教育委員会の実施する一定の講習を受講し、技術検査に合格した者とする。

(転用の禁止)

10. 貸し出し機材等は転貸してはならない。

(使用料)

11. 貸し出しについては全て無料とする。ただし、利用者が貸し出し機材等を亡失し、または毀損した場合には現品または金銭をもって賠償させることができる。

(貸し出しの禁止)

12. 貸し出しを受けた者が教育委員会の諸規程に違反した場合は以後そのものの申込みに対してこれを拒否することがある。

(返納及び報告)

13. 貸し出しを受けた者は、貸し出し期間内に様式第2号「視聴覚教育機材利用報告書」又は様式第3号の「視聴覚教材利用報告書」を添えて返納しなければならない。

(2) 貸し出しを受けた者は、返納と同時に機材、教材の異常の有無について報告しなければならない。

(施行)

14. この要綱は、昭和45年11月1日より施行する。

調布市立図書館録音テープ図書貸出要綱

(昭和56年7月25日)
教育委員会要綱第3号

第1 目 的

この要綱は、一般出版物のままでは図書資料を利用できない者に教養、調査、レクリエーション等に係る聴覚資料(以下「録音テープ図書」という。)を貸し出すことにより、図書館利用の拡大を図ることを目的とする。

第2 対 象

録音テープ図書の貸出を受けることができる者(以下「利用者」という。)は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 視聴障害者
- (2) 寝たきり老人
- (3) 重度の肢体不自由者
- (4) 前各号に掲げるもののほか、図書館長が適当と認めたる者

第3 利用方法

録音テープ図書の利用方法は、調布市立図書館館則(昭和41年調布市教育委員会規則第1号)第6条、第9条及び第10条の規定の例による。ただし、図書館長が特に必要があると認めるときはこの限りでない。

2 第2第1号に規定する者の利用方法は、郵便法(昭和22年法律第165号)第26条第1項第3号の規定により差し出すことができる。

第4 損害賠償の義務

利用者は、録音テープ図書の利用に際し、当該録音テープ図書を故意又は重大な過失により亡失又は著しく汚損若しくははき損した場合は、現品又は相当の代価をもって損害額を賠償しなければならない。

附 則 この要綱は、昭和56年8月1日から施行する。

調布市立図書館集会室使用基準

(昭和57年9月1日
教育委員会基準)

第1 この基準は、調布市立図書館集会室(以下「集会室」という。)の使用について、必要な事項を定めるものとする。

第2 集会室の名称及び収容人員は、次のとおりとする。

名 称	収 容 人 員
調布市立図書館深大寺分館集会室	30人
調布市立図書館神代分館集会室	30人
調布市立図書館宮の下分館集会室	40人
調布市立図書館富士見分館集会室	40人
調布市立図書館若葉分館集会室	55人

第3 集会室の使用時間は、休館日を除き次のとおりとする。ただし、調布市立図書館長(以下「館長」という。)が特に必要があると認めるときはこの限りでない。

	午 前	午 後	夜 間
時 間	9時30分から 12時まで	1時から 5時まで	6時から 9時まで

備考 神代分館集会室及び若葉分館集会室は、夜間の使用ができないものとする。

第4 集会室を使用しようとする者は、使用申請書(第1号様式)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 前項に規定する使用申請書の提出は、使用しようとする日(以下「使用日」という。)の1月前(その日が休館日に当たるときは、その直後の開館日)から、使用日の前日(その日が休館日に当たるときは、その前日)までとする。ただし、館長が特に必要があると認めるときはこの限りでない。

3 集会室の使用は、官公署及び市民団体並びに市民サークルが主催する会議又は催物とし、個人が主催する催物等は使用できないものとする。

第5 使用の承認は、申込みの順序による。ただし、申込みが同時のときは、協議若しくは抽せんにより定める。

2 館長は、第4の申請について使用を承認したときは、使用承認書(第2号様式)を当該申請をした者に交付する。

第6 使用の承認を受けた者(以下「使用者」という。)が第4の規定により承認を受けた事項を変更するときは、その内容を速やかに館長に届け出て、その承認を受けなければならない。

第7 館長は、次の各号の一に該当すると認めるときは、その使用を承認しない。

- (1) 公益を害し、風俗を乱すおそれがあるとき。
- (2) 営利を目的として使用するとき。
- (3) 管理上支障があるとき。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、館長が使用を不相当と認めるとき。

第8 集会室の使用は、無料とする。

第9 使用者又は入場者は、係員の指示に従って、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 入場人員は、適正収容人員を標準とすること。
- (2) 施設及び設備の管理を適正に行うこと。
- (3) 火気又は電熱器等を使用するときは、あらかじめ係員の許可を受け、火災予防及び事故防止に万全を期すること。
- (4) 集会室での飲食はしないこと。ただし、館長が特に必要があると認めるときはこの限りでない。
- (5) 館長の許可なく、物品を販売し、又は金品の寄附募集等を行わないこと。
- (6) 環境衛生上思わしくないものを持ち込み、又は使用しないこと。
- (7) 図書館利用者及び近隣住民の迷惑となるような行為を行わないこと。
- (8) 前各号に掲げるもののほか、館長が特に必要があると認めるとき。

第10 館長は、使用者が次の各号の一に該当すると認めるときは、使用の承認を取消し、又は使用を制限し、若しくは停止することができる。

- (1) 使用の目的に違反したとき。
- (2) この基準、又は承認の条件に違反したとき。
- (3) 著しく騒音又は振動若しくは臭気を発する行為があったとき。
- (4) 災害その他の事故により、集会室の使用ができなくなったとき。
- (5) 工事その他の都合により、館長が特に必要があると認めるとき。

第11 第3に規定する集会室の夜間使用については、次の各号に掲げるところによる。

- (1) 使用者は、使用日午後5時までに係員と鍵の受渡しを行うこと。
- (2) 使用者は、集会室の使用を終了したときは、鍵を所定の位置へ返納すること。

第12 使用者は、集会室の使用を終了したときは、施設及び設備を原状に回復しなければならない。又、第10の規定により、使用を停止され、若しくは使用の承認を取り消されたときも同様とする。

第13 使用者は、集会室の使用を終了したときは、使用報告書(第3号様式)を館長に提出しなければならない。

2. 前項に規定する使用報告書は、使用終了後直ちに提出するものとする。又、夜間に使用した場合は、第11第2号に規定する鍵の返納と共に所定の位置に提出するものとする。

第14 使用者は、集会室の使用に際し、施設及び設備等に損害を生ぜしめた場合は、館長が相当と認める損害額を賠償しなければならない。ただし、館長がやむを得ない理由があると認めるときは、その額を減額し、又は免除することができる。

附 則

この基準は、昭和57年9月1日から施行する。

4. 事務分掌表

昭和62年11月11日現在

館長	副館長	係名	係長	分掌事務	職 種	氏 名	備 考
		庶務	小林忠司	予算の執行に関する事 館の管理に関する事 経理に関する事 広報に関する事 館内の庶務に関する事	司 書 事 務 事 務		
森	金	図	中	中央館の運営・管理に関する事	司 書 司 書 司 書 司 書 司 書		
		座	央	集会、行事に関する事 ブッククラブに関する事 視聴覚ライブラリーに関する事	事 務 司 書 (社会教育)指導員(〃)		布田4-17-5 (81) 7661
	沢	間	直	ハンディキャップサービスに関する事	(嘱 託)		
正		館	社	図書整理等	(委 託) (委 託) (協力員) (協力員)		
克	敬	書	国領分館	国領分館の運営・管理に関する事	司 書 司 書 司 書		国領町3-12-1 (84) 2000
			つつじヶ丘分館	つつじヶ丘分館の運営・管理に関する事	司 書 司 書		西つつじヶ丘 4-23-6 (85) 2000

館長	副館長	保名	係長	分掌事務	職種	氏名	備考
森	金	西	森	深大寺分館の運営・管理に関すること	司書	黒田	深大寺北町 5-6-1 (85) 3350
正	沢	香	間	神代分館の運営・管理に関すること	司書	黒田	西つツヒケ丘 1-40-2 (96) 0054
克	敬	書	直	宮の下分館の運営・管理に関すること	司書	黒田	上石原 3-34-10 (86) 5798
				緑ヶ丘分館の運営・管理に関すること	司書	黒田	緑ヶ丘2-25 03 (300) 7672
				富士見分館の運営・管理に関すること	司書	黒田	富士見町 2-3-26 (81) 7664
				若葉分館の運営・管理に関すること	司書	黒田	若葉町 3-16-13 03 (309) 3411
				染地分館の運営・管理に関すること	司書 (協力員)	黒田	染地3-3-1 (88) 8393
				佐須分館の運営・管理に関すること	司書	黒田	佐須町 4-42-2 (85) 1306

5. 施設状況表

昭和62年10月1日現在

区分	館別	中央館	岡領分館	つツヒケ丘分館	深大寺分館	神代分館	宮の下分館	緑ヶ丘分館	富士見分館	若葉分館	染地分館	佐須分館	資料保存庫
竣工年月日		41.3.31	44.3.31	45.3.28	46.2.28	46.3.31	47.3.31	49.3.31	49.3.31	50.3.31	55.5.19	57.3.31	60.3.15
開館日		41.6.10	44.8.11	45.7.20	46.7.24	46.10.1	47.7.24	49.7.20	49.7.20	50.4.12 50.7.5	55.6.6	57.7.13	60.4.1
建設費(千円)		17,348	9,120	3,774	13,800	17,080	18,000	30,190	30,798	77,654	東京都負担	143,651	45,000
敷地面積(m ²)		585	1,544	270	824	1,986	1,780	800	1,653	879	1,644	2,166	1,072
土地購入費(千円)		市有地	53,100	借地	27,497	84,000	80,000	借地	162,000	市有地	借地	92,867	借地
建築物の造り	構造	鉄筋2階建	鉄筋の階上	コンクリートブロック	鉄骨平家	鉄筋の階上	鉄筋の階上	鉄骨平家	鉄筋の階上	鉄筋コンクリート2階建	鉄筋コンクリート3階建1階部分	鉄筋の階上	鉄骨平家
設計事務所	併設単独	単	保育園併設	単	単	保育園併設	保育園併設	単	保育園併設	単	地域福祉センター都営住宅併設	児童館併設	単
工事請負会社		和設計事務所	板井設計事務所	和設計事務所	板井設計事務所	板井設計事務所	葛建築研究所	つかさ設計事務所	葛建築研究所	和設計事務所	都市建築計画センター	相和技術研究所	杉原設計事務所
所在地		布田4-17-5	岡領町3-12-1	西つツヒケ丘4-23-6	深大寺北町5-6-1	西つツヒケ丘1-40-5	上石原3-34-10	緑ヶ丘2-25	富士見町2-3-26	若葉町3-16-13	染地3-3-1	佐須町4-42-2	上石原2-7-6
電話		81-7661	84-2000	85-2000	85-3350	85-0054	86-5798	300-7672	81-7664	309-3411	88-8393	85-1306	87-2660
床面積(m ²)		609	324	113	257	339	324	240	324	516	482(290(専)192(共))	605	485
職員(司書)		15(8)	(3)	(2)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(5)	(3)	(3)	0
蔵書能力(冊)		55,000	32,000	10,000	24,000	30,000	26,000	24,000	26,000	34,000	37,000	開架35,000 閉架50,000	200,000
施設概況	一般室	230 m ²	175 m ²	26 m ²	90 m ²	126 m ²	111 m ²	120 m ²	136 m ²	146 m ²	153 m ²	245 m ²	電動式書架室 260 m ² 固定式書架室 200 m ²
	児童室	63 m ²	91 m ²	52 m ²	63 m ²	72 m ²	56 m ²	64 m ²	56 m ²	123 m ²	105 m ²	80 m ²	
	集会室	なし	なし	なし	28 m ²	52 m ²	66 m ²	なし	63 m ²	78 m ²	なし	なし	
	成人用座席	67	40	4	12	28	12	24	26	24	21	24	
	児童用座席	14	23	18	22	20	20	25	22	52	12	12	
冷暖房設備	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	

※ (専)専用部分 (共)共用部分

X 年 表

昭和61年度のあゆみ

- 4/ 1 貸出券更新(有効期間1ケ年)
協力員(3人)委嘱
コピーサービス 一枚10円となる
佐須分館 コピーサービス開始 実施館, 中央, 若葉を含め3館となる
点訳ボランティア有償となる
- 4/ 2 地域資料整備のため職員による郷土資料研究会発足
- 4/10 点訳ボランティアの集い
- 4/12 職員人事 新規採用職員(事務) 1人
- 4/16 民俗学入門の会発足
- 4/17 朗読ボランティアの集い
- 4/18 浦和市立南浦和図書館より視察 1人
- 4/22 近代女流文学を学ぶ会発足 ~3/24
- 4/29 多摩地区公立図書館職員親睦ソフトボール大会開催
- 5/ 7 各館内外の看板, 標示板取付
- 5/ 8 「このほんよんで!一歳から六歳までの絵本」増刷 1冊300円で有料頒布
- 5/10 名画鑑賞会「典子は, 今」
- 5/20 調布市生涯教育施設建設推進プロジェクトチーム発足 専門部会として図書館部会と教育会館部会が設けられる
- 5/22 「調布市立図書館開館20周年記念誌」編集委員会発足
- 5/27 特別整理(曝書)国領, 宮の下, 富士見, 柴地, 佐須 ~6/ 5
- 5/28 16ミリ発声映写機操作講習会(夜間の部) ~6/ 5
- 6/ 3 高架下資料保存庫内電動式集密書架設置工事 ~6/27
- 6/ 4 16ミリ発声映写機検定 65台 ~6/ 9
- 6/12 点訳ボランティア養成講座 ~2/26 (延べ14回)
第14回調布ブッククラブ総会(会員数693人)と座談会 関野準一郎「太宰治, 志功と私」
- 6/18 職員を対象に防火訓練について説明会 協力: 調布消防署

- 6/19 静岡県新居町立図書館より図書館協議会委員 視察 8人
御殿場町立図書館より視察
- 6/21 「数字で見る図書館活動」編集開始
- 6/24 16ミリ発声映写機操作講習会(昼間の部) ~6/1
上福岡市, 富士見市, 大井町, 三芳町の各図書館より視察 7人
- 6/25 プロジェクトチーム図書館部会 図書館視察
(小平市立図書館, 八王子市立図書館)
- 7/ 1 防火管理者打合せ会
- 7/ 2 地域 映画会「典子は, 今」
- 7/ 8 協力員の代替1人 委嘱 ~9/6
実習生受入(図書館情報大学4年) 3人 ~7/27
教育講座(江森 陽弘)
- 7/ 9 整理委託要員の代替 1人 委嘱 ~9/10
図書を除籍手続きについてマニュアル作成(除籍簿を廃止し基本カードで処理する)
- 7/12 教育講座(大畑 佳司)
- 7/16 教育講座(高 史明)
- 7/22 整理委託要員の代替 1人 委嘱 ~8/29
夏期特別開館(中央館) ~8/31 協力: 白百合女子大学
- 7/28 中央館電話機取換工事(プッシュ式)本庁のビル電話移行にそなえる 同時に留守番電話装置を取り付ける
- 7/29 「調布市立中央図書館建設基本計画(仮称)」の策定について日本図書館協会へ委託
- 8/ 5 実習生受入(慶応義塾大学3年) 2人 ~8/19
- 8/ 6 平和鼎談(岡本 愛彦, 中野 孝次, 山川 暁夫)
- 8/20 国際平和年記念講演会(今西祐行)
- 8/24 第52回国際図書館連盟(IFLA)東京大会が開催される ~8/27
- 9/16 中央館, 富士見分館がビル電話に切り替わる 番号はそれぞれ(81)7661~7663,
(81)7664に変更
- 9/20 地域講演会(中西 龍)

- 10/ 1 人事異動 庶務係長 国民年金課へ、 庶務係長 秘書課より
- 10/ 5 著者を囲む会(田久保英夫)
- 10/ 8 地域講演会(宮川 ひろ)
- 10/30 名古屋市立豊田小・西中島小教諭 2人視察
協力員 1人 退任
- 11/ 5 協力員 1人 委嘱
- 11/ 6 文化講演会(星 寛治)
- 11/ 7 児童文学講座(中村 砥子) 2回目 11/21
- 11/11 新中央館用図書購入について市内5書店と契約
朗読ボランティア講演会(坂井 清成)
- 11/22 図書館開館20周年記念講演会(小川 剛)
- 11/28 白百合女子大学児童文化学科2年生 28人 緑ヶ丘分館を見学
- 11/29 地域講演会(高 史明)
- 12/ 5 白百合女子大学児童文化学科2年生 27人 緑ヶ丘分館を見学
- 12/ 8 国領分館屋上防水工事開始 ~1/11
- 12/ 9 講演会(青野 忠道)
- 12/10 予約連絡用ハガキを作成する
- 12/22 臨時出勤(館内整理)ただし12/28を代休とする
- 1/11 横浜市立図書館より小学生読書会を見学 5人
- 1/13 年賀状展開催 ~1/25
分館施設整備工事開始 ~3/5
深大寺分館(集会室仕切りジャッター)
宮の下分館(トイレ改修, 排水溝設置)
緑ヶ丘分館(トイレ改修)
佐須分館(児童室南側防水工事)
つつじヶ丘分館(フェンス改修, 網戸取付)
中央, 若葉, 染地, (網戸取付)
- 1/17 地域講演会(中西 龍)
- 1/25 国領分館改修工事について分館担当者との打合せ

- 2/ 1 第15回図書館まつり開催 ~3/6
実習生受入(専修大学 3年) 2人 ~2/14
- 2/12 深大寺分館の図書整理要員 1人 委嘱 ~3/31
- 2/18 協力員 1人 退任
- 2/19 協力員 1人 委嘱 ~3/31
- 2/20 鳩ヶ谷市立図書館より視察
- 3/10 手袋人形講習会(三木 和子)
- 3/13 船橋市東図書館より視察 4人
- 3/14 名画鑑賞会「五番町夕霧楼」



昭和62年版
数字で見る図書館活動

昭和62年12月10日 発行

編集・発行

調布市立図書館

数字で見る図書館活動編集委員会

〒182 調布市布田4-17-5

電話 0424 (81) 7661

印刷 内外印刷

